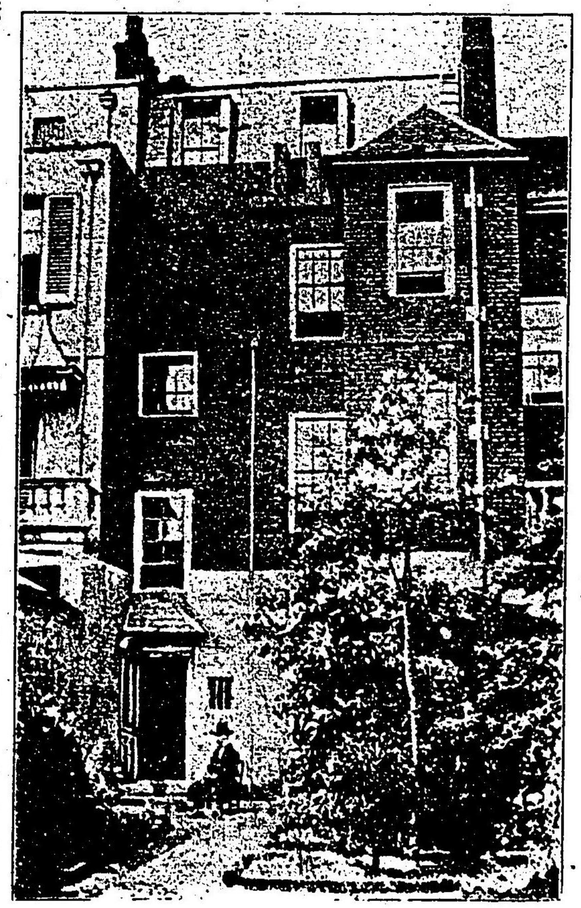
ほ殘つてゐる。而して殊にチエルシーの哲人カーライルの家を訪はんが爲に、此地に來るものが多い。

予は一日海老名彈正、本田增次郎兩氏と共に、此の哲人の家を訪ふたのである。チエルシー堤防に沿ひて、アルバート橋の袂の左なる小園には、畫詩人ロセッチの半身銅像があり、右の小園には、ムシヤクシヤ面て、蘇格蘭の百姓然たるカーライルが、椅子に坐して、手を合せて膝に置き、足を組んで大きな長方形の不格好な靴を前に出してゐる。其下に立ちて瞰視すれば、眼の中には一種慈情の光が籠つて、貧民を愛する心が溢れてゐるやうにも思はれる。予は多年深き敎を蒙つた恩師の像を見て、嗚呼これがカーライルよと驅寄つたのである。

此像の背後に通ずる短い横町が、チエーン、ロウて、其五番地(今の二十四番地)が、即ちカーライルの舊宅なのである。家は小い棟割長屋である。彼は蘇國を去つてロンドンに出てより其死に至るまで四十七年の間、此處を住居として、天下の衆恐を睥睨痛罵しつゝ、『英雄崇拜論』も『過古と現在』も、『佛國革命』も、『フレデリッキ大王傳』も、皆此家の天井裏の書齋否書窟で書いたのである。此家は哲人の沒後暫く廢屋となり、新渡戸博士が初めて之を訪ふた時にも、尙ほ頽破したまゝてあつたが、後カーライル遺跡保存會て、之を修繕保存することゝなり、遺書

遺品を集めてカーライル紀念ミユーゼアムとなし、一人の老婆が番をして、平日一志、土曜日六片の入場料で觀覽させ、『サルトル、レザルタス』や『英雄崇拜論』のカーライル家版を賣り、家の寫眞の繪葉書も賣つてゐるのである。

予等は家の戸の錆びた鐵の門鎚をコツ〳〵敲いた。このノツカーはカーライルや、エマソンの手澤を存するのだと思へば、それに觸るさへが懷かしい。やがて六十歳ばかりの福々しい婆さんが出て來て門を開く。來意



カーライルの家の背面

を通じてはいつた。應接間の、此處にも故聖の遺品書籍などを飾つたところで見料を拂ふと、切符をくれた。其切符によりて見ると、予は此家を訪ふた二萬三千六百四十二番目の見物人なのであつた。婆さんは、印刷になつた遺品目錄書を貸してくれて、予等はそれに照らして見て廻つた。此の應接間には、ゲーテ。ビスマーク及び獨帝フレデリッキ等の書簡や、又た『フレデリッキ大王傳』著述の恩賞として、普魯亞皇室から贈られた勳章などが、ガラス張の箱の中に飾つてある。カーライルの使用したる土製煙管や指輪やペンなど、彼が日常の器具文房具もある。又た宰相ヂスレリーがカーライルを敘爵し年金を與へんとして、カーライルが、左樣なものは入用で無いと拒絶した時の往復書簡も藏せられてゐる。壁間には當年の才女カーライル夫人の俊邁な、そして美しい顏をした肖像數枚が掲げられてある。隣室は夫人の寢室で、粗末な寢臺がある。二階はカーライルの寢室なり、其隣室の來客用に備へた寢室こそ、コンコルドの哲人エマソンがチエルシーの哲人を訪ひて、宿泊したところである。今は番人の部屋になつてゐるやうだ。

三階は即ちカーライルの書窟なのである。壁を二重になし、天井より明を取つて、世上の囂たる俗音を避けて、默想に耽つたところである。彼が二足獸の人間を罵倒し、憐愍したところである。彼が多くの著書は此の窟で成つたのである。壁間にはホイスラーの筆に成つた彼れの肖像が掲げてゐる。又た彼が妻の病氣で轉地した時、書籍を容れて往つた粗木の箱で、之を机に代へて『フレデリッキ大王傳』の一部分を書いたと云ふものが殘つてゐる。

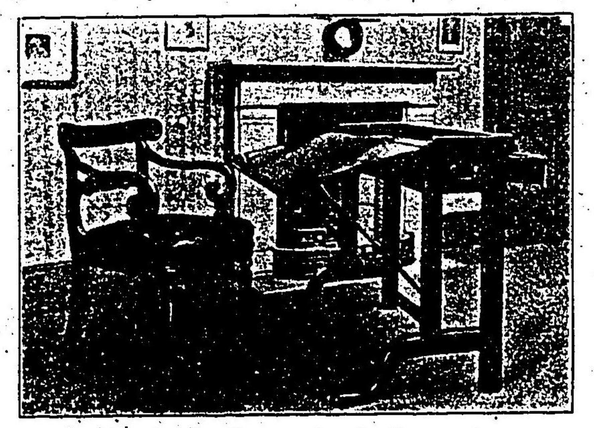
婆さんの案内で、地下室の寫所に入つた。古びてはゐるが清潔に掃除が行屆き、番人の心くばりの程が察せられた。婆さんの云ふことには、カーライル夫人は頗る奇麗好きで、生前もこの通奇麗にしてあつたものだと云ふ。爐棚の上には、長き土燒の煙管が載つてゐる。これはカーライルが用ゐたものなのだ。婆さんの云ふことには、この寫所であつた、一夜詩伯テニソンがカーライルを訪問して來た時、この處で兩人はパイプを吹かしつゝ、互に默して一語をも發せざりしこと一時間半にも亘つた後、テニソンは『サンキュー、サア、實に面白う御坐いました』と暇を告げて歸つたのであると。

寫所から屋後の小庭に出る。塀にはカーライル手植の葛が這ひ纏つて、昔ながらの綠の色を飾つてゐる。紅葉の木もある。數種の草花もある。

應接間に歸ると、婆さんは訪問客名簿に姓名を記入してくれと云ふので、予等は日本字で名名に記入した。一寸其帳簿を繰返して見ると、歷史上文藝上に名の聞えた人の名前も多く見え

る。婆さんはこれがマーク、トウエンだとか、こゝにコナン、ドイルの名があるとか指す。處處には日本人の名も見えた。予等の名の直く前には數人の米國人の名が記してあつた。

予等は繪葉書を買ひ、三人連名にて、日本のカーライリーズたる新渡戸博士、内村鑑三氏等に送つた。予は又た『サルトル、レザルタス』一冊を買ひ、之に今日此家にて求めた由を書き入れた紀念とした。婆さんは裏庭の蔦の葉を摘み來り、これはカーライル遺愛のものなれば、留めて紀念とせ*の姑たりし人の墓もある。又た此の古刹はキングスレーが一小説の材料にも入つた處である。



カーライルの机と椅子

*よと云ふ。婆さんは中々に愛想の好い人である。

予等此家を去り、河岸に出て、第十四世紀に建てられて史上に著名なるチエルシーの古寺、即ちサア、トマス、モーアの首無き遺骸を葬つたところと傳へ、英國武士の典型サア、フイリップ、シドニーの祖母たり、薄命なるジエーン、グレー

之を通りがゝりに打見て過ぎ、扨て何處かて一杯の茶をと捜すと、彼寺と道を隔てゝ並んだところに、屋根の低い、木造の至つて古めかしい、寺と同時代にも建つたらうかと覺しき家がある、軒にはヌーボー式で、ヴアイキング(海賊)時代の船を畫き、下に "The Good Intent" と、確かセキスピアから出た語を書いて、これが此家の名で茶店である。何だか由緒のありさうな所だと思つてはいると、年増の上品な、普通の茶店女とはどうしても受取れぬ婦人が出て、言葉もしとやかに、支那茶にしませうか、錫蘭茶が御望みですかと注文を聞いて、帷一枚の奥の臺所へはいる。予等室内を見渡すと、壁間には數枚の水彩人物畫が懸つてゐる。一隅には机を置いてエッチングに成れる此茶店の繪葉書もあれば、インキ壺あり、其前に赤皮の芳名簿がある。數冊の小説や詩集も置いてある。いよ〳〵以て尋常の茶店て無いことが察せらる。三人てゾヒ〳〵、どうも譯のありさうな處だ、土地がチエルシーだけに風雅人の道樂かなど噂をしてゐる中、主婦が持ち出した支那茶の香氣も味も他ては多く得られぬ煎方だ。主婦にジョーヂ、エリオットの家は何處かと尋ねると、それは知らぬが、ターナーの家を見たか、ホイスラーの家はこれより數軒先て、今も畫家が住んてゐると云ふので、この婦人も畫家に緣ある人てあるやうにも思はれる。されど上品な婦人てあるだけに、失禮だと思つたから、推して穿鑿も出來

ぬ。主婦はやがて彼のアルバムを出して、予等の記名を請ひ、又た何か感想を書き入れてくれよと求むるまゝに、予等は益す、これは面白い茶店であると思ひつゝ、それ〴〵に記名した。

チエルシーの茶店、予等はこれを少時は友人への談柄としてゐたが、數週の後、予は再び上谷君と共に此を訪ふた。此度は先の主婦に加ふるに、年の若い美人も給仕に出た。予等が茶を飲みながら、此家の歴史を問ふたれば、茶店は此春から開店したばかりであるが、此建物はチエルシーの古き家の一であると云ふ。御身は畫家にてもあるか、壁間の水彩畫は何人の作なりやと尋ねたら、これ等は祖父の描きたるものであり、表の看板や、繪葉書は友人某女の筆である。自分は畫家で無い、先頃までチエルシー病院の看護婦を勤めてゐたものであるが、それを辭して茶店を出したのである。このチエルシーには多くの畫室があり、自分は祖父以來畫家の緣故があるので、此店には畫家が多く茶を喫みに來るところとなつてゐるとの話で、予等が數日來の疑團は全く解けた。話の中にも畫家らしき男が何か用があつて、主婦に會ひに來た。

予が三度目にチエルシーへ往き、カーライルの家を叩いた時には、婆さんから、更に一冊の『サルトル、レザルタス』を購ひ、之を新渡戸博士に贈るとの文言を其家で認めた。又た婆さんに乞ひ、自から後庭に出て、彼の葛の一葉を摘みて、書中に挿んだのである。

英京の美術館

凡そ美術館に入つて名畫を見るほど心持の好いことは尠いものだ。殊に氣分のムシヤクシヤする時などに大匠の刷毛の跡を見ると、それが風景畫であらうが、人物畫であらうが、理想畫であらうが、精神が其中に注ぎ込まれ、我なるものを忘れて、氣が清々とするものである。併し我國の白馬會や、太平洋畫會などを云ふのでは無い。此等の展覽會を見た目で、歐洲の大美術館を見ると、油畫や水彩畫に對する觀念がガラリと變つて來るとは、誰しも云ふことなのである。予の如きものは、美術館へ美術の批評鑑定を爲に往くのでは無く、會心の名畫の前に立ちて、何所が良いのかは知らぬが、只だ此等に心を吸取らるゝやうになつて、嬉しい氣持を起すのを樂しみとしたのである。予は英京二個の美術館に於て、殊にさう感じたのである。

英京二個の美術館とは、其一はネルソン將軍の記念碑が天際を摩して峙ち、其下に動物畫家ランドシアの意匠に成りたる四頭の大獅子の蹲る、かのトラファルガア、スクエアに接して立てる國立美術館と、なほ一はテームス河畔ヴオクゾール橋に近き、國立大英美術館即ち通

稱テート美術館とである。國立美術館は、世界古今の名畫を撰りに擇つて、時代と流派とに分類して保存するところ、テート美術館は、近代英國大家の傑作を蒐めたもので、殆ど孰れを揚げ孰れを落とすことの出來ぬ、實に美術界の双璧である。前者はルーヴルとすれば、後者は即ちルクサンブルグなのである。

國立美術館の藏するところ、殆ど繪畫史の代表作を有してゐると云つても可い。美術奬勵に熱心なる英國人、何事にも他に負けることの嫌な英國人は、この國立美術館を以て、佛國ルーヴルと肩比して相下ること無きものたらしめたのである。伊太利の古への畫聖畫傑等の名作にも富んでゐる。聖僧アンゼリコの作もあれば、七十萬磅と云ふ巨額の金を投じて購入したるラファエルが『アンシデイ、マドンナ』は、其大きに於てシスチン、マドンナに劣つてゐるが、等しく此繪聖の傑作たるものである。レオナルド、ダ、ヴインチが『マリアと小基督』のマリアの顏は、ラファエルのに比して、更に高潔で靈性に勝つたクラシカル風を傳へてゐるやうだ。チシアンも、コレギヲも、ボチセリも、リッピも、其他殆ど凡ての伊太利畫傑は此處に代表されてゐる。和蘭派にはハルスの肖像畫があるが、予の滯在中、彼の一大作が偶然英國内で發見せられ、高價に買取られて此美術館に納まつた。ムリロの作も少く無い。又た十七世紀以來歐洲の

畫界を風靡してゐて、また此頃になつて、其崇拜熱が大いに復興した、西班牙のヴエラスケズの作品も少くない。彼が生涯の作二百餘點の中、半數は英國にあると云ふことだから、從つて此美術館が彼の作に富んでゐて、七枚を藏してゐるのは、美術界の羨ひところである。殊に其名作たる『ヴィナスと戀の使』て、女神がキユピッドの持てる鏡に、我顏を寫してゐる大畫は近く此美術館の購入したるものである。彼の作として名高き西班牙王ンイリップ第四世の半身畫像の前に立ちて、一心に之を模寫してゐる若い婦人がある、見れば日本人であつた。先方がレデーの事であるから、無躾に名を聞く譯にも往かぬから、其儘に過ぎた。實は本國を去つて以來、此時初て異郷に在る日本婦人を見たのであり、且は其人が繪畫研究家であるのてゆかしく思つたのである。後日根岸氏宅の晩餐にて再び此婦人に會ひ、互に名を通じて、この年少き美術家は南滿鐵道理事犬塚氏の令妹であることを知つた。因に云ふ、この美術館は多くの美術館と同じく、一週間に二回學生の模寫を許すのであつて、犬塚嬢に會つた時は、丁度其一日であつたのだ。外に男女の美術家が、バレットと取り、カンバスに臨んで、思ひ〳〵の名畫を寫してゐた。中には白髮の老人もあれば、殊に婦人が多いやうに見受けられた。

佛國畫家の作には餘り多く富んでゐ無いが、尙ほグルーズの可憐なる少女の肖像畫數枚を滅

し、又たボヌール女史が『馬市』の大作もある。

國立美術館に入つては、予は殊に英國派の作に目を惹かれたのてある。美術を通して又た英國其者を學ぶことが出來るのであるから、ヴアンダイク以後、レイノルヅ。ゲーンスボロウ。コンスタブル。ターナー等の作に心を留めたのてある。『英國民』の著者なる佛國のブートミーが、英國人の美術思想を評して、英國の天然は大美術を產むべき條件を具へてゐ無い。英國人は霧のヴエールを通して朧げに天然を見るのてある。されば英國畫家の繪畫は、作家の想像理想が多く混つて、天然其者を現はさずに、絕對的科學的になる。又た單に畫くと云ふより以上の目的に達せんことを求めるものてある。ラスキンが『凡ての大美術は敎訓的なり』と云つたやうに、色彩や形態より離れ、之に勝つところのサムシングが無ければ眞の畫て無いと思つてゐる、それて色彩の調和や物態の配合などには頓着せず、多くの人物を描くにも、中心人物が無くて、凡ての人物の顏が皆活躍し、凡ての顏面が語るのてあると云つたが、予の如きは素人てある故かは知らぬが、この缺點を有して、佛國畫風などと大いに其趣を異にしてゐる英國畫が好きなのてある。ゲーンスボロウや、レーノルヅや、ローレンスの人物畫、コンスタブル等の風景畫が好きになつた。同じく裸體畫ても、英國畫家の筆に成つたものは、現代の作ても、

佛國畫家のそれの如くに、チヨロケたところが無いやうだ。又た婦人の顏ても、英國式に面長て、ラテン式の丸顏とは異るのみか、何處と無く上品て、謂はゞ色氣の乏しいところが、畫としては寧ろ高尙てある。

而して此一種特別なる畫風が起つて、今日は佛國畫風と共に、天下を席卷し、佛國が美術國たる榮名を獨占することが出來ず、英國と云ふ一大美術國が堂々として其側に控へてゐるに至つた其跡を繹ぬれば、僅かに十八世紀以降のことてあるのだ。ブートミーが云ふやうに、英國の天然が美術を起すに不備なるに加へて、淸敎主義が英國を支配した時、美術も音樂も、凡そ人間の快感を滿足せしむるものを打破して、英國人には美術思想なるものが缺乏してゐたのてある。然るに十七世紀に於てルーベンスや其出藍の徒ヴアンダイクが、椽大の筆を提げて、英國に遊び、宮庭の間に殊遇を受けて、多くの作品を殘したことが、初て英國に繪畫を呼起した動機となつたのてある。さればこの兩畫家の作は、英國の諸美術館、宮殿等に多く、此國立美術館も之に富んてゐて、此等を發端とせる英國畫の發達の跡が辿られるのてある。眞に英國畫風を起したりと云ふ十八世紀の道德家ホガルスの作品を始めとして、あゝレーノルヅ！　彼の肖像畫、殊に彼が多くの少兒を畫題に捉へたものは實に嬉しい。其五小天使の顏などには暫

く見とれてゐた。ゲーンズボロウが筆なる『シドン夫人』の婉麗にして氣品を包める顏、又た彼の風景畫はコンスタブルの筆と共に、英國の天然を狹きカンバスの中に生擒して、之を雄化したものである。ローレンスの美人畫また濃艶なり。ランドシアは數枚の動物畫に、動物を捉へ來りて人生觀を寓してゐる。ラスキンが大きに持上げたるターナーの朦朧たる風景畫に至りては、其趣味が良く分らぬかなれど、烟霧の中に生れて、烟霧の中に天然を見るの畫風を開き、又た彼が色彩を大膽に用ゐたこと、晩年に至りては、其風景畫が理想畫となつたところは、即ちターナーの豪いところであるかしらと點首かるゝのである。彼は眞に英國の天然を捉へた風景畫家といふのであらう。而して此の國立美術館に藏せらるゝ英國畫は。十九世紀前半までの畫家の作に止めを打つてゐる。其以後の作家を見るべきはテート美術館である。

テート美術館の藏する繪畫は、凡て千七百九十年後に生れた作家の筆に成れるものである。中には多少外國畫家の作もあるかなれど、凡そ現今の英國畫風を知らんとするには、この美術館に來ねばならぬ。此美術館は國立てあるかなれど、元は粉屋のテート氏が寄附に成りたるもので、其名を冒してゐる。此館の藏するところ、吾人がこれまで寫眞版などによりて度々近付になつてゐる繪畫が、殊に多いやうで、此新しき美術館は、予に於て却つて他の舊き美術館よ

りも舊知の感がある。ランドシアが犬を捉へて畫材となし、人生を寓したる『アレキザンダア大王と哲人ダイオジニース』もあれば、『アンクル、トムの小屋』を畫材として、奴隷賣買に擬したる『アンクル、トムと其妻』もある。肥えたる犬に貧生涯を寄せ、痩せたる犬に富生涯を寓したるもの、羊の

小天使（レーノルダス作）

群を描きて『平和』と名け、戰場に傷きたる軍馬の傍に其主人の僵れたるを呼んで『戰爭』と名けたものもある。レートン卿の『サイケの浴姿』の裸體畫ながら、毫も忌味が無く、色彩も鮮麗なるもの、レスリーの筆なる『アンクル、トビーと寡婦』の、若き寡婦の誘惑を解せざる好人物トビーを描きたるもの、又たはミレーが筆なるハムレット曲の『オフェリア溺死』や、二人の尼が墓穴を掘る畫、『赦罪』に傷きたる兵士を迎ふる妻が眠れる子を抱いて夫を慰め、飼犬が主人に跳び付いてゐるもの、『武者修行』の若き女を救ふの畫など、いづれかカンバスの奥に潜める詩情が、楚々として予等に逼つて來ぬは無い。繪畫其者を見るのては無くて、眞に無聲詩を讀むの感がある。將に絶命せんとする小兒の側に匙を投じて憂ふる醫師、燈火の影に泣く母の姿を描きしは、何人の筆なりしかを忘れたが、同行の山田君は二兒を喪ひたる悲しき經驗の人とて、嗚呼此畫見るに忍びすとて去つた。予も亦た同じ悲哀を覺えた。

那翁が聖ヘレナに流謫せられんとして、ベレロフォンの甲板上より、最後に佛國の陸地を望んて、愁然たる英姿を描いたは、オルチャードソンで、千言萬語よりも多く當年英雄の末路を語るものて無いか。フィッシャー筆なる『夢想郷』にて、美しき姉妹が相凭りて書を繙くの畫につきては、一の逸話が傳へられてゐる。米國一富豪の青年が、此畫に戀々たる餘、筆者に乞ひ、

アミリア公主（ローレンス作）

其復寫を需めたが、勿論二枚と同じ畫はかゝぬから斷つた。すると青年は、さらば此畫にはモデルがあらう、あるなら其當人に紹介して貰ひたいと、たつての懇望に、フィッシャーは之を諾して、我家に招待して引合したは、其妻と妻の妹なる垂髫の童女とてあつた。即ちこの二人こそ彼の『夢想郷』

のモデルであつたのだ。青年は遂にこの幼妹の手を求め、成人の日を待つて結婚するの約を結んだのである。而して去年になつて漸く婚儀を擧げたとの話であつた。

ラフアエル前代派を復興して、英國畫界に新紀元を開いたものは、前に云つたミレーにハント。ロセッチの三人組であつた。詩人にして畫家なるロセッチが理想畫二枚、其一枚の『ビートリースの幸』に亡妻の顏を畫きたる、又たロセッチの門弟なるバーン、ジョーンスの『乞食女』など、孰れも逸品ならざるは無い。同じ流を酌んだワッツ、斯人の遺作二十七品に至りては、理想畫の極に達したもので、北詩想を解することが容易で無い。之に反してウードが『キユピッドの魔力』はいかにも美しい惚々する色彩である。ケンニントンが『孤兒』、ダイクマンスが『盲乞食』なども、予が暫く見とれてゐた中の畫である。

ターナー集は四十餘品を蒐めて、中には未成品もある。多くは晩年の作乎。風景畫が理想畫となり、彼が得意の朦朧體が、いよ〳〵朦朧となつたもので、之を見ても、ターナーが繪具殊に英國畫派特意の黃色に用ゐるのに、いかに放膽であつたかゞ知れる。

テート美術館內の多くの水彩畫、これまた畫界に英國水彩畫の盛名を專らにするもの〻代表的作品である。而して予はこの二大美術館に於て、多くの英國水彩畫を見たることによりて、

大いに之に對する趣味を與へられたのである。テート美術館には又た多くの彫刻上の名作を藏してゐる。予はこの二美術館へは、各〻二三度宛見物に往つては、いつも清らかな爽かな感覺を與へられたのである。或人は英京の短い滯在中に十回も國立美術館に往つて、これと思ふ畫の前には二時間程宛も立つて眺め入たとの話であつたが、予にはサウまでの辛抱は無かつた。唯だズーウと見廻つて、一々の畫に對する記憶は、恐らく館外に出づると共に消え失せたのであるが、之によりて得たる快感と敎化とは、今日尙ほ忘るゝものて無い。

國立美術館に接して、肖像美術館がある。これぞセント、ポール及びウエストミンスターの聖賢廟に對して、十二世紀のノルマンデー公ロバートよりテニソン。スチブンソンに至る凡ての時代、凡ての階級に於て國家の歷史に貢献したる帝王英傑名士の肖像を納めた

サイケの浴(レーントン筆)

る二の聖賢殿なのである。時代、王統、學者、文人、俳優、女性などの類を分ちて陳列し、大英國の今日を成せる俊傑が、刷毛の跡美はしく殿めしく、默々として千年の歴史を語るのである。予等他國人も思想上からの祖先の畫堂に入つた心になる。殊に科學者、文豪、哲人の肖像を仰げば、颯々たる英姿、磊々たる偉貌が、吾人に何事かを敎ふるやうに感ぜらる。大作には國會討議の光景を描きたるもの二三枚あり。而して筆者としてはヴアンダイク。ゲーンスボウ。ロムネー等、自らも亦た聖賢殿中の人なる名家がある。畫の外には多くの金石像がある。

以上の三大國立美術館と並んで、倫敦にて見落すべからざる美術館は、ウオーレス陳列館と市公會堂なるギルドホールの美術館とである。ウオーレス陳列館は、サツカレーが小說『ヴアニチー、フェア』に材料を與へたと傳へらるゝハートフオルド侯邸の跡に、珍器名畫を集めたもので、富豪ウオーレスの寡婦の政府に寄附したものである。蒐むる所のものは名畫、彫刻、家具、磁器、陶器に畫いた細畫即ちミニエーチユア並に東西の武器である。家具の如きは佛國ルイ第十四世朝以來の、宮廷大官によりて用ゐられたる美を盡し數を極めた珍品である。武器の如きも、能く蒐集が行き屆いてゐて、實に一大博物館たるの外觀と實價とを備へてゐるのである。而して其繪畫のみを擧ぐるとも、優に世界有數の美術館である。殊に十八九世紀の佛國大

家の作の多くを藏するの點に於ては、或はルーヴルにも勝つてゐるとの評がある。併し米國あたりから來る田舍者、かの美麗なる多くのミニエーチユアの方に心を取られて、名畫珍器などは過眼するやうだ。

アンクルト、ムトと其妻（ラントシア筆）

繪畫には、歐洲の名匠の作を多く網羅して、ルーベンス。ヴアンダイク。ヴエラスケズ。ムリロ。レーノルヅ。ゲーンスボロウ。ローレンス其他の七百六十餘點あり、中にも佛國畫家の名作に富めることは、國立美術館の此點に於ける缺乏を補うてゐる。グルーヅ。ヴアットー。ブーシエー。ブーシン。ボヌール。コロー等七十餘大家のいづれも一粒撰りの作品がある。グルーズの『鳩を持てる少女』は、ルーヴルにて名高き『乳絞りの女』と共に傑作を以て稱すべきか。グルーズは少女を畫くに、

長じたる畫匠であつた。しかしブーシエーが多くの裸體畫に至りては、恐らく淫靡の譏を免れざるもので、殊に其中の一枚『ヴィナスとマース』とを描いたものゝ如きは醜汚目を蔽ふべく、これを公衆の前に掲げるさへいかゞはしい。我國なら差詰め御役所から抹殺せられずとも、少くとも禁錮の刑に處せらるべきものである。同行の本田君や予は實にこのウォーレス陳列館に於て、佛國の裸美人畫に、モウ厭き〳〵して、胸を惡くしたのである。美術眼が無いからでもあらうが、繪畫は美術家批評通の爲にのみ描くもので無くて、俗眼にも快感善意を與へなければならぬものかと思ふと、ブーシエー等一派の佛國畫家の作に値が無くなり、此等を見ると、猶更英國畫が尊くなるのである。

ギルドホールの美術館藏するところの繪畫亦た逸品である。畫匠ギルバート水彩繪百種は彼の寄附に係り、なほコンスタブル。ミレーズ。ヤクリース等の作もある。これ亦た一の指を屈すべき美術館たるに耻ぢない。ギルドホールにはまた附屬の博物館がある。

以上の他多くの宮殿は、孰れも美術の淵叢であるかなれども、公衆に許さるゝものが尠い。予はウインゾルや、ハンプトン、コート宮に於ても、亦た尠からぬ名畫を視ることを得た。サウス、ケンシントン博物館にも美術部がある。

倫敦の下町を歩いてゐると、予はドレー陳列所と看板の出た處を見た。ドレーとは聖書其他の名著に挿畫を描いた英國畫家である。彼の油畫は他の美術館に出てゐ無いて、この小さ陳列所には、彼の宗教畫の大作が二三種あると聞いたので入場して見た。基督がピラトの法廷を去る畫は稀有な大幅である。而して此等の油畫を見ても、ドレーは畢竟挿畫家として古今獨歩であつた筆路が搜り得らるゝので、油畫としては却つて其成功を疑はるゝのである。この陳列所は又た現代畫家の水彩畫を多く陳列して、即賣するのである。番人の一人予に近き來りて、君は水彩畫を買ひに來たのかと云ふから、いやドレーの作を見に來たゞけである。しかし試みに問ふが、此等の水彩畫は凡そ何程の價であるか、これはと葉書大の一枚を指せば、五ギニー(五拾二圓餘)なりと答ふ。又たこれはと畫紙半切大のものを指せば、七十ギニー(七百三十圓餘)と答ふ。而して其筆者の名は不幸寡聞な予の耳に達したことの無いのもである。これ程の高價で買手のあればこそ、かゝる陳列所も立つて往けば、畫家も仮の種があり、美術も從つて進歩する譯なのである。市中に多き繪草紙屋、額屋で聞けば、名畫の刷畫一枚でも目の飛び出るやうな直段だ。刷り損じの石版畫ですら、二志六片は取る。されば眞筆の畫などは、中流の家の壁間に掲げ得らるゝもので無いから、多くは刷畫で濟すのである。水彩畫でも當時評判のメー

ソンが海の書などになると、富人の客間ならでは迎へ入るゝことが出來ぬとの事だ。或日根岸氏と共に一軒の額屋へ往つて、一枚の小さきエッチングの刷畫に、たしか五磅と吹かれて驚いたことがあつた。

大英博物館

英國の誇たる大英博物館へは二度往つた、一度は獨で往つて、歸途階段の上にて、新橋で別れて以來の海老名君に偶然往き逢つた。二度目には木村農學士と一所であつた。凡そ人が一生の年月を費やしても、悉くは見切れぬといふ此博物館をば、少しの時間で、速足に歩いて廻つたのだから、殆ど見たとは云へぬ、歩いたと云つたがましなのである。そして豪いものだとの印象を得たに過ぎぬ。

人類が臘げながらも歴史と云ふものを有して以來、フィニシア、埃及の太古より、希臘、羅馬は勿論、地球上人間の接へる土地を代表する古物、珍品、金石、書籍等の百般に亘りて陳列せられ、人類發達幾千年の經過の跡は、この大博物館に其形を留めてゐるのである。埃及の石

像、金石碑の多き中にも、ロセッタ石は、埃及文字の後世に解讀せらるゝを得せしめた尊き字書である。ナイル河畔より掘出したる多くの木伊乃は、人間のみならず、動物のもあり、殯槨の美しきを見たゞけて、埃及文明を想像される。エルジン卿が、希臘に押寄せて、其諸神殿から分捕したる夥多の大理石彫刻、それが完全なるものゝ少きに、小破片までも丁重に取集め、漆喰を以て繼合し、昔の形を推測せしめたるは、この設備保存をなすだけにても、莫大の費用を投じたものである。英國古代館あり、人類館あり、東洋館あり、日本の部には岩倉大使の寄贈せる五重塔の雛形あり、某鎧師の名家の作たる、羽根一枚づゝを鍛つた大鷹の置物は、日本に在れば、必ずや國寶の一たるべきものが、今は英國の珍寶となつてしまつた。何某が蒐集して寄贈した夥多の根付彫刻や、刀劍、甲冑もある。佛像、神體もある。

書籍室また藏書家の垂涎置く能はざる所で、其讀書室は通常參觀人を容れ無い。書籍室の中にも諸國の王者、偉人、名流の手跡、文書は殊に予の注意を拂つて見たのである。諸代の英王の宸翰、クロムエルの人格に似た雄健な筆蹟、大憲章、ヴイクトリア女皇の署名、沙翁の借金證文など其他數限りと無いものがある。文豪詩伯の書翰もあれば、原稿もある。キーツ。マコーレー。デイッケンス。テニソン等の詩稿もあれば、ショーヂ、エリオットの『アタム、ビー

ド』の原稿が、女らしき美しい筆蹟で全篇揃つてゐる。又たシャーロット、ブロンテ女史の未刊の小説『スペル』が、針の頭ほどな文字で、蟲眼鏡で無ければ讀まれぬ程に書いてある。ブロンテの筆蹟は至つて細字なりとは兼ねて聞いてゐたが、これほどまでに纖細であらうとは知ら無かつた。希伯來語、拉甸語の經文に、華麗なる裝飾を施し、又た挿畫を加へたる謄寫本の如きは、一々珍品ならざるは無い。支那の書、日本の繪本、歌麿、豐國の繪草紙もあつた。

世界各國の郵便切手を年代別と國別とによりて蒐集したもの、其數の多さことは驚くべきものである。日本の部を繰出して見たれば、ズット古い切手から、改正になつた度ごとの見本が、しかも何枚づゝもあつて、消印の無いものであつた。この切手を集めたる箱の中だけにても、金に積れば莫大な富が入つてゐる。

博物館の地

倫敦の一角サウス、ケンシントンまた『博物館の地』たる呼稱がある。其一區域を占めたる幾棟の大厦高閣、これが倫敦式に黑煙の建物で無くて、テラコッタ(燒泥)の代赭色に白を交へた

新しくて鮮かなロマネスク式建築で、こゝへ來ると何となく倫敦で無い、別の都に來たやうな感じも起る。此等の大厦高閣は、人智の開發をなすべき用に當てられたるもので、英國學術界の一淵叢を成せるものである。或は博物學陳列館あり、倫敦大學あり、帝國學會あり、又たヴイクトリア女皇及び皇婿アルバート親王紀念の大博物館あり、此等を一々見物して廻ると、何だか智識が益して來るやうだ。

博物學陳列館に入つて、オーウエン。ダーウイン及びハックスレー等大科學者の大理石像が嚴然と立つてゐるのを見ても、このミユーゼアムが、此等大學者が腦漿を絞つて、英國をして斯學の冠たらしめた其功業の結果たることが知れる。このミユーゼアムは大英博物館の一部として、博物學上に於ては、世界無比の蒐集整頓をなせるものである。動物學上の剝製標本、解剖標本の數限りも無いこと、又た各種の野禽が巣を營み、雛を孵す實景の標本の如き、其一つても、親禽より雛より卵子まで集め來るには、容易なる勞力では無い。貝殼類室には河湖の產より深海の產に及びて、ピンの頭よりも小なるより、直徑數尺に及ぶものもある。前世代巨動物の遺骨、及び其模型、化石の如きは一見して地質學上の蒙を開くを得せしむるのである。其他鑛物の標本、植物學上の標本など、いづれも學生親しく之に就いて研究することが出來るの

てあるから、萬卷の博物學書よりも、大家の講義よりも、一見百聞に若かずて、其智識を增益するの功は何程であるべきか。予の如きものでも一年この館内に籠つて勉强したら、豪い博物學者になれさうだ。

サウス、ケンシントン博物館はまだ完成してゐ無いが、今の儘でも、實に其宏大にして整備せることに於て、大英博物館の他之に及ぶものはあるまい。しかして其陳列品は大英博物館とは大いに其類を異にしてゐるので、工藝品が多いのである。器械館の如きは、蒸汽電氣の諸機械の雛形が、動力にて一々運轉してゐるから、工學者なども、書物の上の挿畫や說明では、ドウしても判然せぬ器械の構造が、一たび此博物館に入るならば、釋然として氷解するのであると云ふ。して見れば、この博物館を有する英國のその驚くべく發達せる工藝界の成果であると共に、將來斯學の進步を呼起す刺戟敎化は又た驚くべきもので無ければならぬ。予は最も緣の遠い工藝品などに就いては、たゞ豪いものだと感ずるだけで、其難有味が十分には解らぬ。只だ目に當つて最も珍らしく感じたのは、米國のフランクリンが電流試驗に用ゐたる紙鳶が、一室の壁間に懸つてゐることで、小學校時代から、幾度讀本で讀んだ此逸話の實體が目に映じたときは、アヽこれかなと、何となく嬉しかつた。

美術館に入りて、多くの名畫大作を一覽したる中に、殊に驚いたのは、ラファエルが筆に成れる七枚の帷帳原畫で、皇室よりの出品に係れるものだ。いづれも聖書中の物語を描きたるものである。この畫聖の大作が而も七枚、まゝになるなら其一枚でも半枚でも我國に欲しいものである。

英國の動物

予が英國滯在中の動物に關した見聞を述べて見やう。露國や獨逸の動物に就いての所見は、前に大方書き盡くした。

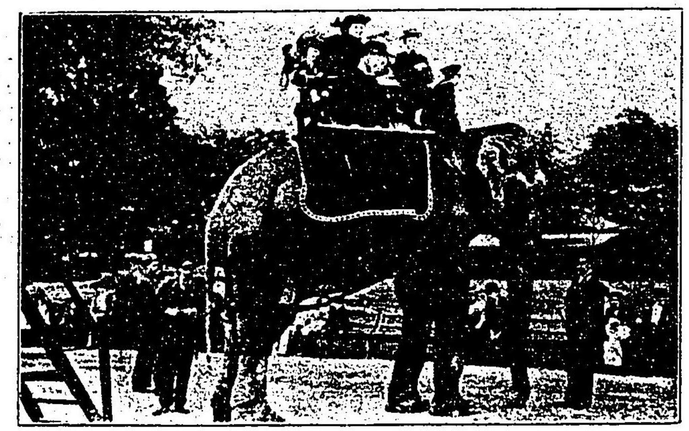
無告の動物、就中牛、馬、犬、猫、鳥、魚を愛するのは、人間自然の情であつて、之を虐待するは人情に反してゐるのみならず、つまり經濟上にも損なのである。外國で動物愛護會が盛んに行はれてゐる本旨は、無告の動物を愛すると云ふと共に、動物を使役飼食するに於て人の經濟上道德上に利益があることを打算してゐるのである。大都競ふて動物園を設くるは、學術の爲めであることは無論だが、又た老若男女をして動物に親しましめて、多くの動物を知ら

しむると共に、又た其徳性上にも多大な感化を與へるのである。我國の動物園や花屋敷のやうに、動物虐待の摸範を見せてゐるのては、到底この徳性上の目的は遂げられぬ。

◉象は家畜

倫敦の動物園は、リゼント公園にある、皇立動物學會附屬のそれである。予は一日太田獸醫正と共に之を見物した。其規摸に於ては、伯林動物園、若くは紐育動物園に劣つてゐるやうだが、それでも二千五百種の禽獸を蒐集してゐるので、建物も象の家、猿の家、獅子の家、小動物の家、鳥の家などに分たれ、鸚鵡の如きは、幾羽と無く、樹の蔭、通路の側に吊した泊木に裸で止まつてゐて、小兒から落花生や砂糖などを貰つて食つてゐる。象に至つては就中愛らしい。見物人に鼻を差出してパンや砂糖（これ等は園内の茶店で賣つてゐる）をねだる、又た鼻を頭上に卷上げ、大口を開いて、餌食を投げ入れてくれと求める。女や小供が其鼻を撫でると嬉しがる。象は馴致すれば、甚だ柔順なる家畜となるものてあり。外國の動物園は即ちこれを家畜として取扱つてゐるのてあるが、上野の動物園はこれを猛獸として鐵鎖に繫ぎ、危險なり近づくべからずと丸て獅子か虎かのやうに取扱ふのだから、象も飼主の待遇通りに氣が荒くな

り、見物人は之を以て可愛らしい動物だとは認めぬ。



動物園の象遊び

動物園の中を園丁が一頭の小象を連れて散歩をさせてゐた。園丁は其耳に鈎のやうなものをかけて側に添つてゐる。この小象は道々のベンチに腰をかけてゐる女、通りがかりの小兒などに鼻を差付けて、可愛い眼て、何か呉れと求める。小兒等はパンなどを與へて其鼻や胴を撫でるのだ。

又た象や駱駝に小供を乘せて遊ばせる仕組になつてゐて、一片を出すと園丁が付いて少しの處を一廻りさせる。子供ばかりて無く、大供も面白がつて乘る。駱駝には、其長い頸に女の子が跨つてゐることもある。そして象は大きな胴體てノソ〳〵歩きながら、例によつて側の人から餌をねだるのだ。予等も試みに乘つて見たかつたが、黒い日本人が乘らうものなら、象や駱

駝の本國の人が來たやうで、あまり目に立つだらうから見合せた。太田君と二人で、寧ろ、象か駱駝の口取になつた方が似合さうだと云つて笑つたことであつた。英佛博覽會の中でも、埃及人が、數頭の象及び駱駝を引連れて來て、少しの料金で、乘せ廻つてゐた。動物に親しまのには實に良い趣向で、上野の動物園などでも、一つ之を眞似るやうにならねばならぬ。リゼント公園などの組織は動物を苦しめて見せるのでは無くて、之を愛せしむるやうにするのだ。淺草の花屋敷などで、象乘、駱駝乘を始めたら、大きに儲かりさうなものだ。

◉象と猿との病院慰問

水晶宮にも多くの動物を飼つてあるが、其中にバッブと云ふ當時生れて十四ヶ月になつたばかりの小象がゐた。これが昨年の八月であつた、倫敦オルモンド街の慈善小兒病院へ慰問に出かけたのである。勿論園丁同道なのだ。すると病褥に苦んで、動物園へも行けぬ、哀れな小兒等の喜びは一方で無く、バッブ象が階上階下の病室を一々慰問して、小兒の寢床へ『今日は』とも云はずに、ヌツト鼻を突き出す。小兒は病苦の軀を起して、其頭や鼻を撫でゝ、砂糖などをくれる。又た少しく健康な病兒は其背に乘せて貰つて遊ぶ。バッブは數時間、病兒の玩弄品に

なつて、共々に樂しく時を送つたことであつた。

十月の末になると、又た此の同じ病院へ、アルース、コートなるポストック動物館に飼つてある黑猩々でコンソルと云ふが見舞に往つた。このコンソル君は或人間よりは怜悧で、タイプライターを使ふ、自分で髯を剃る。ホテルへ泊れば、人並の寢臺に寢て、人と同じく食堂にも出ると云ふ、それて人猿と稱せられてゐる。この猿君が病院慰問當日の扮裝はフロックコートに絹帽子、馬車に打乘り、人間を伴に連れて、悠然とやつて

大猿コンソル君の病院慰問

來たのである。病兒等が彼の慰問を受けて喜んだことは、千人の大醫先生の診察よりも、病氣に効驗があつたのである。

◉犬の墓

或日ハイド、パークの公園の側をブラ〳〵歩いてゐると、ヴイクトリア門に近さところ、門番の家の後に、狹い地坪で、小な大理石の墓碑の並んだ墓場がある。珍らしいから覗いて見ると、いづれも犬の墓だ。これは面白いぞ、中へはいつて見たいものだと思つたが、其門がメまつてゐた。そたて其あたりを巡視してゐた巡査に、あの犬の墓へはドウしたらはいれるかと尋ねると、門番の家の門鎖を叩いて、案内を乞ふたなら、門番が出て來て、墓場の門を明けてくれると敎へられたまゝに、門番の案内を請ひ、門を明けて貰つて、墓地へ通ると、どの墓も四半坪くらゐの大きさで、一つ〳〵に大理石の碑が立ち、墓の主なる犬の名や、生死の年月を刻み付けたのは、人の墓と同じことてある。ブールドッグてあるとか、狆てあるとか、種類を銘したのもある。『ビートの墓。何年何月何日無情なる瑞西人の爲に毒殺せらる』と題したものもあれば、『忠義なるジョン』と刻したのもある。飼主は、其犬に對する愛情を、歿後の墓に寄せて、小さき墳墓に似合うた常盤木を植ゑ、また四季折々の花を手向けるので、予の尋ねた時には、いづれの墓にも時を笑顔の菊の枝が飾つてあつた。門番の語るところによれば此墓地は既に滿員になつたので、今日ては田舍に新しき犬の墓地が出來てゐるとの事であつた。

後日予がスコットランドに遊び、エヂンバラの城を見物した時、城内ハイランド兵舍の傍の石垣によつて愁ひつゝ、不圖其下を見ると、片隅に小さな墓が並んてゐて、『兵士愛犬の墓地』と看板が打つてある。それ〳〵の墓前には手向の花を捧げて、無邪氣な兵士が亡にし愛犬の靈祭を營んてゐるのであつた。城内には數頭の犬が兵士と戯れてゐた。鼠捕りにかゝつた鼠を庭に放して小犬に追驅けさせ、兵士はキャッ〳〵と騒いてゐだ。彼等兵士は舍内にて種々な動物を飼養するので、犬の如きは、行軍にもはた戰場にも伴ひ往くのてある。英米にては兵舍にも軍艦にも、必ず兵士寵愛の犬や猫や山羊など飼つてあるのてある。

◉犬の慈善運動

ケジックに遊んだ折であつた。湖畔を散歩してゐると、一頭の厖犬が背に『印度傳道の爲』と彫り付けた寄附金箱を負うて、道を喚ぎ〳〵歩いてゐた。予は其箱に一片を投入せんとして犬

に近寄つたが、犬は氣づかないでズン〳〵歩む。すると後方から來た婦人が犬の名を呼ぶと、犬は止まり、おとなしくして、予をして其一片を投入することを得せしめたことがあつた。

スコットランドへ旅行の發途バヂントン停車場で、列車を待合す中に、場内をブラ〳〵してゐると、大きなガラス箱入りになつた剝製の犬が一頭ゐた。名はたしかジムであつたと覺えてゐるが、其頸には寄附金入れの鑵を下げてゐる。ガラス箱の一端には、此犬の傳記を書いてあつて、この大西鐵道線路驛員の寡婦孤兒救助の爲に、ジムは此バヂントン停車場にて慈善運動をなし、生前に募集したる金額は八百磅に達したと云ふことである。而して其ガラス箱には投金口が開いてあつて、此犬は死して後、剝製となつても、昔に變らず慈善金を募集してゐるのである。豹は死して皮を留むと稱すれども、此犬は死して尙ほ慈善事業に奉じてゐるのだ。

この停車場を起點として北に走れる大西鐵道線路中の大停車場に於て、驛員の寡婦孤兒救濟の爲に寄附金を募集する犬の數は二十頭に及ぶとの事である。予が沙翁の故郷ストラットフォルドから廻つて、レミントン停車場へ來ると、爰にも亦た剝製の犬がゐた。これはガラス箱へは入れずに裸にして出してあり、其生存中より懸けてゐた寄附金鑵へは、今も尙ほ旅客が喜捨金を投入するのである。此犬の名はラットラーて、千八百九十六年に死したものであるから、

死後既に十三年間其皮を此停車場に留めて、人間の孤獨者を救助してゐるのだ。其生前の傳記が新聞より切拔いて傍に置いてあるのを見ると、この義犬は其死に先だつ十二年前、ベイリスなる主人と共に、レミントン市に轉住したが、初の間は主人に尾して、毎日のやうに停車場へ遊びに來る。驛員等は慰みに此犬を馴らして、旅客から金を貰はせるやうにした。ラットラーは金を貰ふと、口に銜へて食堂へ往つては菓子を買ふのであつた。かくて數年の間は停車場の慰物になつてゐたが、飼主ベイリスは後になつて思付き、此犬の憐憫なるを善用せんものと、鐵道驛員の寡婦孤兒救濟會書記に出願して、其頸に寄附金箱を下げさすことになつて、爾來ラットラーが其死に至るまて、此停車場に出入する乘客の間に就いて募集したる寄附金の高は數百磅に及んだとの事てあつた。又た彼の死したる千八百九十六年に、大西鐵道停車場にて凡ての犬の募集したる寄附金は總額百六十七磅で、最も多く集めた犬は一週間で一磅十志の多きを得たとの事てある。

線路は異るが、倫敦のウオータールー停車場にも、同じく寄附金犬がゐるので、曩に病歿したるジャック第一世が生前の募集額が一千磅に及びたりとか、而してこれ亦た剝製となつて、昔に變らず働いてゐる。現代のはジャック第二世て、其活動は實に目覺しく、此停車場内多く

のプラットフォームで、殆ど五分間毎に發着する列車に昇降する乘客の間を縱横に驅け廻り、胴を摺付けて金をくれよとねだる、ねだられては愛らしさに、其望を叶へてやらぬ程の冷酷な人も尠いのであらう。ジャックは、一つプラットフォームで凡そ募集が濟んだと思ふと、次に着車するプラットフォームを能く覺えてゐて、それへ驅付け、客の降りるのを待つて、例の如く募集するのである。

人にして禽獸に劣ることを恥づるが、實際此等の義犬に劣れるものが英國にも多いやうで、折角彼等が骨折つて集めた金を泥棒する惡漢があるとの話だ。犬も此等の奴の下風に立つを恥づるであらう。而して此等の犬は多くの人よりも、大いに社會事業に貢献してゐるのである。又た市中で時々盲乞食が、犬を連れて町角に立つてゐる。犬の頸には鑵詰の殼が下つてゐて、通行人の施しを求める。警察では人間が乞食をすることを許さぬから、犬をダシに使ふのだ。つまり犬に養つて貰ふので、人間もかう零落しては慨然至極なものだ。或時予がかやうな犬連の乞食の前を通りかゝつて見てゐると、一人の婦人が犬に一片くれて、其犬が可愛から、頭を撫でゝやつてゐた。無論乞食を撫でゝはやらぬ。これには實に趣味の深い教訓と詩趣とが潜んでゐるでは無いか。

◉時勢粧と犬

予をして極言せしめよ。之を歐米にて見ると、中流以上の婦人の多くは是れ文明の裝飾品である。而して男子は彼等の目に、ビル、ペイヤー即ち衣服や帽子や寶石の高價を拂ふべき會計方と映するのである。女性は流行の奴隷、時勢粧の犧牲なのである。扨て婦人の事は項を改めて書かうが、唯だ爰には、犬までが女性が時勢粧を追ふ其時々の出來心で、愛憎を異にせられるとは、甚だ迷惑千萬なものであることを話すのである。

近年英國では、婦人間に小犬を飼ふことが大流行になつて、外出の際、買物にても公園の散歩にても、必ずや其小犬を抱くか、或はリボンや鎖で繋いで引連れることは、紳士が必ずステッキを携へるのと同じやうであつた。それで小犬は婦人の玩弄物の主なるもので、之を飼ふ上に於て、之を飾ることに於て、我劣らじと競爭し、爲に一頭の犬の價に莫大なる費用を投じ、又た之を裝飾するに贅澤を極めて、亭主を泣かせ、彼れの拂ふべき書出には、著しき一項目が增加したのである。

しかるに流行の變は慨くべきもので、又た迅速なもので、一の流行は直ちに他の流行に移る。

流行が車輪の轉ずるやうに變らねば、商賣人は儲けにならず、婦人が亭主の財囊を枯らすべき口實が無いので、種々な工夫や廣告で新流行を起すのである。この小犬が流行した時の婦人の服裝の型は、袖の短かく、裾を曳かない、帽子は小形なのであり、白き駝鳥のボアを兩肩からかけ流すのであつたから、犬を抱けばそれが良く目立つ、引連るれば裾にからむことが無く、長く曳かぬ裾の長さを補ふやうにも見えて調和が好かつたのである。然るに昨年の秋からしてヂレクトアルと云ふ新型の衣服が流行して來て、これは裾が長い。又た帽子が大きくなり、中にはヅルーリー、レーン劇場の一演劇から始つて、周圍六呎と云ふ大きな駝鳥の羽毛を飾つたスパラシイものまでが流行して來たために、小犬の流行が忽ち廢つた。帽子が大きくては抱いた小犬が人に見えぬ(女の服裝を飾るは人に見て貰ふことを唯一の目的とす)。裾が長いから、引連れると絡まる。それで哀れや可憐の小犬は、氣心多き女主人の寵愛を失ひて、秋風の嘆をなすに至つたのである。十月の初に倫敦の一新聞記者が報告したのを見ると、數ヶ月前まではハイド、パークなどに散策する多くの婦人は、一人として小犬を伴はざるは無かつたのに、驚くべし、これが今日に至つて俄然全く廢れて、公園に玩弄犬の影を留めぬやうになつたのである。扨て此次之に代るべき女の玩弄物は何であらう? しかし此頃又た婦人がブールドッグに

綱をつけて引連れてゐるのを見ることも少く無い。又た女が犬を飾る好みは甚だ奇妙で、ラリアに、瑠璃色の頸輪をかけたり、ブールドッグに黃色や桃色のリボンを卷いたりするのであると云つた。

毛深きプードル種の黑犬の毛を獅子型に刈込んだり、犬の脚に靴を穿かせたり、耳を短く斬つたりすることにも、頸輪、鎖、寢臺などにも時々の流行がある。馬の尾の刈込方にも流行がある。即ち犬馬の間にも時勢粧なるものがあるのであつて、婦人の虛榮心を滿足せしむべき道具となつてゐる。獵犬又は番犬にそれ〴〵の藝を仕込む學校もある。

婦人の頸元を飾り、又た帽子を飾るが爲に、屠殺せらるゝ禽獸の數は、一年に積れば巨萬に達すと云ふ、西洋の婦人は實に殺生なものかな! 又た流行の變化に從つて愛憎を異にせらるる犬や猫も氣の毒なものである。

◉獅兒を抱く

ボストックは獅子、虎、豹又たは象などに藝を仕込んで、之を敎ふることの名人である。又た樣々な動物を養つて見世物にする。これをボストック動物館と名けてアルース、コートなる

匈牙利博覽會の隣で公開してゐた。斑馬に乘つた異裝の男が人口で客を呼んでゐた。

大きな鐵の檻の中で、美人が數頭の獅子を使ふのを見た。またボストックが十數頭の獅子を鞭一本で自由自在に使つてゐた。巨象の音樂、馬の曲藝など、能くも敎へ込んだもので、而してボストックは猛獸を使ふが爲に、屢ば嚙み付かれたこともあるさうだ。動物館內に亞弗利加土人がゴブラの如き毒蛇、蜥蜴、カメリオンなどを使つてゐた。婦人が手の甲へ、あの氣味の惡いカメリオンを乘せて貰つて嬉しがつてゐるのもあつた。流石は蛇の形の腕輪や指輪を嵌める西洋婦人だけあつて違つたものだ。しかし猿も木から落つる習で、この土人が或日我が使役するコブラに嚙付かれて、全身に恐るべき毒を受け、數日間の昏睡に陷つてゐたと云ふ話を聞いたが、其後彼れの生死については耳にしなかつた。

鰐も多く飼つてある、海豹もゐる、いづれも分相應の藝をするものと見える。かの小兒病院へ見舞に往つた大猩々のコンソルが、樂器を奏したり、タイプライターを使つたりして、人間の眞似もする。犬ほどの小馬がゐて、小供の見物人を乘せて遊ばせてゐた。

最も珍らしく感じたのは、館內にゐる猫ほどの大きさの、頸にはリボンを卷いた數頭の獅子の兒であつた。それを幾許かの料金で、女の兒が借りて抱き廻ること、犬の兒や猫を抱くが如

きものだ。よし小さにもせよ、獰猛なる獅子の兒が、可憐なる女兒の腕に眠り、小兒は之を恐ろしいとも思はぬとは、實に意外の見物である。

◉犬猫の市

倫敦イースト、エンドなる貧民窟に於て、毎日曜日の朝、犬猫の市が立つて、大きに雜沓して賑ふのである。此市へ往けば、婦人のおもちやになる小テリア種から、巨大なるデーン種まで、如何なる種類の犬でも買へる。猫は三毛、白、暹羅若しくは化けて出ると云ふ黑猫でも賣つてゐる。賣主は多く猶太人だから、滅法界な掛値を吹くのである。而して彼等は何處から、かく多くの犬猫を仕入れて來るのか、出所が甚だ疑はしい。稀には正直な犬商人もゐるが、其大多數は盜んで來るので、元はロハなのである。そして何百磅もするやうな犬を安く賣飛ばすのだ。愛犬が紛失すると、飼主は警察へ屆ける。警察では失踪犬の犬相書があつて、このイースト、エンドの市場で搜索するとなると、白犬を搜すには鼠色若くは黑色の犬に目をつける、黑犬なら、白犬を查べるといふことだ。即ち盜まれた犬が此市場へ出るまでは、先づ毛色を染め變へられてゐるのである。

市中處々で、犬を賣る店を見かける。又た下町の人通の多い町角に、賤しさ身形の男が、數頭の犬を連れて買手を求めてゐることもある。いづれも出所の疑はしき犬なることは云ふまでも無い。

◉寄席の動物

何事も珍らしいので客を引く寄席の諸藝の中で、犬や猿、馬、象などを使ふのは、予も度々見た。犬の曲藝の如きは、實に巧妙なもので、人の掌や鼻の尖での鯱鋒立、後足立、片足立、宙返り、又た奏樂など甚だ輕いもので、かゝる曲藝をする犬は、ポインター種の瘠細の小柄なのが多い。大小數頭の猿を使つて、音樂師、自轉車乘、自動車乘などをやらせる手際が、我國の猿芝居のやうな無樣なものでは無い。驢馬、小馬、大馬などの樣々の曲藝、藝にも感心するが、其又た馬が骨格の逞ましく、手入が屆いて美しいのには惚々した。巴里で見た馬の梁木渡り、しかも其馬はスッカリ眼を縛られてゐての藝で、まことに七分三分の兼合、見てゐてもヒヤ〳〵したことである。

英國で見た動物藝の中で、最も振つてゐて珍妙なのは、海豹の曲藝であつた。パレス劇場で

見たのである。一人の肥滿した美人が、タイトを著込んで踊子のやうな意氣な風で出て來て、數頭の無恰好な海豹を臺の上に載せて置いて、種々な藝當をさせる。玉遊び、輪遊び又た松明の亂取など、口の尖で無器用にやるところに興味たつぷりで、太夫は一藝毎藝でギー〳〵鳴いては口を開ける、美人は一々鯡を投與へては、また藝をさせるのだ。凡そ藝人藝獸の種類も多いが、これ程珍なものは無い。

海豹でさへ藝當をやる。今に麒麟や河馬を捕へて來て、舞臺正面に控へさせて、曲藝をやらすやうにならぬとも限るまい。して見ると猫ほど無藝なものは無いやうで、未だに猫の曲藝なるものを見たことが無い。いやしかし、猫には化けると云ふ大曲藝があるさうだが、これはあまりの大仕掛で、寄席などの觀世物にはなるまい。

◉動物と兒童教育

動物を愛するの念が、兒童の教育上に多大の影響を與へるものなることは云ふまでも無い。歐米の動物園の設備が、小兒の遊覽場たるに適し、また其遊覽を一層興味あらしむるやうに、象乘、駱駝乘、駝鳥車の餘興を景物としてゐることなどは行屆いたものだ。

西洋の小兒は犬・猫、馬などがいかにも好きである。犬猫はあたりまへとして、馬に對しても、馬が溫和なから、女や小供が、路傍に止まつてゐる馬の首や脚を撫でゝゐるのを見かける。馬の首の下をくゞりて通り拔けることなどは普通になつてゐる。辻馬車、荷馬車の馭者まで馬を勞はり愛すること、通りがゝりに*心得てゐる、又た其のやうに敎へらるゝのである。繪本、御伽噺の動物に關するものが甚だ多

家族の一員（コツトマン筆）

*見てゐても、ゆかしく思はれる。車が止まつて居る間には餌を飼ひ、水を呑ませ、又た胴を撫でるなど能く世話をする、又た驅けらすにも、容易に鞭を當てぬ。これだから馬は自然馴良で、小供にも親しむのである。又た英京の公園などには、羊が放養してあつて、小供は之を撫でたり、又た追廻しなどして遊んでゐる。

小供は家畜をば友達だと

く、敎科書の如きも、此節は兒童をして自然界に親しましむるやうに編纂されたもの、即ちネーチュア、ブックの類が多く用ゐられる。英米の兒童がいかに動物を喜ぶかは、美しき繪の入つた兒童用動物書の種類の多きを見ても察せらるゝので、犬の逸話ばかりを集めた本でも幾通もある。近頃英國でイソップ物語を悉く動物の話に書改めた本も出版になつた。

學校や家庭に犬、猫、山羊などはペットとして飼ふ。倫敦の一小學校の校長サンドフォルド孃は、校内に鳩、蛙、兎、鼠、カナリヤ鳥、鶸鵡、蛇などを飼養して、小兒の寫生材料ともすれば、又た此等に親しむやうにもする、蛇なども生徒に取扱はせる。それで生徒の德育上尠からざる効益があるとて、去年の第一回萬國德育會議に於て其實驗を說いた。すると惡戲な新聞屋が獅子、虎、大蛇などが、敎場で生徒を追散らす戲畫をかいて、敎場内で野獸を飼養するなら、生徒の勇氣、自制を增益し、又た我儘を制裁することが出來るだらう、倫理敎師として獅子、虎を雇つてはドウだと調戲つた。

玩具にも動物の形をしたものが多い。此節歐米諸國で、小供の間に最も流行するものはテディ、ベアとて、白又たは褐色の絨布で、脚の動くやうに出來た、滑稽な可愛い面の熊である。これを人形の代りに抱いて遊ぶのである。此熊人形の由來が面白い。米國前大統領ローズヴエ

ルト氏は熊狩て名高い人てあるから、新聞屋が彼人の戯畫を描く時には、往々其側に滑稽な姿の熊を添へたものだ。そして或玩具屋は其熊の形を取つて玩具を造り、ローズヴエルト氏の名がセオドルて、其呼稱がテディてあるから、之れをテディ、ベアと名づけて賣出した。すると米國ては一時の大流行を來たし、小供は無論の事、女學校の生徒までが、この熊にリボンを飾り付けて、我机上に置くのみか、外出にも抱いてゐる、テディ、ベアを持つてゐ無いと恥かしい程になつてゐた。今日てはモウ夫程の流行は廢れたが、小兒の玩具としては、形が面白いのと危氣が無いのとて、尙ほ大いに持囃され、米國のみならず、歐洲一般に行はれてゐる。日本の玩具屋までも渡つて來てゐる。最初の製造元は、このテディ、ベアて巨萬の富を作つたとのことてある。

英國にはランドシアを初めとし、ヘリング。ハント。コットマン等の如き動物畫の大家が盟出して、其大作逸品は、處々の美術館に陳列せられてゐるし、又た此等を寫した印刷畫が盛んに行はれて、家庭の裝飾品となり、兒童等が日常之と親しむことは、無告の動物に對する愛情を增大するの効力を有してゐるのてある。小兒は動物を人化して、これに人情を感ずるものてあるから、此等名畫の彼等が德性に及す感化は必ずや大なるべきものてある。

◉『親王殿下』

こゝに予が滯英中に聞及んだ、眞に奥床しい美談がある。それは英國皇室に關したことて、皇后陛下並に皇太子妃殿下は仁慈の御心厚くおはし、下民を憐み愛したまふこと深うして、從つて臣民の陛下殿下を敬ひ愛すること、赤子の慈母に於けるが如きものがあるのてある。昨年八月の事てあつた。皇太子妃殿下が自動車に召されて、ロンドンを少し離れた田舍のリックマンスウオルスと云ふ地方に行啓中、其地のジョージ、ホテルの前で、過つて一頭の犬を輪にかけて轢き殺された。其犬は此ホテルの持主エドモンヅが子供等の可愛がつてゐたものてあつたので、殿下はいかにも不愍に思召され、車を駐められて主人を召され、同情の御涙ながらに、犬の非命を憐み給ひ、又た飼主なる小兒等に對しては甚だ相濟まぬ次第てあると丁重に御詫の言葉を下され、なほ代價を以て償ひたいと仰せられたが、主人は決してそれには及び申さぬ、代金など戴くべき犬では無い由をお答へ申したのてある。

數日の後になつて、一頭の小犬が大きな檻に入り、『小犬、注意を要す』との張札が付いて、汽車便にてホテルへ着いた。即ち皇太子妃殿下から、ホテルの小兒等へ御下賜になつたものて

あり、而も其小犬が、慘死した犬と甚だ能く類似してゐる事にまで、殿下は御心を籠られてゐた。小兒等は思ひもかけぬ賜物に望外の喜びをなし、且つ殿下の御恩德を記念する爲に、此小犬をば『親王殿下』と名づけて、下にも置かず可愛がつてゐるとの事である。

倫敦バッタシー公園附近に、野犬、野良猫の救養所がある、即ち貧犬猫養育院なのである。紐育にも同一の組織がある。又た頗る奇特なデビッヅ嬢と云ふ猫婆さんがあつて、此婆さんは、毎日午時になると、ケニントン公園へパンや牛乳を持つて往つて、其處等に彷徨つてゐる宿無しの猫に馳走をする。猫もお婆さんの姿の見えるのを待兼ねてゐると云ふことだ。

◉警察犬

紐育の警察ではセント、バアナード種または、ニューファンドランド種の如き、怜悧にて溫和なる犬を使つて、迷兒を警察へ連れて來る役を勉めさせてゐると云ふ話である。又たブラッドハウンド種の犬を使つて、重罪人の探偵をさせるのであるが、英國でも此の警察犬が頗る有用なる働きをしてゐるのである。ブラッドハウンド種の犬は嗅覺の極めて鋭敏なものであるので、昔時米國では逃走したる奴隷の追跡に使用したことがあり、犯人搜索の任務を與ふる警察犬には最も適してゐる。予が滯英中この警察犬を使用した最も著名な出來事は、八月に陸軍少將ルアード氏の夫人が、別莊に於て何者かの爲に殺害せられて、其犯人がドウしても分らぬ。それで警察は之が探偵は非常の苦心をなし、警視リチャードソンは自から二頭のブラッドハウンドを使つて、別莊附近から次第々々に手廣く搜索した。併し不幸にして、此時は二三日經つた後の事であつたから、其効が無かつた。犬が功を奏さ無かつたばかりか、人間の探偵も、今日ではシャーロック、ホームスの標本になるやうな者がゐ無いと見えて、遂に犯人を捕へることが出來無かつた。而も日ならずしてルアード少將が鐵道自殺をして、珍事に珍事を重ね、平素は聲を立てず、また街頭で高聲を發することを禁ぜられてゐる新聞賣子が、其日に限つて、大きなビラ札の廣告だけでは、もどかしがつて『ルアード將軍の自殺々々』と呶鳴つてゐた。

◉動物いろ〳〵

倫敦の馬は露國ほどには良くないが、でも頗る逞しい。辻馬車の馬さへ、骨の立つたやうなものは、廣い市中に一頭も無い。また市中の馬が、自動車や群集を見て驚くこと無きは、流石は大都會に馴れた文明馬である。辻馬車の馬の頸に鈴が付いて、走ると鈴がチリン〳〵、蹄が

カタ〳〵。夜の靜かなのに、其音が霧の中に消え行くのを聞くと、頗る俳趣味がある。扨て又た大八車を曳く馬は、ヨークシャー產の脚の大きい見るから强健で、乘馬や、馬車には適せぬやうに出來てゐる。

公園や植物園の池へ往くと、白鳥や黑鵠が、悠々と長頸を擧げ、小舟が浮いたやうに泳いでゐて、人が水際へ寄ると、近づいて來て餌を求める。雁、鴨の類の如き水禽も多い。そしていかにも良く人に馴れてゐて、彼等の間にボートを漕いでも、少しも驚かぬのみか、人近き樹の下、草の陰に巢を營んでゐる。人若し一たびハイド、パークのサーペンタイン池畔に立たば、このゆかしき光景に接することが出來る。テームスの上流に舟を浮べると、柳の影の碧を湛へた水面に、かの鳥の女皇たり、神話の靈鳥たる白鳥が、威風あたりを拂つて泳いでゐるのを見る。即ち英國水彩畫の好畫題を實地に目擊するのである。これ等の白鳥は堤に沿ひたる別墅の主人の放養するものであると云ふ。

倫敦の市街、または公園內で、人間の爲に備へた飲用水盤には、下に馬の爲の水溜がある。また其下の低きところは、犬の水呑場になつてゐる。

英國の田舍へ往くと、鶉、雉、兎などを飼養してゐるのを多く見る。それで秋になると倫敦

では兎が一疋五十錢くらゐな安値であり、下宿屋で兎の肉を出すと、又たか、安いから食はすのだと、予等は不平を云つたものだ。獨乙のライン河畔を通つた時には、鐵道に沿つた田野の間から、多くの雉が飛び立つのを見た。又た獨乙田舍の一名物は、鶴が百姓家の軒に木の枝を集めて巢をかけてゐることだ。これは予が露國から伯林へ往くまでの間に多く見かけた。

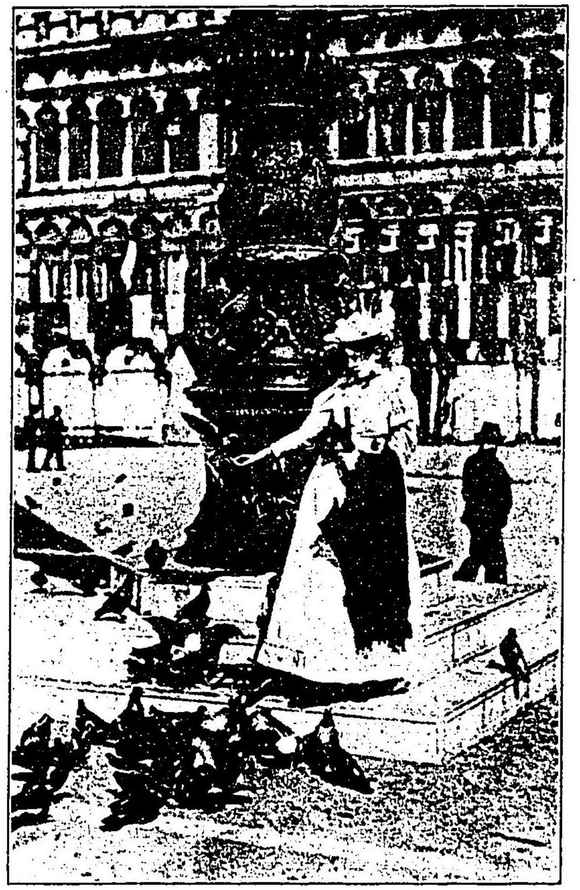
巴里へ往くと、馬が英國のに比べて小さく、疥せてゐるやうだ。辻馬車の取者は法螺貝を吹く如き奇聲を發して、確かに一名物である。巴里人は犬好きである。セーヌ河上の一島にある犬の墓地はタイしたもので、四十人の人命を救ひ、四十一人目を救はんとて却つて其命を殞した、セント、バアナード犬の墓碑には、犬が可憐の小兒を載せた姿を刻んである。動物園は又た英國、獨乙のそれと同じく小兒の遊樂場で、象乘、駱駝乘、駝鳥車などの餘興がある。

獨逸や英國は世界中でも獵區の設備が最も良く行屆いて、獵鳥の保護につとめ、巢を與へ餌を與へて其繁殖を計つてゐるのであるから、原野に食用鳥や小禽の多く飛翔するのを見るのである。國家經濟の上から、有益鳥類を良く保護する方法を講じてゐるは勿論、又た學校家庭でも野生の小鳥を保護するため、籠に捕へて馴養するのでは無くて、野放のまゝに馴らすことを樂しみとして、小兒等に其趣味を持たせることに勉めることが多い。囀禽類に巢を與へるが爲

に、庭先の木の枝、柱の尖などに庚申様のお宮のやうな巣箱をかけたり、また啄木鳥類の爲には、皮付きの丸木の中に穴を穿ち、同種の木の幹に吊して、容易に巣を營み、雛を孵すことの出來るやうにしてある。鶉や雲雀の爲には草叢下草などを植ゑる。そして野生鳥に巣を與へると共に、其餌食をも種々な設備によりて、豐かに供給するのである。森は開かれ、野は耕されて、野鳥は塒を失ひ、其繁殖を妨げられつゝあるのを、人工を以て之を保護する。されば英獨の如きでは、我國の如くに、年々に水禽小禽の數の減少する悲慘な狀態に陷ることは無いのである。されば都會に入つても、田舍へ出ても、鳥獸の類も數も、日本から見ると、いかにも多いやうな感じがある。

瑞西で動物中の名物はセント、バアナード種の巨犬である。アルプス山中同名の峠で、山僧が雪中行倒れの旅人を救ふ爲に此犬を用ゐたことが、犬族の美譚となつて傳はつてゐる。それで予はチユーリッヒやルセルンなどで、辻に張出した大ビラに、頸に藥餌の小樽を下げたセント、バアナード犬の姿が畫いてあるのを見た。何かの廣告札であつたが、此犬の名所だけに、そのビラは大きさに振つてゐると思つた。

以太利ヴエニスは、水の都で、通路は運河であり、交通は風雅なゴンドラによるのであるから、牛馬には全く用が無い。ヴエニスは世界中にて最も動物の少き都である。只だ珍らしさはサン、マルコ寺院の廣前の、群衆雜踏の間に、無數の鳩のゐることで、これは所の一名物となつてゐる。淺草觀音で鳩の豆を賣つてゐるごとく、サン、マルコでは紙の角包に玉蜀黍を入れて賣る。其玉蜀黍を買つて、手の中に入れてゐると、鳩が何羽でも飛下りて拾ふ。予はそれが面白さに數袋を掌中で與へ、後には十袋ほどを一時に買つて、バラバラと投げ



ヴエニス市サン、マルコの鳩

與へたれば、側にゐた以太利人どもは、外國人が鳩に浮かれて妙な事をするわいと云はぬばかりにギョロ〳〵見てゐた。

ネーブルスて珍らしいのは山羊の乳賣だ。多くは女が數頭の山羊の頸に鈴を付けて、チリンチリンと鳴らさせながら、町を歩く、呼ぶ人があると歩を止めて、即坐に山羊の乳を絞つて賣る。又た此地には多く驢馬を用ゐて、青物屋などが行商の荷車を曳かせてゐる。埃及では又た盛んに驢馬を使用するので、長幹肥大なるアラブ人が小さな驢馬に跨り、兩足が地に附かんばかりなのは滑稽である。農夫や人夫が能く駱駝を使ふのを見ると、荷を積む時には、地に俯してゐるから、容易に積める、それが濟むと立ち上る。凡そ懶惰な熱帶人に取りてこれ程便利な動物はあるまい。紅海の沿岸沙漠の中遙かに點々として蠢動するものは皆駱駝である。

所變れば品變ると云ふが、予はコロンボに於て馬の如くに騙る牛を見た。予等は上陸して馬車を傲ひ、海岸を驅けさせてゐると、數人を乘せた箱車に、驢馬程な角の短かい小牛を繋いだのが、予等の馬車と同じやうに驅けてゐた。之を見ると予は『ア、牛が走る〳〵！』

地を異にすれば牛さへ走る國がある、『牛の歩みは遲くとも』と歌はれぬところがある。されば海外の動物が日本の動物と其境遇を異にすることは當然てもあらうか。日本人が洋行して海

外の空氣に觸れると外人の生活狀態、物質文明を、誰一人として羨ましく思はぬものは無い。されど又た人間には理想と痩我慢とがあるから、西洋は西洋、日本にはまた格別の長所美點があるとて諦める、又た威張る。されど若し理想も痩我慢も無い牛馬を洋行させて、海外の同族を見させたなら、心あらば何程羨ましく思ふことてあらうか。否、歐米の遠方て無くとも、印度支那の同族を見ても、遙かに己等の境遇の劣れるに歎息することてあらう。

婦人觀

動物の後に婦人を置くのは、頗る不敬に渉るの庶れがあるかなれど、これはワザとかく計らつた次第ては無うて、元來が思ひ出にまかせて、散漫に書く見物記てあるから、ツイかやうな事になつたのてある。ドウぞ大目に見て貰ひたい。

扨てこの婦人觀だが、これも例によりて多岐に渉るのてある。但し主として英國に就いて云ふのてある。抑も婦人とは、一個解釋すべからざる不可思議てある、ミステリーなのてある。古往今來男子にして、女性の性格を知り盡したものがあるかドウだか？　また女子を統御する

のコツを得た男があるであらうか？　予も多年女子心理の一方面に就いて研究して見たことも
ある、著述を公にしたこともあるが、扨て眞に解釋し得たことは少いのである。ところで今
は婦人論を書くのて無い。歐洲旅行中、婦人に就いての皮相の觀察だけを陳ねて見たいのてあ
る。性格の點にまて及んて研究したのて無いから、蓋しこの觀察は全くの皮相に過ぎ無いのて
あらう。

◉美女の露國

露國には美人が多いとは誰しも云ふことてある。但し下等なムジークの女房や娘の、頭を更
紗の風呂敷て包んてゐる類のものを云ふのては無い。彼等の中にも、能く磨きをかけたなら、
マンザラ見捨てたものて無いのもあらうが、蓋し露國に美人ありとは、其中流以上の社會で、
公衆の目に映ずる處から推して云ふのてある。そして其露國美人と云ふが、概するに丸ポチヤ
式て、ドコか佛國の女に似たところがあり、人相から觀察しても、善惡共に佛國婦人のやうて
あり、またサウあり得るものと思ふがドウてあらう。
露國人は太平の民てある。度量が大きくて、日本人のやうに神經質て無いからでもあらう、

革命騷ぎ、戰敗の餘を受けて、大借金をしてゐても、お上から勤儉貯蓄の御布令が出るでも無
ければ、報德教一流の巡回傳道師が其筋から派遣されもせぬやうだ。社會が歐洲の何處とも同
じやうに、否、獨乙などよりは一層甚だしく佛國風に感染してゐる。佛國風と云つたところて
眞の佛國風は儉約な仕末な所が多いのてある。佛國は金貸の國てある。他國に贅澤を供給する
國てある。金貸とは爪火て、紺屋は白袴てあるものだ。露國などはこの金貸國から大借金をな
し、この贅澤問屋から贅澤を仕込んて來る。佛國から借りた金て、佛國の美酒を飲む。女子は
態々巴里まて衣服や帽子を買出しに往くものもある。――態々巴里まて買出しに往くは、關稅
を逃れるためてあるとは云ふが、それにしてもスバラシイものだ。如斯くにして露國は佛國て
外國向に製造する贅澤な淫靡な風を輸入するのて、人は稱して佛國風に感染すると云ふ。露國
のみて無い、墺太利などもそれ、獨乙と雖も、英國と雖も、この所謂佛國風が、非常な勢て侵
入して來るのてある。佛國風なるかな！　これは又た希臘風なりと云ふことも出來る、又た羅
馬衰微時代の風なりと云ふことも出來る、決して健全なる風ては無い。而してこれを文明の風
と稱へるのてある。佛國其者にも、この所謂佛國風、希臘風が盛んて無いと云ふのては無い。
否、大いにある。金貸の亭主はつましくて、女房は兎角ピラを飾るやうなものだ。而して佛國

風たり希臘風たる道德習慣の輸入者は誰なるぞや？　即ち婦人である。然らば婦人とは文明風の先驅か？　抑も亦た文明の裝飾品なるか？

露國も歐洲の一文明國たるを以て自任してゐる。憲法政治が布かれるより前にも、人民が未だ自由を享けず、普通教育が行渡らぬ今日でも、建築、繪畫、美術、音樂などの文明の裝飾が我れ劣らじと進歩してゐるのである。されば文明社會第一の裝飾品たる婦人が贅澤に流れ行くのは、思半ばに過ぎざるものがあるのである。日本でもその通で、露國に勝ちて、世界の第一等國になつたと云ふことの證據であらう。近年に至りて、文明社會の裝飾品たる婦人が、ますます贅澤になり派手になつて來る。而して歐米の大國に於けるそれの如くに、亭主はいよ〳〵女房や娘の爲のビル、ペイヤー（勘定方）となり下りつゝある。

◉世帶持の獨逸女

獨逸は元來儉約な國民であつた。其女子は容貌が所謂獨逸風で、美人が至つて寡い。露國を去りて獨乙へ來ると、女子の醜いのに失望する。文明の皮相を觀て察する我等式の旅行客の事であれば、この文明の裝飾品たる女子のまづいのには失望せざるを得無い。彼等が伯林の市街

を歩くのを見れば、服裝の如きも、他國の女に比して、頗る質素であるから、猶更見劣せらるるとは、前にも述べたとほりである。予は英佛の美人國を去りて、再び獨乙に入つた時には、猶更此國の女子の醜なるに呆れたのである。元來の木地も惡いのであるが、要するに磨ぎが足らぬのである。獨乙の國情が、未だ女子をして專ら文明の裝飾たらしめて眺めてゐるだけに泰平安逸で無い。人民もそれ程に餘裕が無い。富力は增殖して來たが、まだ女に贅澤をさせて遊ばせて置くだけの餘裕があるものだとは覺ら無いで、英國を凌がう、佛國に怒しやうとて齷齪とし、勤儉尙武でやつてゐるから、女子も家庭に雌伏するに甘んずるのではあるまいか。獨乙の女は聞くところによると、世帶が上手で、良い家持であるとの事だ。而して獨逸も他の文明國同樣に女の數が男よりも多いからでもあらうし、又た生計が困難であるから、結婚が容易で無い。然るに女は英國人ほどに個人的思想が發達せず、世帶じみてゐるから結婚を欲する——勿論これは東西を問はず、女子の天性ではあるが、世帶じみてゐるだけに、獨乙女は英米の女よりも一層結婚を欲する。されば外國の男であらうが差支へ無い、誘ふ水あらば、去んとぞ思ふのである。そこは日本の女などとは違つて世界的なのである、つまり文明的なのであらう。日本留學生がやゝともすれば獨乙女に關係を付けるのは、即ちこれが爲て、先づ女の方から容

易に靡くのである。

英國大藏大臣ロイド、ジョージ氏は獨乙の主婦を評して、家庭道德の模範なりと云つた。然るに、獨乙國婦人進步運動の首領を仰がるゝカウエル夫人は、之に答へて、ロイド、ジョージ氏の見た婦人は、獨乙上流社會のものゝ事とすれば、適當な評言である。上流社會の主婦たる人は眞の意義を有する近世的婦人である。さりながら、普通一般の女子に至りては、今日の時世に尙ほ女子は家事萬般を處理すべき役目のあるものと心得、それが爲にあたら惜しき才能を家政の雜務の爲に消耗して了る。夫や小兒の奴隷となるに甘んじ、これが爲に夫は妻を目するに家政を掌ることが、其天分であるとする。獨乙婦人は溫良で愛らしいかなれども、意志が撓みやすく、己を犧牲とすることを喜ぶ、品格や個人性の力を欠いてゐる。英國婦人を見れば、獨乙婦人よりは遙かに堅固な個人性を有して、意志を曲げ無いところがあるから、容易に統御することは出來ぬ。想ふに英國男子が獨逸婦人を妻としたら、家庭は圓滿であらうが、之に反して獨逸男子が英國婦人と婚したら、其結果は大いに趣を異にするであらう云つたのである。

しかし此の進步主義の婦人と云ふものゝ目に欠點と映ずるところが、これ亦た獨逸婦人の特長であつて、これは何處までも保存し無ければなるまい。成程個人性の發達も必要であるが、

是が爲に家庭の奴隷たることを厭ふやうにならば、則ち女子の天分を壞るものである。個人性が乏しいため、女子は容易く男子の爲に德操を弄ばるゝと云ふ弱味がある。これは西洋はどこでも男女交際の自由な國の女子の有する危機である。但し女子德操の維持には、個人性の力が必要であるばかりで無い、ドウしても家庭の規律と社會の制裁とが大いに嚴重でなければならぬ。女は情の動物であるから、其意志は曲げられ易いのだ。獨乙女は世帶氣が多いだけに情に絆され易いさうである。而してミユンヘンの如き風俗の寬いところの女は、獨乙中でも殊に品行が亂れ勝ちであると云ふ。

獨乙の下婢は、兵卒、巡査、郵便脚夫など、何でも嚴しい制服を着た男を理想とするので、給金を男に注ぎ込む。臺所へ引き込んで、主人の酒や肉で御馳走をする。日曜には手を引いて公園を散步する。伯林の市街で女中と兵卒とが手に手を取つて步くのを多く見かける。

獨乙女は家政向に出來てゐるから、卑近な例が、數人の下宿人を置く家でも、女中を置かずに、主婦が娘を相手に働いてゐるのが多い。同じ程度の下宿屋でも、英國で見ると、女中の二人くらゐも使つてゐる。要するに獨乙は生計が英米に比して困難であり、女中の給料が雇切で一月三十マークにもなるのであるから、並大低の家では女中を使へぬところへ、主婦が家事を

好み、また食事とて、普通の家なら、朝がコヒーにパン、昼は暖いもの、夜が冷肉くらゐの質素な事で足るので、細君もさまで骨が折れぬのである。

獨逸人民は生活難の狀態である。尙武の國は人民が貧乏なものか。しかし獨逸の軍人は日本の軍人に比すれば、遙かに贅澤なものであるさうだ。交際費が多くかゝる。それで貴族や富豪の子弟の將校が自然幅を利かす。又た妻帶せば猶更家計や交際費が嵩むのであるから、貧乏者は家を持てぬ。よつて青年將校は婚を富人に結ばんことを理想とする。女はまた上より下まで押並べて制服好きな獨乙風の然らしむるところ、將校の妻ならんことを光榮としてするものが多いのである。

要するに獨逸婦人は家庭的である。英米人に比しては良い世帶持である。それが獨乙婦人の特長と云つて可なりである。然るに時世の感化は免れ難きもので、彼の所謂佛國風が次第に上流より中流に及ぼして來りつゝあつて、それが風習の上のみで無く、女子の德操にも影響し、彼の由來多產なる體格の女子が、人工を以て不姙を計るやうにまでなりつゝあると云ふ。されば つまり獨乙婦人も亦た著しき勢で、文明の裝飾品たることに進むのである。前進なるか、背進なるか、いづれにもせよ、進んでゐるものと見て可なり。

◉英國婦人の標式

英國の婦人！　標式的な英國婦人の面相を云はうなら、丈はスラリと痩高で、細腰で、顏は爪實で、鼻は勿論高いが小さい。眼はパッチリ、眉はこれが眞の三日月を長く引いてゐるのである。額は廣くて利口さう、髮毛はブロンドの淡い金髮も、ブルネットの黑いのも、これは姉妹でも異ふから標準にはならぬ。扨て眼はパッチリだが、佛國式の女のやうに丸く大きくは無い。寧ろ二重瞼の細長いのがタイプではあるまいか？　しかし西洋婦人は顏の表相に注意するものであつて、英國女は殊に上目を使つて目を大きく見せる。細長い眼は、日本婦人のやうに伏目勝だと、いよ〳〵細く小さく見えて、甚だ引立た無い。扨て此の標式的な英國婦人、これはゲーンスボロウ。ローレンス又たはレイトン以下の美人畫家の描くところのモデルであるのだ。而して倫敦のウエスト、エンドの繁華な通や、劇場乃至ハイド、パークあたりでは、此の式の美人を見かけることが甚だ多いのだ。予は窃に思ふに、英國は歐洲一の美人國ではあるまいかと。西班牙のヴアレンシアは美人の名所であると云ふことだが、其地に往かないから知らぬ。佛國に遊んだ人は、巴里に美人多きことを稱するかなれど、予が數日の滯在の觀察で

は左程の感じを得無かつたから、自家の觀察の限界を以ては、英國の男子が、歐洲の何人種にも勝りて好紳士の風采態度を備へてゐるものなることに異論の無きとほりに、英國婦人は、歐洲一の美人であるとしたい。勿論無鹽に似たる醜婦は多いことであるが、西施にも唐突すべき美人を多く街頭に見ることが出來る。

◉英國の母

佛國の碩學テーヌが言に、英國の歴史を簡約して評すれば、即ちゼントルマンの一語に歸すると云つたが、英國は實に紳士の國であつて、而してこのゼントルマンの語は他語に反譯すべからざるもので、其國民の誇りとするところである。此れと共に、ホームの語も亦た反譯を許さゞる英語である。即ち英國の誇るところであるが、又たこのホームを成せる『英國の母』とはゼントルマンに好對するもので、彼れ英國の母は其ホームをば、所謂嫉妬的に保護するにより て、英國の強大を致す所以の源泉が、此處より滾々として湧き出づるのである。

予は或日下宿屋の主婦ウォルトン夫人と雜談の折柄、英國に於て社交的婦人の增加することは、國家の爲慨嘆ずべきことである。希臘、羅馬の滅亡は、婦人が家庭あるを忘れて社交に流

れ、從つて德操の頽廢を來たしたのが大原因である。社交的婦人の增加は英國の呪咀であると云つた。ウォルトン夫人は、タイムスの寄書家であつた法律家の寡婦だけに、少しく物が言へる。されば予の評言を聞いて默つてはゐ無いて、社交的婦人は識者の擯斥するところである、決して增加はせぬ、却つて減少する。君等のやうな外國人は、眞に美はしい家庭へ入ることが出來ぬから、ドレ程立派な婦人があるかを知らぬのであり、又た知ることが出來ぬのだと激した。予は、いかにもサウである、英國人が今日の强大を致す所以は、堅實なる家庭があるによることは異論が無い、それは堅く信じてゐるのである。されど社交的婦人の增加は、世界の大勢で、英國と雖もこれより免かるべからざるものである、否、激增の勢を示してゐるから、心あるものは之を慨歎し、其歎聲は新聞雜誌にも洩れてゐるのであると云つた。

日本人の友人は多年親密の間柄でも、家庭を開いて外人を歡迎することをせぬ、其處には何と無く打解けぬところがあると西洋人は非難する。これは强ち日本人ばかりでは無い、成程米國人などは、少し親密になると、外國から來た人でも、容易に家庭の友とするの風があるが、英國人は漫りに人に打解け無い性質を帶びてゐるから、通一遍の旅客が、紹介狀くらゐで尋ね て往つても其家庭まで立入つて知ることの出來るものでは無い。予が歸朝すると、某婦人雜誌

記者が、英國の家庭の內情はドウであるかと問いたから、予は唯だ知らぬ、知ることを得ずと答へたのである。これが眞に正直な告白であらうと思ふ。家庭を嫉妬的に守つて、容易に他人に許さ無い――客を歡び迎へて馳走をなし、宿泊をさせるのは、家庭を公開すると云ふことで無い。英國人の特長たる個人性は、一人として他人に對する時のやうに、一家庭として他家庭に對するの個人性ともなり、一國として他國に對するの個人性ともなる。

◉現代的婦人の理想

かやうな堅固な家庭があり、其主宰者として、淑良なる英國の母のあることは、其國家の至幸であるが、扨て英國に於ても社交的婦人は頻々として增加し、即ち良妻たり賢母たるを厭ひて、文明の裝飾品たらんことを喜ぶ女子の益す多くなることは、實に現代の風潮の然らしむる所である。昨年米國の社會小說家ヘリック氏が『共接』と題する小說を著し、深刻なる觀察、犀利なる筆鋒を以て、米國婦人の六標本を縱橫に描寫したところが、米國婦人社會は非常に憤昂したと云ふ。いかにもサウであらう。予も此小說を讀んで、寧ろ其辛辣に過ぎたるに驚くところが少くなかつたが、蓋し此小說は現代婦人の傾向を容赦無く暴露したものである。倫敦の

『評論の評論』は、『近世の妻、現代の悲劇』と題して、此小說に對する長文の批評を載せた。先づ『共接』の描いた如き婦人は獨り米國のみにあるので無く、倫敦に於ても少く無い。かゝる婦人は現代の二風潮、即ち贅澤宗の流行と、婦人社會の覺醒との產物であると喝破した。『共接』の六主人公は、おの〳〵其性格を異にしてはゐるが、其一人を除くの外は要するに所謂現代的婦人なるものである。彼等の性格を解剖したものゝ片影を書中より少しく引用して見やう。

婦人は既に家庭の建設者でも、防禦者でも無く、既に經濟家でも、花でも無い。さらば何であるか？　即ち消費者である。つまり女は女皇であり、治者である。男には金あり、女には其身體あり、美容あり。男は終日働き疲れ、埃に塗れて、市場より女の許に歸り來り、その獲たるものを擧げて女の足下に捧げる、女は之に對して、其才智や、衣服で飾り、寶石で閃く美貌と其軀とを與へる。女は女皇である。夫を喜ばせ、夫をすかし宥めては、また朝の齋闘に押出して、更に多くの金銀を獲て歸らせ、女を一層豪く美しく見えるやうにさせる。女は美しき部屋で、多くの女中に取卷かれて惱け暮らすか、又は亭主を治むる女皇の威勢これ見よがしと世間を邊り歩く。

女は手業の働きよりも、子供を產むの苦勞よりも、更に樂なことを發見した。即ち昔の主人

を今は却つて支配する、奴隷が主人を統御するの秘密を發見したのである。

結婚はしたが、此男を愛することは出來ぬ。此人と共棲して子供を産み、奴隷となつてゐることは此心が承知せぬ。我は女皇であるぞ！　此男が最早我を嬉しがらせ無くならば、直ちに離縁を申渡して、他の好きな男を迎へやう。さうしてこそ我はエライものだ。靈性を有する人間と云へるのだ。男が我の氣に入らうとならば、一度だけ愛を獲たのでは駄目だ、毎日毎日求婚する心持で仕掛けねばならぬ。

今を盛りの花にも似たる女が、美衣美食で、大ホテル、巨船、また贅澤三昧の汽車で遊び廻り、肉情を旺んにし、彼方此方と無用のお喋べりをして歩く。そして女たる第一の役目を失ひ、小供を産むことを欲せず、又た産むことが出來無くなる。それで自由だと喜ぶ。女は男財布と靈魂との看守である。女は意中の男に囁いて云ふには、『サアお金を持つてお出で、キッスをしてあげますよ。世上て私の事を豪い女だと評判を立てゝ下さい。さすれば自分でまた大聲に吹聽して廻ります。他人の家に勝つた宏大な家を建てゝ下さい。姉妹よりも豪いものにして下さい。さすれば美しい衣服と、品良い姿とて、あなたの名譽を高めませう。』女は三十にならぬと戀愛を解せぬ。それまでに小兒を産むことは出來るが、男を愛することは出來ぬ。戀愛が起ると、往々我夫より以外の男を慕ふことになる。

新婚の妻は歎じて、『男とは獸慾的なものだ。結婚には神性と獸性とが交雜してゐるが、自分は神を見ずに、獸ばかしを見る』と。さて懷胎したとなると、妻は處女的の精神で大いに之を忌み、自分は子を産むと云ふ、牛さへするつまら無い事の爲に生れて來たのでは無い。自分の快樂、活動の爲に生れて來たので、これを棄つるの意志は毫頭も無い。子を持たば、交際社會に出るに邪魔だと歎じた。――貴族主義は石女によりて發達するものだ！

友人が我夫の英邁にして成功を獲たることを褒めそやし、おまへさんも自慢であらうと云へば、イサベルは微笑して『無論ですわ。てもね、時々は、平常用になる交代の良人があればよいにと思ふんですよ。』

愛と結婚とは全く區別のある、互に獨立したものだ。愛は神の造りたるもの、結婚は社會の造りたるものである。

◉社交的婦人

二十世紀の婦人――財産あり、教育ある婦人の理想が、『共棲』から爰に引用したやうなもの

なら、男子たるものは、實にミジメな次第である。ヘリック氏の云ふ所は酷に失しないとも限らぬが、世間の風潮から察すれば、社交的婦人なるものは、正しく此の理想の方向に進んでゐるのである。男子とは女子の爲めのビル、ベイヤー(勘定方)で、苦々と稼いで、女に贅澤をさせる器械となるのである。女子の自由とは、男子を凌駕し之を苦使して、自から安樂を計り、犬に骨を折らせて、甘い餌を横取する鷹となることでありとすれば、國家の爲婦人の自由にならぬことが幸福である。婦人が少しの教育と、亭主から絞取る金とを衒つて、交際社會に金棒を引廻つたとて何の役に立つものか？　役に立たぬどころか、家庭に於ける實際の權力を犧牲として、これを奉公人の手に委するのである。女が社會に出る其一歩々々は、天賦の權力を一分宛に喪失することなのである。家庭と云ふ大責任を打忘れ、家庭の俗務に服し、兒を産み、之を育てるが如きは、馬鹿な女のすることぞ、我等如き豪いものは、社會に出て、國家の爲に奉ずるて無ければ、天下を如何にせんや、男子のみに任せ置くべき國家て無い、政治て無い、外交で無いなどと、それでいろ〳〵オセッカイをして見るが、つまり何の役にも立たず、却つて男の爲の傀儡となりて使はれるに過ぎ無い。それて良人の政治運動などを助ける利益もあらうが、要するに我人格を損ひ、剩さへ社會に害毒を流すことが多い、是が現代の狀態である。

前の英國海相は曾て獨乙皇帝から親翰を下された。これはつまり英國海軍に對する一の中傷策であつた。大臣は之を秘してゐたのに、其夫人は交際社會へ其手紙を持廻つて、妾の夫はエライものであらう、獨乙皇帝から親翰を賜はる程の人傑だぞと吹聽した。それを見兼ねたタイムスは遂に此の秘事を素破抜いたので、國内の大物議となり、英獨の惡感情を更に增大したのであつた。

又た米國などには——英國にもあらう——社會の金棒引たる社交的婦人があつて、内政や外交の事て、少し明き込む事とがあらうものなら、それに關係ある人々に電話をかけたり、訪問したりなどして、頻りにオセッカイをする。然るに婦人尊敬主義て、ウカ〳〵此のオセッカイに乘らうものなら、飛んても無い失策を仕出かすことも珍らしく無い。某國

芝居跳りの婦人

の外交家は、自國の移民政策を先づ華盛頓交際社會の婦人に洩したが爲に、國務次官等の憤慨を買ひて、外交上尠からざる不利を招いたことがあつたさうな。

理想の亭主とは汗水流して、女房の贅澤費用を、成べく多く作り出す器械なりと認むる社交的婦人になると、近處合壁の女房連を語り合はして、夏に冬に、米國からは英國、英國から歐洲大陸へと遊びに廻る。そして、私の亭主は親切者です、能く拵いて私をかやうに遊ばしてくれると云ふのである。而して贅澤な眞似をして船に乘る、汽車に乘る、ホテルに泊る。自分の懐中を痛める金で無いから、湯水の如くに遣つても惜しく無い。而もかゝる遊樂には屢ば節操上の危險が伴ふのである。若しそれ大船の船長などに聞いて見よ、かゝる婦人、立派な亭主のある細君で、船中の長旅に、其節操を破るものゝ恐ろしき實例を語ること稀ならず、且つ女一人の船旅は最も危きものだと云はねは無からう。英米の婦人は處女として、比較的堅固であるが、一旦人の妻となつたもので、其貞節を破るものゝ少からざることは、他國の事ながら慨嘆に堪へぬ次第である。罪惡の結果を生じ無いやうな方法が完備し、女子能く自衛の途を知るが故に、恐るべき奸淫の罪をさへ恐れ無くなるのだ。

◉頼みがたき夫婦仲

夫婦は神の合せたるものにして離すべからずとの基督教を奉ずる國でありながら、英米、殊に米國に於ける離婚の數は、年々增大して、世界に冠たりとの稱がある。これには多くの原因もあるが、第一男女自由交際の國たり、自由結婚の風習なるを以て、中學時代の男女生徒十五六歲にして既に結婚し、或は驅落をするさへあるなれば、從つて一旦心が盲目になつた情熱の火が消えるなら、離婚沙汰を生ずるの多きは蓋し當然の事である。離婚の責は素より男子に歸することが大なりとはいへ、また所謂『婦人の自由』の然らしむること甚だしきものがある。夫婦の唱和してゐる間は、人目も見苦しい程に縺れ合ふ、男はしきりと女の機嫌を買ふ、聖經の敎に從つて男女一體を信じてゐるが、一度反目するとなると、アングロ、サクソン人種の特質たる個人性は夫婦の間に恐ろしい程に覺醒して、乍ち離緣沙汰となるのである。英國では、結婚の禮を行ふに二つの方法がある、一は敎會に於て宗敎上の儀式を守るものと、他は登記所に於て法律上の登記をなすものとである。然るに宗敎的結婚をしたものは、いざ反目となつた場合に離緣をしたくとも英國の國敎が之れを認め無い。唯だ夫婦のいづれかゞ奸淫の罪を犯した

る場合に於てのみ、離婚を許されるものであるから、目的の爲には手段を擇ばずして、公然此大罪を犯す男女もありとかや。さればこの弊害を救はんが爲に、宗教上離婚許認の事が、多年英國の一大問題となつてゐるかなれども、未だ決定し無いのである。亡妻の妹との結婚を公認するの問題も、多年の論題であつたが、漸く去年になつて議會の可決するところとなつた。蓋しこの亡妻の妹との結婚が違法と認められてゐた間にも、これを實行するものが多く、宗教家さへ其宗禁を破るものが出來たので、大勢の然らしむるところ、先きの違法は今や合法の事と公認せらるゝに至つたのである。

いつとなしに夫婦が分れ〳〵になつて、公然離縁の手續が出來ぬから、共に踪跡を晦まし、數年の中には、相互に忘れて仕舞つて、各々又た新たに結婚する。それが社會は廣いやうなもので狹いから、いつか昔の夫婦が全く異つた境遇にて、意外な顏合せをすることがある。劇場とか、宴會とか、料理屋とかで、死んだと思つてゐた元の亭主の顏を見付て、女の顏色は俄に變る、側なる今の亭主は其譯を知らぬから驚く、女は唯だ急に氣分が惡くなつたと其場を繕ふたが、それ以來一生の間、心中に恐怖を抱くと云ふ例は、たゞに小說ばかりて無く、實際にも間々あること、聞く。上院議員某の祖父が、亡妻の柩を送りて墓地に到れば、また別に何者とも知れぬ男が、亡妻の葬式を營みに來てゐる。而して驚くべし、其兩人が弔ふ亡き妻とは、同一の女であつたのだ。

近年の話であるさうな。或日倫敦の大墓地で起つた珍聞がある。某と云ふ倫敦著名の一紳士が死亡して新聞に廣告が出た。さて其柩が墓穴の中に下されると、寡婦は百合の花の十字架を投じ、鄭重に亡夫の靈を弔ひて、墓邊を去ると、直ちに會葬者の中からして、厚さヴエールに顏を包んだ婦人が現はれて、一束の菫を柩の上に捧げた。其擧動が頗る怪しいので、喪主たる寡婦が段々穿鑿して見ると、後から出た女は、昔この死人の妻であつたのが、十五年前に失踪した以來生死不明であつたため、夫は新に妻を迎へたのであると初めて知れた。彼のヴエールの女は田舍に棲んでゐたが、新聞紙上で先夫の死を知つて、野邊の送りの時に現はれ出てたのであつた。

倫敦の貧民窟のある長屋の一室に、年は三十四五と覺しき女が大病に罹つて臥てゐた、病名は酒毒症で、既に死に瀕してゐた。それで慈善會の手で看護婦が附いてゐたが、或日診察に來た醫師が看護婦に向ひ、この患者は最早危篤であるが、闘らず當人の夫なるものゝ名が知れたから、先方へ通知してをいた、多分今日の夕刻にもなつたら訪ねて來るであらうと云ひ殘して

去つた。果して其日の午後八時頃になると、風采の堂々たる一紳士が、この長屋に來て、何某夫人が病氣危篤であると聞いたので、最後に一目會ひたしと告げ、看護婦を遠ざけ、獨りて患者と數分間の語を交へた後立ち歸つた。それより二日目に病婦は遂に死亡した。扨て彼の紳士が訪問の翌朝、看護婦が新聞を讀んでゐると、昨夜議會に於ける何某代議士の演說を全載してあり、正しく政界に一波瀾を起したる大演說であつたのだ。而して其代議士の名は驚くべし、今や我側に氣息淹々たる病婦と同名であつた。即ち昨夜の紳士は、瀕死の妻の病床を辭するや否や、下院に出席してこの大演說をなしたものである。病婦は即ち此政治家の妻で、數年間行方を晦ましてゐたのが、死に臨んで醫師に秘密を打明けて、其罪を夫に謝するの機會を得たのであつた。

◉結婚難

イブセンの散文劇『人形の家』は、八年間夫に連添うて三人の子まで生したるノラが、一旦の動機から、自分は夫の人形でも無く、小鳥でも無くて、一個の人間なることを自覺するや、直ちに夫に離緣を申渡し、最早妻て無い、これまでの夫は他人てある、他人の家には一夜たりとも泊つてはゐられ無いとて、早々荷物を纏めて去つたと云ふに局を結んてゐる。これ即ち現代の婦人の覺醒、語を換へて云はば、女子の自由からして結婚が困難になることを寓したものてあり、現代婦人思想の破壞的方面を現はしたものてあるが、是ては社會が成立して行かぬ。イブセン的の思想のみては收まりがつかぬ。それて此思想のあるは免れ無いが、之を調和して、曲みなりにも建設的に導かうとするのがバアナード、ショウて、予の倫敦へイマーケット劇場て見た、彼れの會話劇『成婚』は、劇としては見榮の無い、感服の出來ぬものてあるが、ショウの理想を見るべきものとし、又た現代婦人思想の三方面を現はしたものとしては、大いに價値がある。一人の年若く、教育は乏しく、唯だ金があり、贅澤の出來るのを好む女は、老人の夫に連添ひて、我儘に振舞つてゐる。又た一人の理想もあり教育もある女は、一將軍の求婚に應ぜず、男の思想と性行とにどうしても一致することが出來ぬ。例へば、男は女の嫌ひな煙草をやめぬ。然るに女の方て讓步して、自分の理想を屈して男の意に同化することが出來ぬとて結婚を拒む。又た僧正の娘て可憐な美人は、既に好男子と婚約を結び、唯だ〳〵合巹の日を待つてゐたのに、女が不圖、一社會主義者の著述を讀むと、結婚した女は不幸なものてある。其一生の運命は夫の境遇によりて支配せられ、夫が事業に失敗した擧句に死なうものなら、妻と子

供とは路頭に迷はねばならぬ。女は獨立すべきものである、結婚すべきもので無いと論じてある。娘は乍ち此の議論に感化せられて、結婚に不承知を唱へる、男は困る。然るに種々と話の末が、これでは纏りが付かぬからと、トウ〳〵折合ひ、男女は生命保險會社で保險を付け、結婚を登錄して、先づ目出度くなつたのである。この三種の婦人は、確かに現代英米婦人の標式であり、而して第三の者で、兎に角定りをつけたところが、即ちショウの建設的思想のイプセンの破壞的思想に異るところなのである。『人形の家』を見ても、『成婚』を見ても、男子の思想は單純で、ドウでも良い、唯だ妻なるものを持ちたいとの事であつて、多大の交讓を許すのであるが、女子の方では、新思想、新智識に馴れ無いて珍らしいところから、其天性を曲げられて交讓の禁度が未だ開けない。女の贅澤心、虚榮心を滿足せしめねばならぬ經濟難に加ふるに、女子の覺醒と云ふ思想難もありて、男子たるもの熟ら考ふれば、結婚の容易に出來ぬことが、今の英米社會の實狀である。人類の爲に恐るべきは贅澤の流行と婦人の覺醒とである。

英國の女子には其國民の特質たる個人性が、大いに發達してゐる。遺傳的の習慣性となつてゐる。道德思想の發達よりも寧ろこの個人性の強くして自衛の道を知ると、また社會の制裁が強い爲に、處女の節操を守ることは割合に堅固である。(敢て既婚の女が然りとは云はぬ。)一旦

墮落すれば淫賣にてもならねばならぬ。されば店の賣子、飯屋の女中、家庭の下女ごとさすらが、其品行の正しさことは、大陸の同種の女の比ては無く、また米國の大デパートメント、ストアの賣子が殆ど皆淫賣兼業であるのとは差異がある。米國では、生計が困難で、而して上を見倣ふ下も贅澤の眞似をしたさに、店の賣子などは、給金だけては生活が覺束無く、まして身の廻りを飾ることが出來ぬ。それて初な生娘もツイ〳〵墮落の深みに陷る。賣子が給金の少きを歎ずれば、賣子頭の女が周旋

五人候補者の競爭

(I)銀行の小切手を早く書く競爭。(II)伴なす流す競爭。(III)女の帽子の買ひ物。(IV)冷水一杯と酒、ていに先店に待ち迎へて元氣を屈つて飲ませる。

ウイスキーは勿論ぬ。

冷肉一塊と甘い菓子を買ひ物をする。

して客取をさせる。賣子とは淫靡なものと、社會が相場を定めてゐて格別怪しみもせぬ。然るに倫敦などては、彼等の階級もこゝまでに腐つてはゐ無い。女の心がッイ男に向いても、結婚してくれる決心か否かと念を推し、『然り』との確答を得ぬ中は、キッスだに許さぬさうだ。下女社會の者てすら然りてあると聞いた。男が苟旦にも『然り』と答へたら、結婚はせずとも、女に對して責任がある。濫に之を破らうものなら、約束違反て裁判に訴へられる。男が外國人て本國へ歸つて仕舞へば、女の友人等は金を出してとも後を追掛けさせる。

女あり、男と約束が成立つて、或日裁判所へ出て、結婚の式を擧ぐるになつて、女の方から一通の契約書案文を示して、法官に向ひ、此男は氣立は好いが、兎角浮氣で困るから、此通りの證文を入れてくれさへするなら、いよ〳〵結婚を承諾しやうと云ふにぞ、それを讀み下して見れば左のごときものだ、

予は平和の判官及び、今より我妻たるべき女子の前に於て、左の條々を嚴守せんことを誓約候也

一、毎土曜日の夜、妻が入用の小遣を渡す事

一、妻と共に外出するに非ざれば、毎夜九時限歸宅する事

一、妻を携へずして夜會其他の集會に列席せざる事。又た妻の同意を得ずして他の女と舞踏せざる事

一、妻の母及び幼弟に親切を盡すべき事

一、女子禁制の集會所に立入らざる事

一、一週間(日曜日を除く)三本以上の葉卷煙草を吸はず、日曜日には五本以上を吸はず、又た紙卷煙草は一切用ゐざる事

一、野鄙なる言語を用ゐざる事

一、春期に、絨毯の塵叩きをなして不平を云はざる事

一、毎週自身の洗濯物を取纏める事

一、毎年春の大掃除に着手する時、妻の面前に於て、三杯の酒を飲むことを得る外は、一切酒類を用ゐざる事

一、犬を飼はざる事。市外に旅行したる友人の爲、一時の預り物なりなどの口實を以て犬を家に入るゝこと無き事

一、小兒の夜啼をなす時は、妻と共に之を慰撫介抱する事

一、毎朝毎夜火を起し、妻をして唯だ溫度の調節をなすのみの勞に任ぜしむる事

男は唯々諾々此のすざましき契約書に署名した。これは決して惡戯の皮肉屋が婦人の我儘を暗罵するために虛構したことて無く、現に最近に於て米國ニュー、ゼルセー洲の一市にあつた事實とて、英國にまでも評判になつたことなのてある。この新夫婦は中の下の社會のものてあつた。蓋し之れは英米婦人上下押並べての風潮を最も虛飾無く發表したものと見て可なり。アア男野郎たるもの、ウカとは女房を迎へられぬことになつて來たわい！　女界の天候險惡の兆あり、男子の警戒を要す！

さりながら、男子の小芝を追ひ、淑女の君子を慕ふは、情界の自然理てある。人間の存在する限、結婚は休む時無く、男子が生活難に追はれて結婚期の後るゝだけ、それだけ不遇の歎をなす女子が殖える。されば文明が進み、女子が大覺醒をなすとも、男子は配偶無からんことを憂ふべきに非ず。突飛な女學生が獨身主義を盟ひ、若し破約して結婚するときには若干の罰金を拂ふべき契約を結んだが、久しからずして、一人去り、二人離れ、後には僅に二人を除くの外、いづれも罰金を納めて結婚した。そこで殘された二人は相談して、これまて集まつた罰金を二分し、之を嫁資として各々亦た結婚したと云ふこともある。しかし手鍋主義は文明と背馳

するに似たれば、今後文明國の男子たるものは假令女子の理想を滿足さすことが出來ずとも、必ずや其虛榮心を嬰かしめざれば、家庭は圓滿で無からう。歐米先進國の狀態既に如斯し。世界の第一等國たる日本豈にまた然らずしてあるべけんや！　吁恐るべきかな此の文明や！

予が滯英中で最も評判であつた結婚は、商部大臣ウインストン、チャーチル氏とホジャー嬢との新婚で、其約束が成立つて以來、新聞は毎日のやうに兩人の行動を傳へる、寫眞を出す。ホジャー嬢が當時政界の俊才たる名聲高く、まだ三十代で既に大臣の椅子を占めたるチャーチル氏を贏ち得たことは、女界の大いに羨怨するところてあつた。いよ〳〵セント、マーガレット教會にての擧婚の當日の如きは、其往復の盛觀にあやからんが爲めの群集が大雜沓を極め、多勢の巡査が警衛してゐた。新婦新郎がこの結婚に就いての諸方からの贈物の品目の如きは、細字にて新聞の一面を埋めてゐた。今の英國內閣大臣には若手が多いから、昨年中にチャーチル氏を除いて、なほ三四人は新たに妻を迎へたのてあつた。

米國は平民國てあるだけに、貴族主義を羨む、爵位勳章を欲しがるものが多い。それで米國の女が歐洲に亭主狩をしに來るものが甚だ寡からず。獨乙の貧乏男爵などを夫として、男爵夫人なりとの肩書を何より嬉しがる連中が續々として出る。倫敦でも春の社交季節には、毎年米

國から金持の若い女が澤山に入り込んで來て、金ピラを切つて、侯爵とか男爵とかの獨身者を漁るのてある。若い娘ばかりか、金滿家の後家まて我劣らじと、米國の素町人を嫌つて、家柄の奥樣たる地位を競ふ。昨年は彼のシカゴて第一のデパートメント、ストアたるマーシャル、フィールドの寡婦が、幾百萬弗かの財產を持つてゐるのに滿足せず、トウ〳〵英國の或貴族と結婚し、先夫の子二人も英國に連れて來て仕舞つたことがあつた。又た英國あたりでも名門貴族の息子て、女俳優と結婚するものが少く無いが、彼等は多く其終を完うせぬ。

◉英國後家の返り咲

東洋の思想を以てすると夫婦は二世てあるかなれども、西洋では夫婦は一世のもの、生存中否和合中の契約てあると認められてゐる。基督敎の思想が强ちサウてあるとは思はれぬが、社會が斯く認めてゐるのてある。宗敎上よりも法律上よりも寡婦は實家の籍に戻らず、何某夫人と名乘つたまゝて再婚する。離婚されても、再嫁するまては先夫の家名を名乘る。一度び結婚したものは、何處までもミッセスてある。而して寡婦たるものは、機會さへあるならば黑の喪服を着、黑框の名刺を用ゐてゐる間にも、しかるべき男を見立てゝ再醮すると云ふが、一般の

風俗となつてゐる。

英國寡婦の再婚に就いて、マンニングなる人が其風俗、流行の消長を調査したものが、予の滯英中にデーリー、メール新聞に現はれた。これ亦た同國女界の消息を知り、社會の狀態を學ぶに好き便てあるから、其概略を抄記して見やう。聊か卑見をも加へる。

英國では總じて三十年前に比べるなら、結婚の數が減少したので、先きには結婚年齡に達したる女子百人につきて、一年六人が結婚する割合てあつたのに、今日てはそれが五人に減じてゐる、殊に寡婦の再婚する割合が、未婚婦の初婚の數に比して遙かに下つて來た。三十年前までは、未婚男子間には寡婦の人望が非常てあつて、從つて寡婦再婚者の數は多大なるものてあつた。勿論、四十歲まて、殊に三十四五歲までの女は、寡婦よりも未婚者が多い。そして女子の多數は十九歲より二十八九歲三十歲までの間に結婚するのてあるが、それても三十年前には百人の花嫁の中十人までは寡婦てあつたのに、最近年の統計によつて見ると、それが殆ど半數に減じた。而して孤閨の歎をなす寡婦の數が斯く多くなつたのは、其責の歸するところは、鰥夫にあるか、果た又た未婚男子にあるか？　蓋し鰥夫にあるのてある。既に寡婦となれるものは、多くは中年以上の女てある。年の若い寡婦は未婚男子が棄てゝ留かぬ、未婚の男子は處女

よりも年若き寡婦を喜ぶの風がある。然るに四十五歳から上の寡婦になると、再婚の機會は、單だ獨り鰥夫の愛を受くることのみにある。然るに鰥夫の再娶が年々に減少する、再婚者は女子よりも男子に少くなつて來る。寡婦再婚者の頗る多かつた三十年前では、新郎百人につき十四人が再婚者であつたのに、今日ではそれが八人に減じた。それにまた凡そ寡婦は男やもめよりも未婚男子に嫁することが多かつたのに、その寡婦の再婚數が減少することは、即ち未婚男子も亦た未婚女の方に向いて來てゐることを示すものである。

さりながら寡婦を娶ることの流行が、全く廢れた次第では無い。以前ほどに優勢では無いけれど、凡そ一度結婚したことのある女子は、處女よりも、男子の愛情を惹くことが巧であるから、未婚男子などは、處女よりも年若な寡婦を望むのであり、年增の寡婦でも、嫁娶場裡に於ける勢力は中々目覺しきものであるのだ。

二十歳までの女で寡婦と云ふは至つて尠い。十五歳より二十歳までの女子千人につき九百八十五人までは未婚者で、されば此年輩で花嫁となるものは、僅に二人を除いては處女であつたが、もう二十歳を越さうものなら寡婦がある、從つて勢力を示し始める。二十歳から二十五歳の寡婦は三百六十三人の未婚女子に對する一人であつて、衆寡敵せざる形勢とは思はれるが、

事實は大いに之に反して、寡婦の方が未婚者よりも、早く意中の夫を得るのである。一昨々年に於て二十歳より二十五歳までの處女にして結婚したるもの十二萬八千人であつたのに、同年輩の後家で返咲をした花嫁は三百九十三人の少數であつたと云ふものは、元來此年輩の寡婦が少いからである。それに拘らず、この數の再婚者あるを以て見れば、新郎は處女よりも寡婦を好むものなることの確證である。若し處女にして、寡婦ほどの人望があるなら、其の結婚者の數は更に六千人の多きを見無ければならない譯だと云ふ。

未婚男子が年若き寡婦を好み、之に反して、鰥夫は處女を好むの風があるは奇妙だ。しかしこれは人情から割出して見ると當然な事で、寡婦となると男子を操る術を知つて、情も圓熟してゐるから、未婚の男子をあやなすことは造作も無い。又た男やもめとなると、寡婦の心情と同じことで、自分には情交の經驗があるところから、處女のおぼこ心を操るのが樂しみであるのだ。

扨て二十五歳から五十五歳までの寡婦も亦た再婚の機會は老嬢よりも多いのである。二十五歳の年輩では、寡婦はまだ少いもので、此歳から三十五歳までの女千人につき、未婚者は三百四十人なるに、寡婦は僅に十七人で、其他は皆結婚者である。この年齡期間の女で、一昨々年

中に結婚したものは、九萬一千三百人の處女に對する四千九百人の寡婦であつた、無論概算である。

寡婦に對する人氣は比年減少しつゝあり、寡婦たる空閨の哀苦を脱せんとするには、未婚女子の數が殖えるのと、殊に老嬢なるものが文明の進歩と共に跋扈するのとで、容易の業では無い、中々の苦戰である。でも決して旗風が悪いと云ふまでにはなつてゐ無い。況んや、未婚男子の心は尚ほ多く寡婦に向ふものをや。たゞ不埒千萬なるは男やもめで、四十歳から四十五歳ぐらゐまでの女を娶らうとするにも、なほ未婚女子の群を漁るのである。

概するに寡婦は男やもめよりも多くは未婚男子に嫁ぎ、而して鰥夫にして處女と婚するものは、其の寡婦と婚するもの〻二倍數である。年若き寡婦の大多數は初婚男子に嫁ぐのである。これが例證をば左の表にて示す。

▲寡婦再婚比率

年齢	未婚男子に嫁するもの	男やもめに嫁するもの
二五	一〇	一
三〇	五	一
三五	三	一
四〇	一・五	一
四五	一	一
五〇	一	一
五五	一	一
六〇	一	一
七〇	一	一
八〇	一	一

四十歳になつて初めて寡婦の鰥夫と未婚者とに婚するもの〻數が平均して來る。如何に手管の甘い英國女子でも、四十以上の散櫻になつては、未婚者を好むとの貶罵は云はれ無くなると見えて、おひ〳〵と破鍋に綴蓋の結婚となつてくる。これは大英國中、イングランド及びウエールスに於ける實狀の概略であるが、扨て同じ此二國の中でも、地方によつて、寡婦に人氣のあるところと、處女に人氣のあるところとの區別がある。寡婦の優勢な地方は倫敦及び北部西部で、處女の優勢な地方は東部である。而して又た概觀すると工業地方に寡婦の再婚多く、農業地方には處女の新婚多し。それと云ふは工業地方には年の若いのから、中年增の寡婦が多い

のに原因するが、扨て此地方でも、大勢に押されて、寡婦の再婚が次第に減じて來る。

スコットランドとなると、寡婦の人氣が大いに衰退の形勢であると云ふものは、主として男やもめが初物好みをするからなのであり、剩さへ未婚男子も處女の方へ移るからである。されど同國では一昨々年に、結婚したる寡婦の數は十五年前に比して六十七人の多數であつたが、鰥夫の寡婦に結婚した數は、九人を減じてゐる、つまり同年に於ける總結婚數三萬三千百四十二人の女の中、千五百八十人は寡婦であつた。愛蘭土でも亦た寡婦は次第に處女の爲に侵食されるので、この勢で二三十年もづゝかば、寡婦たるものは男子の目に、散りかけの薔薇のやうなもので、一向可愛がられなくなりはせぬか？

要するに社會の進歩、女子の發達につれて、妻と藝者とを兼ねることの出來る天稟のあるだけに、處女と雖も結婚競爭に於て、斯道には手練な寡婦にも劣らじと勵みもすれば、それだけの伎倆もあり、又た男は未婚既婚を問はず、何でも新らしいがよいから、自然娶るなら處女と云ふことになつて來るのであらう。年寄の癖に若い女房と笑ふけれど、年寄は孫のやうな女が一層可愛いものなのだ。さうなると即ち起るべき大問題は如何にして孤閨に佗る寡婦を救濟すべきかである。さりながら此問題の實際に起るは尙ほ遠き〳〵未來の事であるべく、處女の方

に旗色が好いと見たら、寡婦の方でも何を小癪なと、そこは愛の戰場の場數を踏んだ巧の者だけあつて、只だ默つては置くまい！

◉流行の犧牲

巴里は流行の大問屋であつて、歐洲へ贅澤を卸すのである。僅に一衣帶水を隔てた英國の如きは實に其大華客であるのだ。また英國では宮廷が新流行の一本家を成してゐる、劇場は新型の衣服、帽子を紹介する。それで女房、娘の氣を揉むことは一方で無く、父親、亭主の財嚢は絶えず恐慌を來たしてゐる。男は十年一着の燕尾服でも夜會に差支へは無いが、女となると、交際社會に出やうものなら、同じ衣服を二度以上用ゐるのは、禮儀に背くと云ふのである。それで贅澤の問屋は、新流行を猫の眼の變るやうに變へて來る。女は其新流行に遲れざらん事を唯だ之れ憂ひとす。交際社會の婦人は全く流行を追ふが爲に生き、男は女をして新流行を飾らしめんが爲に齷齪と稼ぐやうなものだ。併し女を美しく飾り立てるのは、建築、彫刻、繪畫、道路と同じく文明國の看板であるから、是非も無い事ではあらうが、文明の裝飾品となる女こそ哀れむべきものなれ。されど女は自から其憐れむべきを知らず、衣裳屋の飾人形に多辯なる

舌を入れたも同然の者となつて、それて得意てゐる。衣服や帽子は新流行のものを着たい、着たら人に見せたい、それて交際社會へ出る。公園や、劇場へ遊ぶことが繁くなる。すると愈よ新流行に腐心する。吁、女子とは流行の犠牲てある。流行の犠牲となり得るのも、上流の婦人なればこそと得意滿面てある。併しかやうな婦人は、歐米ばかりにあるのては無い。日本も流石は世界の第一等國となつただけに、文明の裝飾品を以て任ずるもの、酷だしく云へば、三越の看板人形を羨む賢婦人の陸續として輩出したまふと、豈に盛代の美事ならずや！

倫敦ドルリー、レーンの冬芝居『メーフェアの結婚』にて、ベスに扮したるメリー嬢が、周圍六呎の大帽子を被ると云ふことが、開場前からの大評判になつてゐたが、其頃の女帽子は實にスバラシク大きなもので、春風の強い東京などて被らうものなら、ライト兄弟やッェッペリン伯を俟たずして空中を飛行されさうだ。やがては某劇場で、周圍十二呎の帽子を被つたと云ふとて、これを持廻るのに、二人の手を要したとか。倫敦で斯樣な大帽子が流行つてゐる間に、本家の巴里ては、ズット小さくなつて、白に黑の斑點あるアルミン毛皮頭巾形が流行る、その影響として倫敦の大帽子も日ならずして小形になり出した。今頃はドンナ型の帽子になつたらう。又た昨年秋に巴里で最新型だと云ふ、白地の衣服を瘦形にスラリと着流して、右の肩から

左の脇下へ、更紗形の袈裟を掛ける式が出來たと新聞が報導すると間も無く、ドルリー、レーン劇場の舞臺にそれが現はれた。

日本風だと云ふキモノ（キモナとも稱す）形の、袖の廣い、前の開いたのが、上着ともなり、外套ともなり、これが近年引つゞいての大流行だ。寢衣便服などに、赤地に千羽鶴を派手に染込んだ木綿袖の浴衣式のキモナが、これまた大流行で、芝居にも現はれた。これはミカド劇の好評が大いに預つて力のある流行である。

衣服の型は、かく絶えず變化する、公園、市街を歩くもの、又た盛裝を凝して芝居見物をする多くの婦人に就いて觀察すると、殆ど二人として同型同意匠の衣服を纏つたものが無い。大同であつても必ず小異がある。日本婦人の衣服が、地合、模樣、縞柄こそ異れ、型は萬人一樣であるのとは大きに趣きが異る。雜駁の美は、凡そ人の集まる所に於て、大いに女性美を發揮せしめるのてある。街上所見の婦人中最も異彩あるは、國教會の童貞會に入つて一生獨身を盟へるシスターと、看護婦とてあるが、兩者の風采は頗る類似して、素より質業てあるが、小さき帽子を戴き、長きトンビ式の外套を被うてゐるのは、一寸好い姿勢だ。また流石に保守の國とて、英國の下女、女中の如きは、一定の服裝、一定の髪の結方があつて、白巾を頭に載せ、

白のエプロンを着けて、墨または淺黄の衣服を纏つてゐる。大店の賣子女は大低黒裳束揃である、人々別樣の風をしてはゐ無い。ピーター、ロビンソンのデパートメント、ストアの女賣子は、黒衣裳を裾長く着て氣取つてゐる。

女の姿勢と云へば、近時の女粧は衣服の型の流行は別として、くの字なりに曲つて痩方なのが樣式である。腰から下を細く見せるのであるから、下着を多く用ゐ無い。伊達の薄着をする婦人は、全く下袴を用ゐ無いさうだ。七枚の下袴に鯨骨の箍を入れて鳥籠型に腰を張らしたのは、既に前世紀初半葉以前に屬する古型である。さりながらいかに意匠が嶄新でも、男のツボンの如くに割つた裳の型はあれども流行らぬ。

衣服ばかりか、髪の結ひ方は勿論の事、爪の切方にまで、時々の流行がある。美顔術に浮身を窶す美人は、一日をたゞ化粧に費して、夜の來るを待つて社交界に出御する。目を大きく見せんが爲に上下の瞼を薄黒また薄藍に塗るもの、顔を引立たせて、人の注意を惹かんが爲に、黒子を付けるものなどもある。

我國で昔は嫁を貰つて、床の間の置物にするとて笑つたものだが、西洋人——資力やゝ足れる西洋人は細君を社會の飾物にしてゐる。美しきものを獨占せぬ公共博愛心であるかは知らぬ

が、夜會や劇場などへ往くたびに、予は娘を持てる親、妻ある男の財布の爲に他處事ながら、聊か同情を表せずにはゐられ無かつた。予はウエスト、エンドの大劇場に入るたびに、金の生る木か、魔法のランプでも持つてゐるらしい夥多の婦人が、互に華奢を競ひ、貧苦の風は何處を吹くぞと云ふやうな顔をしてゐるのを見ると、いつても腹立たしくなるのであつた。芝居の見物客は概するに女が多く、殊に畫芝居となると、客の大多數は女である。

衣服頭髪の流行よりか、女の最も好む流行は贅澤と云ふものである。社交季節には毎夜々々ソレ芝居見物、ソレ夜會と浮れ廻り、夏季や冬季には、近くて海水浴場か、スコットランドの湖畔、遠くは瑞西、以太利へ遊ぶ。流行の甚だしさや、妻となりて三兒以上を設くるを恥ぢと心得るのはまだしも、不姙を願ひ、貧乏者子澤山と嘲るの風さへある。人工的の石女となり、結婚をするのであるが、子を産むのは嫌であるから、豫じめ手術は出來まいかと、處女の身で醫者に内願するものさへがある。佛國革命の前に當りては、奢侈と淫風とが巴里を席卷して、子は産んでも母となることは流行後れとなり、貧女は時世後れの小供を抱き育て、六十才の祖母が花やかなること二十處女の服裝をなして美食を貪ると、ヂッケンスは書いたが、所謂二十世紀的の婦人は、亦た此の亞流であるやうだ。敬虔なる基督教主義は廢れて、緩漫なる希臘主

義に歸り、制情のストイシズムは遠けられて、放逸なるエピキユリアンを喜ぶのが、英米現代の社會に現はれたる一大風潮である。女風俗の如きは、歐米共に希臘風に戻りつゝある。されど英國民の社會の裏面には、强健なる宗教道德の思想が深く根脚を立て、純潔にして罪惡の何たるを知らざるやうなホームが、國家の眞の基礎を成してゐるから、この風潮の爲に奇流を蒙ること甚だしからざるは賀すべきことである。英國人の偉大なる所以は、その衷心の道德性に源を發してゐる。文明の裝飾品たり、流行の犧牲たる婦人と雖も、英國民の特質たる道德性、個人性を全く喪ふことは容易て無い。假令彼等にして之を喪失し、祖先の嗣業を一枚の衣服に賣渡すことがありとも、國古く、幾多の困難によりて鍛造せられたる國民精神は、厳として社會の暗流をなしてゐる。奢侈淫靡なる希臘的風潮の如きは、米佛は知らず、斯國に於ては未だ以て大いに憂となすに足らざるものであらう。

◉女權運動

ブートミーが英米婦人を比較した評論が面白い。佛國の娘は、家庭以外に出てゝ、男子らしき業務や熱烈なる社會運動をすることを、女性に不適當なる行爲だと考へる。然るに英國女子

となると、慈善事業を設立するには如何なる困難にも屈せず、社會救濟に必ずや伴ふべき時間を費すこと、忍耐を要することなどに臆せず、病院の看護婦となりて、厭ふべき義務あるを恐れず、かくて彼等は目的なき生涯の憂悶を排するのである。殆ど五萬人の婦人は、自由黨の呼號に應じて、多種の政治的、社會的會合を結び、又たプリムローズ黨の婦人に反抗して起つた婦人團が政治運動に奔走した例もあるが、かゝる運動は佛國婦人なら、世上の誹謗を恐れて、敢てせぬことなのであると云つてゐる。實に政治的國民たる英國人のことであるから、其婦人と雖も、政治上には熱烈なる運動をなすこと、今日英國の大問題たる婦人參政運動の如きものあるは、人種より見、又た國情より見て、當然の現象と云ふべきであらう。

英國の婦人社會には、社會、勞働、政治等の問題によりて結合したる幾多の會合がある。中にも近年最も目覺しき運動をなすものは、婦人參政運動である。其運動の猛烈さ加減は、米國に於ける、同種の運動も後に瞠若たらざるを得ないのである、佛國などにはあり得べからざるものである。其運動にも溫和主義なると、急進主義なるとの別があつて、溫和主義なるは、サフラジスツと稱せられ、急進主義なるはサフラゼッツて、此運動に反對する婦人黨はアンチ、サフラゼッツだ。サフラゼッツは彼等を呼ぶに、アンチ(非)を捩つて『アンチー』(伯母さん)と

嘲る。又たサフラゼッツに加勢する男をサフラゼンツ（ゼンツは紳士の略稱）と云ふ。急進主義には二黨あり、一はパンカースト夫人母子の率ゐる、婦人社會政治同盟で、又た一は婦人自由黨で、デスバード夫人これが首領であり、二黨共に、暴力に訴へても、婦人投票權を許容せざる政府に反抗し、政府黨の議員選擧を妨害せんとするものである。サフラジスツの首領は、有名なる盲目經濟學者フォーセット氏の未亡人で、これまた高名なる經濟學者である。フォーセット夫人が女權運動家となつた動機はコウである。三十年前フォーセット氏がグラッドストン内閣の驛遞總監たりし頃であつた。或時夫人は某處に講演して、百磅の報酬を受けて歸る途中に、其金を盜まれたが、賊は直ちに捕へられて、夫人は證人として法廷へ出た。然るに代言人の口供書には、彼の百磅の金も財布も共にフォーセット氏の所有なりと認めてあつた。夫人は是は自己の所有權に屬するもので、良人に屬するものて無いと爭つたかなれども、當時の法律は尙ほ未だ婦人の財産權を認めてゐなかつたからして、妻の金は即ち夫の金であるとせられたのである。フォーセット夫人はこれが爲に大いに憤慨して、女權運動に志すに至つたのである。今日では既に婦人財産權が認められてゐるのみらず、男子は債務の爲に入獄せらるゝと雖も、女子は然らざる程度までに女權は進歩して來たのてある。アンチ、サフラゼッツの首領は、著

名なる閨秀小說大家ハンフリー、ワード夫人てある。

サフラゼッツが參政運動の爲、千九百〇五年以來獄窓に投ぜられたるもの實に四百二十人の多きに達した。昨年來現アスキス内閣に反抗する運動の如きは甚だ激烈なものであつた。或はハイド、パーク公園に於て大示威運動を試み、又た公會堂にて集會する。而してその情況は、勞働者の示威運動よりも、更に喧囂騷擾なるものてあつた。予が滯英中この女權運動に關する見聞を略述すれば、昨年七月二十八日の夜クインス、ホールて、萬國平和協會大會の爲、大臣ロイド、ジョージ氏の演說があつた。すると傍聽席中に交つてゐたサフラゼッツ黨婦人の多數が頻りに妨害を試む、巡査が摘み出す、出されじと爭ふ、『女子の投票權！』と大聲連呼する。平和會は、無殘なるかな、一場の格闘に汚されたのてある。ロイド、ジョージ氏が、獨逸婦人を理想的の主婦だと稱揚したるも、眞に所以がある！

ハロウエーの監獄に投ぜられてゐた數人のサフラゼッツが滿期出獄した時の如き、黨與の彼等を迎ふることは、恰も凱旋の將士を迎ふるが如きものであつた。出獄者を花車に乘せ、揃の衣服に、揃の襷を懸けた女が、其車を曳々の聲にて曳き行いて、クインス、ホールて祝宴會を開いたと云ふことてある。

十月十三日に一萬人のサフラゼッツは、ドラモンド夫人を大將として、議事堂を攻擊した。其數日前から、年若き婦人が二三人連づゝて大きな看板を胸に下げ、諸方の町角に立つて、通行の者にしきりと引札を配つて、議會攻擊の味方を募つてゐた。予も或町角で、一美人から此引札を貰ふと、側を通りがかりの男は、あれはサフラゼッツと云ふものだぞと、肩を一寸聳やかして嘲るが如くに予に敎へた。而して政府はこの攻擊を制止せんが爲に、多勢の警官兵士を繰出し、遂に官命抗拒を以て、バンカースト夫人等以下數名の女權黨を拘引した。後日法廷審判の時に、拘引せられた中のバンカースト孃は、其身辯護士たるを以て、大いに辯論を試み、藏相ロイド、ジョージ氏を證人として出廷せしめ、彼等が攻擊の字に用ゐたる『ラッシュ』の意義に就いて、藏相と議論を交へたが、彼等の遂に有罪の宣告を受けた時には、女權家の首領たるバンカースト孃も、有繋は女だ、ポロリと一滴の涙を落したさうである。

これまで女權黨の入獄者には、通常服を着てゐることを許し、また何の勞役をも課さなかつたのであるが、此度の入獄者には、さる寛大な待遇を與へず、獄衣を纏はせ、而も勞役を與へることになしたので、たゞさへ首領を捕へられて憤慨してをる黨與は、これぞ婦人を侮辱するものであるとて、一層激昂し來つた。十月二十八日の夜には婦人自由黨中の突飛なる女子が、

議會の婦人席の欄干へ、自動錠のある鎖で我と我手を縛して、摘み出されぬ用意をしながら罵詈雜言を放ち、『婦人の投票權！』と叫んだ。警官に引出されながら、なほ議場を顧みて、『婦人の投票權！』と棄言葉を呼ばはるものがある。又た鎖で我手を縛つたものが無理に引出されたが爲に、負傷したものさへある。其創をば名譽の負傷の如くに心得て、威張つて、新聞屋の寫眞師に寫せる、アスキス內閣は女子を侮辱するものなりとて憤つた。而して其翌夜には、バンカースト夫人の一黨はアルバート、ホールに大會を開き、黨與一致して、自今如何なる場合にも、內閣大臣をして演說せしめざる事、極力之を妨害する事の決議をなして、既に其前日もハイブリーに開かれたる慈善市に於て、首相アスキスの開場演說を妨害したものがある。この大會の前日には、二名の若き美人が馬に跨り馬側に看板を吊して、市中をねり歩いて廣告してゐた、予も之をセント、ゼームス公園の近傍にて見た。

サフラゼッツの運動は、日增しに猛勢となり來り、實に現內閣の一大禍機となつてゐる。又た其運動は新機軸を出す。近頃二人の黨員を特別配達郵便物として首相邸へ送つた。勿論不受郵便として戻されたが、英國には人間の郵便物があるものと見える。女權黨は殊に首相アスキスを敵視し、アスキスは其夫人が熱心なる非サフラゼッツなるを以ての故に、女權黨に少しも

同情が無いのである。サフラゼッツの擧動たるや甚だ寒心すべく、女界の恥辱であるかなれども、其主張とするところには道理が無いて無いから、政治家の中にも之に同情するものが增加するやうであり、又た政治上の野心の爲に、彼等を利用する策士もある。されど一般の社會は、サフラゼッツの行動を非難し、婦人等は多く『恥づべき女權家！』などと罵るのである。御轉婆の娘兒を叱るときには、『おまへはサフラゼッツのやうだ』と云ふことさへある。サフラゼッツを誹謗諷刺する滑稽な繪葉書の類なども澤山に行はれてゐる。

女子の投票權

しかし此の女權運動の性質を評して見ると、これまた女性的なりと云ふことが出來る。即ち殊に女の頭の高い英國の男だから、女を宥めすかして押へやうとする。すると女は圖に乘つてヒステリー的に駄々を捏る、肝癪を起して荒れるのが、この女權運動だ。女は男に對して必ず嬌えるもので、サフラゼッツの亂暴もつまりは男に嬌えるのである。女が嬌えたり、駄々を捏ねたりしてゐる中には、男は幾分かつゝに讓歩し無ければならなくなる。されば此の女權運動は必ずしも無効で無く、既に一昨年來女子にして租稅を納むるものは、地方自治團體の名譽職に擧げらるゝことを得るやうになり、昨年十一月には博士アンダーソン嬢がアルデバラの市長に任ぜられた、これは英國に於ける女子市長の嚆矢である。

◉夜の女と街の女

夜に入ると、倫敦の社交界と暗黑面とは活動するのである。從つて女の活動時間である。芝居往き返りの女子が盛裝を凝して、馬車、自働車を驅るの狀よ！　勞働階級の女子は、三時頃から劇場の前に長き『子をとろ』の列を成して、ピットやガレリーの最下等席に入らんとする。而して芝居見物の婦人連中には、眞面目なる人間ばかりて無い。また上中下の化性の輩が夜半

の活動時刻を此處にて待暮らすもあれば、また劇場中のバアて客を釣るための目的を有して、毎夜の演藝は見ずに客の方に秋波を送るものが多い。エンパイア座の運動場に集る女の大部分は即ち此流てある。此の座のごときは、女郎の張店たる巴里の多くの寄席を小規模に眞似たものてある。男客の多くも亦た演藝が目的て無くて、冷かしぞめきの連中なのてある。

伯林のフリドリッヒ街また巴里のブルバーと同じく、倫敦のピカリテー、サーカスよりリスター、スクエア附近の夜は化性の女の横行するところてある。午後十一時を過ぎて、周圍の芝居や寄席がはねると、あらゆる階級職業の女が、蜂の巣をつゝいたやうに、ピカデリーに雜沓する。白く塗り赤く頰紅を刺して、一見客商賣たる面相の女が、人道を上下する。少し上等なのは、カフエーに入りて店を張る。彼等の數は果して幾萬人ぞ。英國人ならぬ面相の女も甚だ多く、鼻の大きな猶太人、顏の丸い佛國人、髮の黑き伊太利人、はた又た顏の黑き黑人も交つてゐる、それが素見連の男に言葉をかけるのてある。啻にピカデリー附近のみならず、凡そ男子が夜の十一時を過ぎて、倫敦の燈光霧ににじめる街路を歩くなら、化性の女に攻擊されることを覺悟の前てなければならぬとは不愉快てある。正直なところ、美人にても聲をかけられるなら、言葉を返しても見るが、中には乞食に類したものさへ多いのてある。ピカデリーに出沒

するものは、お化の中でも先づ上等が多いのだが、公園の附近などになると、無職の勞働者乃至乞食かと思はれるやうな、一見嘔吐を催すべきやつが多い。汽車、電車の中てさへ、屢ば秋波を送る魔性がある。酒に醉ひしれて繦褓を引ずる女が、男と見れば摺寄つて來ることもある。一夜予は某氏の晩餐よりの歸途、町角にて乘合自動車を待合してゐると、乞食然たる女が二人、予に近いて、眠くは無いか、泊りに來ぬかと云ふから、予は貴樣等に用は無いと呶鳴り付けると、

ピカデリーの夜

二人の奴は大聲にゲタ〳〵笑ふ。すると後にゐた二人の巡査が『叱！　叱！』と制した。予は又た其巡査の側に寄り、乘合自動車はまだ來るのであらうかと尋ねる、巡査は親切に返事をした序に、前なる乞食女郎を顎で指して、『アンナ婆は嫌だらう』と笑つたことがある。

ピカデリー、サーカスなるランジ酒店の角に立つて、夜半の光景を觀望せんか。客と相乘の馬車を驅つて、何處にか去り往くものあれば、なほ人道を往復してお茶を挽くものも多し。化粧が目立つのと、帽子衣服の派手なのとて、光景が美しいやうなもの〳〵、蓋し又た慘憺たる狀である。『地獄は倫敦に酷似せり』とは何人かの評であるが、ピカデリーの夜は、實に肉慾鬼の横行する時である！　色餓鬼の淵歩する時である！　見よサーカスの中央に立てる噴水塔上のキユヒッド（戀の使）が、矢を擬して爪立てしてゐるものを！　抑も何人か、此所を擇んでこの神像を立てたるものぞ！　此れぞ實に大なる諷刺であるまいか？　ピカデリーの夜の更けると共に、この惡戯なる神の尖矢に射らるゝものが多くなるのである。又たリスター、スクエアの園内に立てる、大理石の沙翁像よ！　アルハンブラやエンパイアの劇場の五彩の燈光に照らされながら、抑もこの夜の色街の光景を奈何にか觀ずる！

魔性の美女群の後を追ふ素見連と色餓鬼の男、その又た袖に縋つて、マッチや、靴紐または

花束を賣らんとして哀を求むる、老さらばひて、頭は白く、腰が曲り、一本の杖に僅かに繦褓の一塊を支ふる乞丐女の多くは、これぞ魔性の美人が成れの果てである。今爰に美色盛裝を磨き出して、蕩兒を漁る色魔の將來を示した繪姿である！　彼等老女も、三四十年の昔には、處も同じピカデリーにて、痴蝶を狂はせた一朶の花と咲いてゐたのである。其昔を回顧しては、彼等何の思ひをなすてあらうか？

色街の雜沓さゞめきは、十一時より一時ごろまでである。十二時半限り、酒店で『タイム！　タイム！』と時間切れを報ずる聲と共に燈光が消えると、客を得たる魔女は夙く馬車にて去り、お茶挽は徒歩して遲々として四散し、流石に騷がしかりしピカデリーも、劇場の光の消ゆると共に霧の中に靜まりかへり、風はリスター小園に眠る。

最後の汽車、電車や、又た乘合車に、やうやく追付いて乘つて見ると、酒醉の女と乘合す、客を得ずして空しく歸りつゝ、車中も尙ほ秋波を賣つて、買手をさがす女郎を見る。また女が嬰兒を抱いて乘り込む。抑もこの夜更けまで、彼等は何處を遊んでゐたのであらう、赤兒こそ迷惑千萬なれ。予は倫敦所見中、最も不快に感じたものゝ一は、日中でも夜中でも、酒店に入つて、ウイスキーを煽る女の多きことである。予持の女が夜更くるまでも酒店に流連してゐる

ことである。途上酒に醉ひつぶれて、足元の危き女を見ることも稀でなかつた。

夜既に闌にして、馬車の鈴音の遠く煙霧の中に消えゆく頃、トラファルガア、スクエアなる、ネルソン海將紀念碑の下や、又たは美術館前に往き、或はハイド、パーク公園外に去りて、共同椅子の上を見るなら、いづれも皆宿無しの浮浪者が一夜を賴む寢床である。無賴漢も、老婆も、男女の小兒も、互に頭を寄せ合つて眠つてゐる。中にも哀れなるは老婆や女兒であるが、彼の老婆の如きは、春は昔しの花の時に、この公園のラヴァース、ウォーク(戀人の路)の綠の木蔭に、情人と手を曳き、體を並べて、喃々痴語せし夢をや結ぶならん。

倫敦で嫌なのは、無職浮浪の徒が、市街に徘徊してゐることで、又た日中公園などにゴロゴロと眠つてゐる。勿論女も多く交つてゐる。日曜日に公園に遊ぶと、野原の上に、年若き男女の相寄つて横たはるものが、彼處にも此處にもゴロ〳〵してゐる。而も人の見る前でも憚かり無くキッスするものさへある。ハムステッド、ヒースの日曜日の夕暮の如きは、この渺茫たる牧場的、荒原的の公園を變じて一面のラヴァース、ウォークとなすものである。痴蝶に似たる男女が手を組んで、潮の如くに、此公園に流れ込むのである。更に遠き、テームス河上の夕霧には、柳の蔭に陰れたる朝妻舟のいかに多きかな！　されど世人は敢て之を怪まず、新聞種と

もならず、警察も神經衰弱にはならぬ！

街頭の女？　ウエスト、エンドあたりの多かる衣服屋、帽子屋の窓前に群がるものは、殆ど皆これ女である。ショー窓の中の新流行に垂涎するものである。何國も變らず、女とは衣服の甘きに集まる蟻である。會ま男子が交つてゐるのは、女房の伴をして來てせびられてゐるものと察せられる。

倫敦の貧女よ！　焉ぞ斯く不潔なるや！　彼等は無精者である。衣服給せずであるかなれども、現に纏へる衣服は垢に染み、裾は泥に塗れ、綻び鉤裂さへ繕はうとはせぬ。日本の貧女のやうに小ザッパリした風をしたものが無い。不潔！　不潔！　體には蛆が生いてゐさうだ。これでも若いものは、街上で男と痴話狂つてゐる、また酒店に入込むのだから、たまら無い。夜が更けて、街角の屋臺店に男と手を携へて酒を飲む、珈琲を飲む、腸詰を食ふ。

下等社會の女が、割合にじみて無い衣服を着てゐるのは、何ふ云う譯かと研究して見ると、上町あたりへ行くと、猶太人の店に、獨乙や佛國あたりから、流行のすたれた看板衣裳の古くなつたのを輸入して來て、廉く賣つてゐる。下等社會では、それを買つて着るものが多いと見えて、派手な色の褪めた、襞などの多い、まして釣合のとれ無い服裝をするのである。

倫敦の宮殿

◉倫敦タワー

倫敦にて最も古く、最も興味あり、又た最も血騷き歴史を印せりと云ふところは、即ち倫敦タワーなのである。往昔羅馬人がテームス河防禦の爲、爰に要塞を築いたと云ふ事蹟は、邈として攷ふべからずと雖も、ノルマン征服以來の封建時代に、堅牢無比なる十三塔を築きて、要塞となし、皇居となし、而も亦た牢獄となした。チャールス二世までは、皇居の一たり、又た歴代の國王が、即位式の前には、此のタワーに入りて、こゝより行列を整へて、ウエストミンスター寺院に赴きて戴冠するの慣例があつたものだ。又た十三世紀に於て、十八諸侯此城を圍み、ジョン王に逼りて、大憲章に調印せしめたといへば、人類の自由憲政は實に此古城を誕生地とするのである。而して又た此城塞の堅牢なるより、これを牢獄として、其十三塔は悉く歴史上著名なる反逆の罪囚を繫いだ。此城塞の建築に勞したるダルハム僧正の、己れが堅固に積み上げたる石壘の中の幽閉せられたるを始めとして、王者、名臣、美姫、奸雄の爰に呻吟し、

或は城外タワー丘上の斷頭臺に送られたるもの、或は城内の庭園にて刎首せられたるもの、果して幾許人なりしか？　凡そ十一世紀より薔薇戰爭、百年戰爭を經て、エリザベス女皇朝に至る間の、政權爭奪、嫉妬殘虐の爲に流せる血潮で記した英國史は、悉く此古城と悲慘なる關係を結んでゐる。さればタワーの名を聞くだにも、我等は竦然として、凄しき所だ、恐ろしき所だとの聯想が起る。併し倫敦に遊ぶものとして、此古城を訪はずんばあるべからず、足一たび此に入らば、歴史の影は髣髴として我等に逼り、鬼哭啾々の聲を聞くかの思ひがある。

ゴシック風の四塔を聳てゝ、橋上又た橋を架するのタワー橋、テームス最下の橋で、大船の上下する毎に開橋する此大橋の袂より、河岸に下り、左には數門の大砲嚴として河流を戍り、右には城壁下の空濠が、守兵の練兵場ともなり、又た一隅には城兵の家族の業ならん、野菜草花などの栽ゑられたる所を通りて、セント、トーマス塔下の『反逆者の門』を見る。昔はウエストミンスター、ホールにて反逆の罪を宣せられたる王者貴族を舟に載せて河を下し、此の門より押籠めて、城内に囚ふるのであつて、此門より囚へられて、遂には斷頭臺上の露と消えたる哀れなる人々には、ヘンリー八世の寵臣サアー、トマス、モーアあり、此王の寵愛を喪ひたる美姫アン、ボレインあり、メリー女皇の嫉妬の爲に殺されたる、可憐なるジエーン、グレーあり。

而してボレインの處生たるエリザベス亦た此門を通過するの厄に會ひ、四年の間ベル塔中の囚人となつたが、幸運なる彼女は、薄命なる母と其運命を共にすることを免れ、殘忍なる姉メリー女皇の崩御によりて、幽囚を出て、天下に君臨するに至つた。エリザベスは一旦往きて返らぬ反逆者の門を入ながら、再び世の光に復活したる高運最も稀なる君であつたされど此女皇が、此タワーを皇居とすること無かりしは、あれほど勝氣で剛膽な女性も、流石にタワーのおぞましき幽囚慘劇の聯想に慄したのである。されど女皇また幾多の重臣を驅りて、我の骨て涙と共に過ぎし『反逆者の門』より追ひ込んだ。先きには恩寵殊遇を累ねたるが上にも累ね、心の紐さへ許したるウォルター、ラレーさへ、多情なる彼女の愛著の絆の緩むと共に、タワーに繫いて、遂に丘上の斷頭臺に送つた。

反逆者の門

昔は動物園のあつた跡と云ふなる『獅子門』の側にて入場券を求める。中央塔下を過ぎて、空濠に架したる石橋を渡る。此邊にて既にタワー名物の異裝の衞兵を見る。即ちヨーマン親衞兵とて、十五世紀の末葉に、ヘンリー七世の創定した服裝を其まゝに襲用して、平常は黑地に赤線、式日には赤地に金線。帽子もまた古めかしい。否、兵士其人がまた如何にも古めかしい。

牛肉食ひ

元々勳勞ある古參老兵から撰拔するのであつて、白髯長く垂れ、身幹長大、宛から義賊ロビン、フッド時代のサクソン人の面影を傳へてゐるやうだ。彼等はまた『牛肉食ひ』の異名があるは、昔は勤務中、定量の牛肉を給與せらるゝの例があつたからだと云ふ。

エリザベス女皇の幽閉せられてゐたベル塔下を過ぎ、再た『反逆者の門』をば、此度は内部よ

り見てからが、やがて、名も恐ろしき流血塔で、幼王エドワード五世兄弟が、幽囚の身とは知らず、相擁して無邪氣に眠れる間に、簒奪者の爲に殺害せられた慘憺たる處なり。ヘンリー六世また此塔にて弑せられる。

薔薇戰爭の時、ランカスター黨がヨーク黨に勝ちて、ウエークフィールドの戰場で捕へた囚虜を拘禁したるウエークフィールド塔は、今は御物庫で、國王皇后の卽位式に用ゐられた玉冠、笏、璽、杖などあらゆる御物を藏めて、庶人の觀覽を許す。玉冠に附したる金剛石の數、實に三千個と云ふ。金光、玉光の燦爛として目を射るとは、實に此處の事で、又たナイトの大勳章も、ガラス箱に入れられて飾られてある。我等平民は爰に初めて、ガーター大勳章なるものを見たのである。室內にはビーフ、イーター兵が、繪葉書や、案內書を賣つてゐる。

此塔外の庭中に、ヴイクトリア女皇陛下大葬の時、其靈柩を載せたる砲車が風雨に曝されてゐる。六十余年のいと長き間、日輪沒すること無き大英帝國に君臨し、御世の光の宇內を輝せしこと、前古に比儔なかりし英君も、寶算限りあれば、尊骸は此砲車に駕せられて、ヴインゾル宮園テームス河岸に沿ひたる永遠の眠の床に就かれたのである。

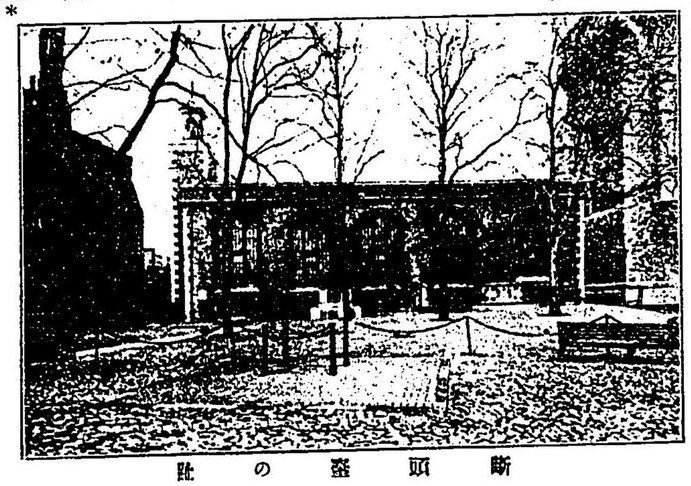
白　塔は夕ワー城の主砦であつて、ウイリアム征服王の據つて以て其王業を建てたる趾なの

てあり、又た後代に至りて、佛國王や蘇國王を幽したところであるが、今は莊偉なる武器庫たり。古今各國の武器あり、殊に勳爵士時代の甲冑、刀槍、馬甲などは銀光燦然たり。又た現國王皇后兩陛下が戴冠式に用ゐられたる、美々しき大禮服を藏めてある。國王の御衣は金衣、皇后の御衣は紫衣に金飾、かゝる目出度き御物、それに又たかの寶冠、玉笏などが、庶民や外人の分て、容易に拜觀の出來ることは難有いわけである。此白　塔內には又た征服王の祈願所であつたセント、ジョン寺が、ノルマン式の古建築を完全に保存してゐる。

白　塔より、バウシャン塔の牢獄まで往く途中が、即ちタワー庭で、城內にても最も悲慘なる歷史を留めてゐるところだ。庭中少しの廣さに花崗石を鋪いて、鐵鎖を廻らしたところがある。近寄りて鋪石の中に嵌入した眞鍮板に刻せられたる文字を見れば、此處こそ暴虐多淫なるヘンリー八世が、其第二の皇后にしてエリザベス女皇の生母なる美人アン、ボレインと、第五皇后カザリンとの首を斬り、殘忍なるメリーが可憐なるジェーン、グレーを刑したる斷頭臺の趾とて、ヴイクトリア女皇が特に命じて、之を後世に記さしめたのである。歷史の大汚點をさへ塗抹することなど無く、敢て明かに之を公示することも、亦た英國人の氣風を知るべきである。凡そこの慘憺たる斷頭臺趾にて、チユードル王統の暴主の爲、罪無く、また些かの罪の故

に刎首せられたるものは、以上三人の美姫の他になほ四人あり、而してアン、ボレイン皇后が獨り刀にて斬られたる他は、皆、斧にて、薪を割るが如くに斬首せられたのである。

エセックス伯は、頗る首の骨が固かつたと見え、劊手が三度大斧を打下して、やうやく首を斬取つたと云ふことで、時の人民は大いに憤り、劊手の歸路を要して之を弄り殺しにした。而してこの斷頭臺趾の前が、セント、ピーター寺院で、彼の七人の遺骸を葬つたところ、即ち史家マコレー卿が、『地上これよりも悲しき所ある無し』と歎じたところである。又た此處より南に『王の家』があつて、之に隣れる衛兵廳舎で、昔爰に幽閉せられたる美姫ジエーン、グレーは、其窓からして、良人ダッドレーが、隣なるバウシャン塔の獄裡より引出されて、タワー丘の斷頭臺に送られ、而して其



斷頭臺の趾

首無き屍骸が、セント、ピーター寺院内へ運び入れられるのを見る間にも、眼下の庭上には、我首を斷つべき首斬り臺が据え付けられてゐたので、日は同じけれど、時と處とを異にして、千八百五十五年二月十二日と云ふに、メリー女皇が殘忍の犠牲となり、史上最も凄慘なる悲劇を傳へた。

バウシャン塔であるが、罪あり、又た罪無くして、この塔内に囚へられて、鐵窓に呻吟した る、名流貴族の數は幾許人なりしか知るべからず。其暗淡として今なほ物凄き獄内の石壁を見れば、無數の粗末な彫刻がある。それぞ幽囚の人が訴ふるに處無くして、壁上に我名を留め、家の紋章を刻み、又た天に祈るの言葉、憂愁の詩句を彫り付けたのである。今日こそ歴史上の珍らしき遺物として傳はつてゐるかなれ、窃に當年幽囚の人を想ひ、彼等が殆ど皆、タワー丘の露と消えたるを思へば、醒風なほ此獄窓に吹くが如くに感じて、足元が顛へるやうだ。若し夫れ深更夜闌、萬籟寂として聲無きの時、この塔内に入らば、無限の怨を壁上の文字に刻み入れたる囚人が、今もなほ呻き泣いてはゐ無いであらうか？　又たタワー庭中からは、美しきジエーン、グレーの恨みの姿が朦朧と現はれることは無いであらうか？

◉ウインゾル宮

倫敦にて萬國平和協會大會が開催された時、其參列員は一同ウインゾル宮を拜觀することを許された。この宮は平常でも日を限りて庶民の拜觀を許すのであるが、予は平和協會列席者の一人たる資格で拜觀したのである。日本人は他に姉崎博士及び本田の二氏があつた。

ウインゾル宮はウイリアム征服王の創建にかゝると云ふ。故ヴイクトリア女皇は巨額の費を投じて、今日の盛觀を興された。而して女皇は此宮を愛して、多く之に住はれたので、詩人キプリングは女皇を稱して『ウインゾルの寡婦』との仇名を奉つた。宮はテームス河岸の丘上、一望佳景の勝地を占めて、ノルマン、ゴシック風の魏々たる巨城である。塔あり、櫓あり、堡壘あり、遠くこれを望めば、畫にて見馴れた中世紀時代の城廓が、現にテームスの清き流、綠の岸の上に威視してゐる。

汽車がウインゾル停車場に着く。予等が下りて、宮城の方へ歩み出すと、葉書賣りの少年の包圍攻擊を受けた。城門を入り、案内を連れて、宮殿内の一部分を拜觀した。武器殿あれば、繪畫室あり、室々珍器名畫の飾られて無いところは無く、我國皇室より贈られた蒔繪の棚もあ

ウインゾル宮後園

り、結構裝飾の美は眩さばかりである。されど此宮を露國の宮殿などに比すれば、寧ろ質素であるが、さりとて全體の建築の美術的なるは勿論、又た殿内があまりけば〳〵しく無く、英國の名木槲の白木を用ゐたところは、清楚で却つて奥ゆかしいのである。況んや爾々たる宮園廣く遠く、テームスの美水傍を流るゝの風景を占めてゐるをや。

諸國の平和協會からの代表者、女も小兒も交りたる代表者のドヤ〳〵的拜觀の仲間に入つたことゝて、日本人が珍らしいから、いろんな人が言葉をかける。一人の若い男が予を捉へ長椅子に凭つて、暫く戰爭論、平和説を談じてゐたが、其男は那威人であつた。女が寄つて戰爭後の日本はドウであるかとか聞く、お爺さんが平和非戰論を吐く。ボストンから來た某老夫人が頻りと予に話をかける、予は此夫人を姉崎君に紹介し

て、話相手の役目を譲り渡した。夫人は姉崎君を捉へて放さ無い。其話が、上海のボイコットは實に名案である、戰爭をするのは廢してボイコットにしたが良い、これぞ平和主義に適つてゐると云ふ。姉崎君辛うじて此老夫人の舌鋒より赦されると、それからは此夫人の事を『ボイコットのお婆さん』と仇名した。胸に星章を附た男女はエスペラント協會員で、日本人を見ればエスペラント語で話しかける、これは日本代表者の一人黒板博士がエスペラント學者であるから、他の者まで多少は此萬國語を心得てゐる者と思つたのであらう、光榮とすべしである。

本田君も亦た、何處かの婆さんに捉まつて非戰平和論を話しかけられてゐるのであらう、我等は其姿を見失つたから、姉崎博士と兩人にて、宮殿を去りて圓塔へ登つた。螺旋階をコツコツと足の痛れるまで高く登つて、扨て塔上に出ると、其風景の佳いこと！　一面に芝の綠を布いたウインゾル公園、これに馬車を驅つて、ヴイクトリア池畔まで、鬱蒼たる樹蔭の風に吹かれながら一日を送つたら、幾許の快事であらうぞ！　時さへあらばホーム園の木立の中にヴイクトリア女皇の陵墓を拜したいものだ。

眼下テームスの流に瀕して、樹木深さが中に宏壯たる堂閣高樓を聳かすものは、即ち英國諸學校中に在りて最も著名なるイートン學校である、第十五世紀にヘンリー六世の創立したもの

で、古今政界の名流偉人多く此校より出で、而して最も貴族的な學校である。フォックス。チヤザム。ピール。ウエリントン將軍。グラッドストンなど、其昔はいづれも尻切れのジヤケツトに白き大カラーを附け、シルクハットを戴いた一種異裝のイートン學生であつたのだ。曾て此處に學びたる詩人トマス、グレーが、イートン學校の遠望を歌ひて、

汝、遠き尖塔よ、汝、古き高閣よ、
水沿の草地に高く峙つ、
……
……
……

ウインゾルの丘より下に
森、草地、牧原遙けく連なり、
草の中、木の蔭、花の下をぞ、
白き流れのテームスは
しろがねの路をうねり行く。

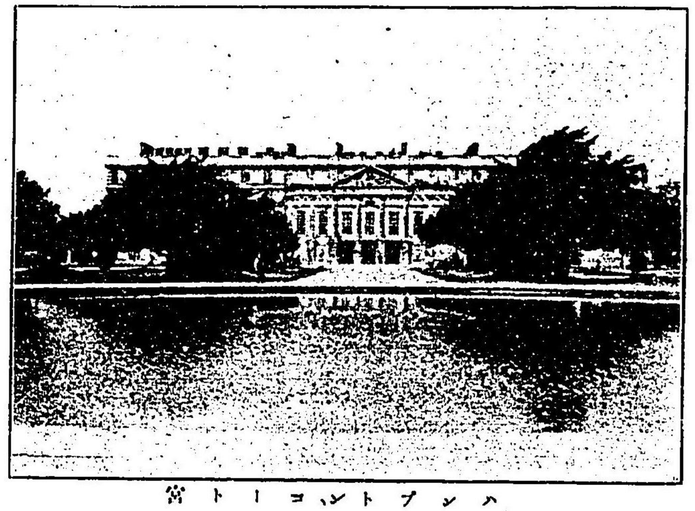
この好景は、今また予等が一望の中にあり。日は既にやゝ西に傾きて、四方の綠野は靄立こめ、空は茜だち紫だつ。テームスの白き水は紆り紆りて煙霧と綠樹との間に流れ去る。これぞ

實にターナー風の一幅の畫を展開してゐた。

セント、ジョージ寺堂に入る。こゝぞガーター大勲章を授けられて、ナイトに叙せられたる內外國貴顯の爲に祈願するところで、一人〳〵の御座が、堂の兩側に並び、其人の紋章、旗が懸つてゐる。我天皇陛下の御座には、菊花御紋章を揭げ、菊章旗を垂れてある。此寺院は即ちヘンリー八世の祈願所として建てられたもので、斯王の墓あり。一婦人は之を指して予に、これは惡虐無道を極めた王だ、極惡人の墓だと云つたのも道理、六人の妻を娶り、其二人を刑したる事が、此婦人の頭には、著しく映じて、未だ此王の政治上に於ける功績を認むるの遑が無いのである。また同院內にはクロムエルの爲に悲慘なる末路を見たるチャールス一世の墓がある。堂下には現皇統の、ジョージ三世、四世及びウィリアム四世等諸王の墓所がある。

◉ハンプトン、コート宮

英僧ウルジーが、ヘンリー八世の寵を恃んで、僧權と政權とを擅恣にし、榮華の極を盡くしたる時、テームスの上流を撰んで宏大無比、王侯を凌ぐの大宮殿を興したのが、即ちハンプトン、コート宮である。彼の此宮殿に在るや、五百人の臣下に擁せられて奢侈に誇り、或時は佛



ハンプトン、コート宮

國大使と其從者四百人とを饗應し、又た屢ば國王皇后を迎へて大宴を催したこともあつたが、後、王寵の衰へたと共に、此大宮殿を國王に献納した、其實は沒收せられたのである。而して王は更に修築を加へ、後又たウィリアム三世に至りて、時の大建築家レンは、前のチュードル風建築に加ふるに、ルナサンス式の大殿堂を建てた。此のハンプトン、コートは實に英國諸宮殿中の最も宏壯雄麗なるもので、其室の多きこと千餘てある。又た建築美術としても、國內に冠たるものゝ一てある。ヘンリー八世が其六人の皇后と共に、此に住居した以來、歷代の國王の皇居となつて、クロムエルも亦た爰に住んだことがある。ジョージ二世の後は廢宮となり、今では其一部が、貴族にして王室の恩給を受くるものゝ住宅となつてゐる。而して故ヴイクトリア女皇の

即位せらるゝや、直ちに此宮殿を公開して、民庶の觀覽を自由にせられた。

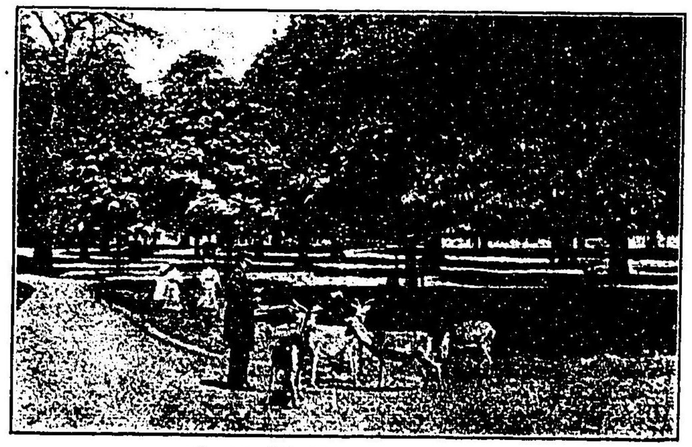
赤煉瓦を積みて大厦高閣となせる此宮殿の内部を訪へば、數王の私室は古びたりとは雖も、往時の壯觀華美を想ふべく、又た各室ごとに飾るに古今名家の繪畫を以てす。中にも多きは驕王ヘンリー八世の、テク〳〵肥えて、いかにも剛愎な、また多淫な容顏を畫いたものが多く、之に對して彼王が肉慾の犧牲となつた六后の姿は哀れなり。ハンプトン、コート美人畫集、ウインゾル宮美人畫集などもある。また歷史畫、宗教畫が、或はカンバスに描かれ、或は大帷帳に織り出されてゐる。これ等は多く、ヘンリー八世の建てたる大宴室の四壁を飾れるものである。この大宴室は、演劇場、假面舞踏場ともなりて、貴紳美女を會したところなり。ゼームス一世の朝には、付てセキスピアの自から此に演劇したことがある。

殿舍の美觀もさることながら、このハンプトン、コートの禁園の宏濶又た幽邃なること、また言語に絶す。メリー女皇が宮嬪を從へて屢ば此處に憩ひつゝ、針仕事を樂んだと云ひ、今も女皇の名を留めて稱する大並木の鬱々たる、『長江』の名に呼ばれる大池、四季折々の花卉に香る花壇など、而して此庭園は四時公開せられて、民庶は汽車により、電車により、又たはテームスの船によりて、此園内に一日の清遊を樂しむことが出來るので、此に入ると何となく氣が

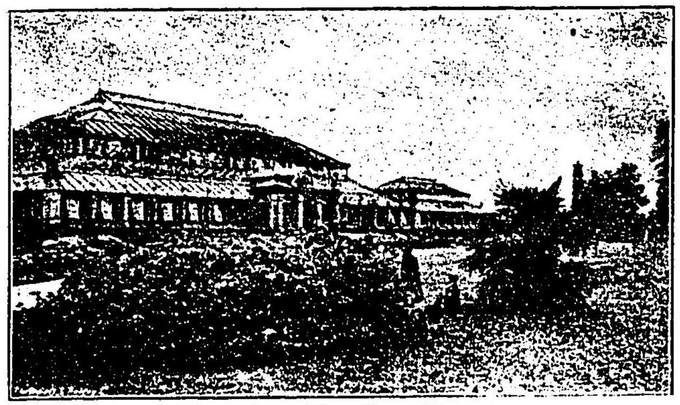
清々とする。此宮園は實にキウ植物園と共に、倫敦人民の爲には、無双絶佳の遊樂地をなすもので、我等外國人も亦た深き皇室の恩惠を感謝するものである。靈臺靈沼を開きて、民と偕に樂む文王の政事は、爰に於て之を見る事が出來る。此庭園の手入や、花壇に四季の花卉を飾るが爲には、大なる栽培處の設備がある。

ハンプトン、コートの名物は、其塔上にある、天文の儀表を示したる大時計と、百四十年を經たる大葡萄樹とである。葡萄は宏大なるガラス張りの溫室の中にて育てられ、予の往つたときには、大粒の房が、無數に生り下つてゐた。又た獅子門に近き迷圖は、暇あれやの大宮人が嬉遊の戲に營みたるものなるべし。

ハンプトン、コートの獅子門に對して、廣漠たるブッシー公園の入口がある。見渡せば橡の大樹が列又た列を成して遠く、中央に嬉娥の噴水池あ



ブッシー公園の鹿



キウ植物園大温室

り。園内には各種の鹿が放養せられてゐる。能く馴致せられてゐるものだと云ふが、日本人は恐ろしいのか、予が近寄らうとすると、バラ〳〵逃げてしまつた。

◉キウ植物園

キウ植物園は王室に附屬して、この處も曾てジョージ三世の離宮であつたが、扨て植物園としては、三百五十年の昔からして、歐洲第一の稱があり、今日に於ても其完備せること、殆ど他に之と比すべきものが無い。リゼント公園なる植物學會附屬の植物園の如きは、之と比ぶれば實に小さなものだ。此のキウ園内にては、彼の『ヴイクトリア、レジア』とて、埃及ナイル河より移植したる大水蓮が、英國に於て初めて花を開いた。

學術上、また効用上から植物を分類して、溫室の數多く、其蘭科溫室、椰子科溫室の如き

は實に壯麗なものである。更に又た其博物館には植物學、森林學、農產學等の分類によりて、木材の大なるより、穀粒の小に至るまで陳列せられて、斯學の博物館としては頗る完全なもののやうに見受けられた。

園内又た自然の風致に富み、其自然林、池水の幽なる、草地の廣々としたる、レバノンの香柏は、亭々として高く、英國の槲は天日を蓋ひて暗く、花壇の風は芳香を送り、池畔の水禽は悠々として樂しめり。池畔には小さ離宮あり、樹蔭に昔、羅馬人の祭りたる『日の宮』あり。逆羅風の朱に塗りたる十重塔のみは、やゝ園内の風致を害する樣であるかなれど、之に登れば曲水のテームス河を望むに最も佳なりと云ふ。塔に近く茶店あり。此處に憩ひて後、また園内を歩む、歩めど〳〵限無く、予は僅に此方彼方に立てる守衛に正して、漸く鐵門外に去つた。

倫敦の芝居

◉予の見たる芝居

サア、ヘンリー、アーヴイング沒し、ミス、エレン、テリー既に老たる今日の英國劇壇は、

團菊歿後の我國劇界にも似たるか。名優と云ふものは無いやうだ。ピアボム、ツリーこそ、當時英國の名優だと云ふことであり、近頃サアの爵に叙せられたるほどだから、アーヴィング以後には斯人となつてゐるのであらうが、彼は品の無い俳優である。予が先年米國にて見たアーヴィングとは人品も技倆も、到底較べものにはならぬやうだが、ツリーは興行師である、マネージャーとしては屈指の人物であらう。彼が藝に於てはケレン師兼大根なれど、頭取として、陛下座の持主として切つて廻すことの豪いがゆゑに、予は彼に奉るに、無論等倫を失するかなれども、英國の川上なる尊號を以てした。此外、フォーブス、ロバートソンを推すものあり、マーチン、ハーヴィー。モード。ラングも今では一流であるかなれども、タイしたものとは思はれぬ。女優となると、藝よりも年の若い美人て聲の好いのが評判を取るやうだ。今の倫敦の劇壇を概評すれば、俳優の藝が落ちて、道具の仕掛が大きく且つ美しくなり增るのであると云つたとて、必ずしも當を失ふまい。倫敦劇場も、多くは本郷座式て、藝道の妙よりも舞臺仕掛て客をアッと云はせるのだ。演劇はヒッポドロームの寄席藝に近づきつゝある。これても倫敦の芝居は、なほ米國よりは優つてゐると云ふことだ。

予が倫敦て初めて見た芝居は、サヴオイ座の樂劇『ミカド』てあつた。普通の芝居てすら、中

中分り兼ねるのに、これはォペラだから、ドコが甘いのだが、面白いのか、トント分らぬ。樂曲は名手サリバンの作と云ふから、立派なものてあらうし、これが何年も打つゞいて、評判を落さぬのは、其音曲が面白いからて無ければならぬが、我等には解せぬ。只だ好奇心て見たばかり、皇子樣が半纏を着たる、歌唱女の異樣なるキモノ、『ミカド樣』の滑稽千萬なる、而して印半纏を着たる人足が陪從するなど珍無類の扮裝で、可笑しさも可笑し。『ミカド樣』の御出御を迎へて、歌唱隊が『宮樣々々御馬の前に……』を日本語で歌ふところなどは、甚だ振つたものなり。伏見宮殿下御渡英の砌、英宮廷は此のオペラが日本皇室に對して不敬に渡らんことを虞れて、その興行を禁じたと云ふが、我等思ふに、このオペラは左程の掛念をするほどの價値も無いやうた。寧ろ滑稽にして愛すべきものてある。而して物がオペラてあるだけに、見たところは頗る美しいものだ。此の『ミカド』がいかに奇天然珍妙なるものなるかは、次ぎに記す登場人物の名にて、其概略を察したまへ。凡ての名を見よ、一人として日本人と受取られるものは無い。この歌劇の作者は名匠ギルバートてある。

▲『ミカド』一名『チ、プの町』

（登場人物）

日本のミカド

ナンキ、プー　皇子なり。ヤムヤムと戀し、三味線引となりて流浪す。

コ　〃　チ、プ町の首斬大名

プーバー　大臣

ピシユ、ツシユ　公卿

ゴ・ト・ー

ヤムヤム

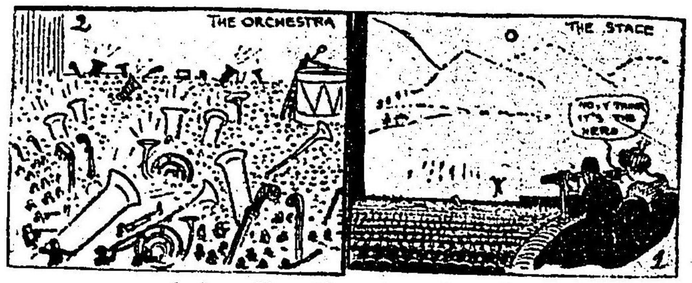
ピチー、シン　ココが世話する三姉妹

ピープ、ボー

カチシヤ　ナンキ、プーを戀する老女

歌唱隊　女學生、貴族、番兵、人足

（イマーケット座にてパアナード、ショウ作の『成婚』（ケッチング　マーリード）を見た。此筋の大略は『婦人觀』の中にて紹介した通りである。これは『會話劇』と銘を打つたもので、イブセン一流の最新劇で、實は一幕物であるのを、四幕に切つたのである。舞臺は一つ、幕の



將來の演劇（一）

（1）あれが主人公
（2）萬數のオルケストラ師樂

つゞき合は、前幕の落ちるときの登場人物の姿勢をば、後幕にて一寸活人畫振で見せて繋ぎをつける。會話に理想に、趣味があるだけて、俳優の藝や所作は無い。されば劇としては、ドコが面白いのか分らぬ。觀客は面白がつてゐるのであらうが、人情の異る外國人には、其面白いコツと云ふに同感を惹かぬ。それに單に對話のみてあるので、我等の耳には能く通らぬから、お世辭にも面白かつたとは云へぬ。たゞ成程ショウ物と云ふはコンナものかとの概念を得たに過ぎなかつた。

ライシアム座で、ラングや、ミス、ブリトンの演じたる『ピート』は、ホール、ケーンの『マンクスマン』を、同人が脚本に書直したものだ。其女主人公ケートが、戀せぬピートから熱情を以て愛せられて止むを得ず結婚し、戀するフィリップは名譽の爲に結婚を敢てせず、而も罪の子を設けて、ピートの子と云はねばならぬに良心を苦しめられ、遂に良人を棄て、子を棄てゝ去る。心の大きな良人はなほ

妻を愛して其名譽を庇ふ。妻の父は無學でも僞善的なる宗教家で、道德論が八釜しく、妻が不義の情人は法律家で、法律を重んず。後に至りケートは子を想ふの情に堪へずして、夜半我兒にして良人の兒ならぬ嬰兒を盜みにビートの家へ忍び入りたる處を、ビートに見露はされた。初めて此子の我子ならぬを知り、又た妻が不義の相手こそ、我が親友なるフィリップであることを知りたるビートは、ケートを友人に讓らんとすれば、彼は法律が許さぬと云ふ。さらば一旦離緣して父の家に還さんかと云へば、彼は道德に背くと云ふ。ビートは叫んで惡魔(神?)の法律が何てあれ、人の法律がドウてあれ、ケートが今より眞に我を愛するとならば、昔に變らぬ妻とし、兒は我兒として愛せんと云ふにて、既にビートの眞情に心融けたるケートは、良人に抱き付き眞愛を自白するので、目出度しゝゝとなるので、『マンクスマン』とは結末が反對してゐるし、あの長き小說を、唯だの四幕に切り詰めたのであるから無理がある。されど筋としては日本人に向きさう、否な芝居を見るに涙を出さずしては得心の出來ぬ日本觀客は、モ少し悲しいところを見せて貰ひたく思ふのであるが、其處が風俗の異ふ西洋で、芝居とは晩餐後の腹減し、一つ笑つて樂しまうと云ふのであるから、この『ビート』も殊更に輕いものにしやうとて、道化分子をば取つて付けたやうに加へてゐる。我等はモ少し眞面目なものにして貰ひたい

と思つたのだが、それても新聞屋は、『ホール、ケーンは眞面目過ぎたり』と評したのである。ホール、ケーンの小說は一體がコッテリて餘計な理窟を捻る癖がある、ビートが最後の宣言の如き、あれがケーン一流てある。されど彼の作に成つたものは、舞臺に載ると、毎も好評で、先きの『クリスチアン』が大當りを取り、今ては歐米中に流行つてゐるやうに、この『ビート』も兎に角大評判で、去年の秋から冬にかけて百二十日間打通し、毎日滿場の好況てあつた。この芝居には、生れてから七週間目の赤兒が、世界最幼稚の俳優なりと名乘を揚げて出場した。

ドルリー、レーン座は、冬の御伽劇や又た假面舞踏會て有名なる劇場である。演劇でも登場人物を何十人と並べ、背景に大仕掛を用ゐて、當りを取らうとするのだ。予の見た外題は『メイフェアの結婚』と云ふのてあるが、先づ人間以外の出場動物を云へば、數頭の犬あり、二頭の馬あり、一頭の驢馬あり、そして此の外になほ生きた鳥を使はうとしたのに、稽古中、其鳥が自由にならぬ。折角出して見れば、驚いてセメント桶へ飛び込ひ。引き出して又た飛ばさうとすれば、今度はペンキ樽に落ちると云ふ騒ぎ。其中に釣り上げた背景が落ちて職人が怪我をする。職人共は不吉な鳥などを使はうとするから、コウなつたのだと、座主にストライキを申し込んだと云ふことて、遂に鳥は見合せとなつた。出場女優の服裝は一々佛國の新流行を着飾つ

て、實は衣服屋の看板である。一人の背の低い女優は周圍六尺の大帽子を戴いてゐた。

道具はと云へば一々大仕掛て、此座が倫敦でも最も廣い舞臺を持つてゐるから、勝手なことが出來る。倫敦タワーの場では、熊の毛皮の大帽子を被つた衛兵が出る、ヨーメンが出る、又た此場でタワー名物の烏を使はうとして失策つた。又たアルプス山中で、惡漢が高い山の巓から、橇車を曳く生きた驢馬の口元を取つたまゝて、雪崩に乘つて深き谷底に墜落する狀など寫實の極だ。素より宙釣りて落すのてはあらうが、それにしては馬が能く馴れたものだ。雪を降らすのは、日本風に紙片を落すのたが、積雪は金巾で無い、人が歩く毎にボク〳〵踏み込む。幕切に能く〳〵見たら、細長い鉋屑であつたが、それが電燈の光で眞白に映るのだ。舞臺を賑やかに、背景を美麗にするが爲に脚本の筋を編んだものてあるが、有繋に支離滅裂ては無い。而して又た四幕十四場を廻舞臺無しに一々大仕掛の背景を變へて、二時間半て仕通す頭取の腕前は敬服である。

マーチン、ハーヴィーは十月より十二月まて、アデルファイ座に據りて、四種の得意物を一つづゝ、それに一幕物を添へて、二三週目毎の外題がはりて興行してゐた。ヂッケンスの『二都譚』は彼の十八番の一て、予も豫て見たいと思つてゐたが其機會を得ず、見たのはデューマの

『コルシカ島の兄弟』を僅か三幕にアッサリと切詰めて、之も藝道と云ふよりは、道具て威かすものなのだ。夢幻劇の大なるものだ。二幕まて夢幻の光景て、舞臺の奥なる紗幕の蔭て活人畫を見せるのだ。ヒッポドロームの寄席式とは、かゝるものを云ふのてある。

トスイフメのーリツ

英國の川上たり、サアの勳爵に叙せられる程の名優ビアボム、ツリーが、自身所有の陛下座にて、ゲーデの『ファウスト』を仕組んだのは、毎夜滿員の非常大の人氣て、容易に入場することが出來ず、百十四日間打通して、それても見物が落ちぬと云ふ盛況であつた。されど我等の見たところては、ケレン屋のツリーが、道具仕掛を大袈裟にして、寫實的、活動寫眞的に衆目を驚かすものてあるとは酷評でもある

まい。ツリーが演ずる惡魔メフィストの扮裝は、金鱗に翼のある惡龍式て見せるが、彼のメフィストは腰から下がブラ〳〵する、顏が醜いのに、聲が鶯のやうだ。風采ては『凡てのものを否定する惡靈』らしい眞の悽味と威光とが利かぬ。又たファウストに至りては、一個の遊冶郎、色魔としか現はれてゐ無い。バイブルに亞くべき名篇と云はれるこの大戲曲を、かく形無しにされてはゲーテも地下に泣くてあらう。たゞしマーガレットに扮したるレーア孃は、當年十九歳の可憐な美人で、此の役目には適して、評判も就中良かつた。背景に至りては、ツリーが藝の拙なるの反比例に巧妙を極めたもので、魔女の巖穴たゐブロッケンの山頂の場の如き、舞臺一面縫目無しの紗幕の中で、魔女の大群が、翼を廣げて岩より岩へ飛翔するの狀など、宙乘の綱が少しも見えぬ。メフィストに連れられたるファウストが岩頭に觀ずる夢幻は、向ふの岩の間へ活人畫で現はれた。大團圓の『天地の界』で、マーガレットが昇天する光景の舞臺なども目覺しいものだ。藝道衰へて道具巧みを增すとは此の謂なる乎。予は此劇を見て、ツリー君に與ふるに大根の稱を以てした。予、寡聞、未だ大根(俳優の)の英語を知らず、由りてラディシュだと云つたが、西洋人には分らう道理が無い。

ツリーは沙翁劇のフォルスタフが得意であるさうだ。またシャイロックの名人てあると云ふが、彼の態度容貌では、剛慾なる猶太人は現はれやうが、沈痛なるシャイロックを見せる點は、アーヴィングに及ぶことが出來るてあらうか。予は此等を見無いから、只だ疑問として措く。只だ彼のメフイストを見て、奉るに大根たり、英國の川上たる稱を以てしたのてある。彼は自己を廣告する事が上手て、又た豪がつてゐる。其一例は、引札にも、我名だけは『ツリー氏』と朱字て印刷してゐた。サアとなつての後の、彼の見幕は定めしさまじいものてあらう。

コロネット座の壹芝居てホール、ゲーンの『クリスチアン』が、田舍廻りの俳優によつて演ぜられた。座も小さし、役者も下手だが、予は此劇を十年前フィラデルフィアで見たことがあるから、復習の爲だと思つて往つたのてある。此劇はケーンの自慢物て、また當つた外題てある。芝居がはねてから根岸氏の宅へ往くと、同夫人と白石夫人とは、同時刻に同芝居を見物してゐられたてさうだが、暗い觀客席のことだから、予は知ら無かつた。二夫人はこの芝居を見て泣かれたさうて、そして西洋人は女ても、一向に芝居を見て泣かぬのは妙だとの評てあつた。

ジエローム作の『三階裏の客』は、セント、ゼームス座て、フォープス、ロバートソンが演つた。これも亦たショウ物に似た、舞臺に少しも變化の無い、下宿室の客間一つて、三幕追通しの芝居てある。筋と云へば、一人の旅客をキリストの再來に擬して、彼が三階裏に暫時逗留してゐ

る中に、風儀の惡い下宿屋の風が改まり、無教育な、人からは冷遇せられて人情の溫味を感じたことの無い下女が、慈愛の光明を見ると云ふのに過ぎ無い。登場人物の名稱さへ、『欺』、『驕婦』、『ひさぐり女』、『臆病者』、『諷刺』、『野鄙漢』などの擬人法を用ゐて、甚だ澁いものだが、演劇としては妙味が無い。

◉見物の好尙

以上は予が覗いて見た芝居であるが、此外予の滯英中に大評判であつたものは、喜劇『ジャック、ストロウ』、樂劇『ハヴァナ』、同じく『蝴蝶』、海軍喜劇『旗手少尉』、喜劇『人形』、バリー作の喜劇『凡ての女の知れる事』などで、いづれもウエスト、エンド第一流の劇場で、數ケ月宛打つづけたのだ。又たダリー座の樂劇『面白き寡婦』の如きは、何百日打通したか分らぬもので、其歌唱は、蓄音器に入る、寄席で眞似る、非常に流行してゐた。予が倫敦に在つた時は、既に春の沙翁劇の季節を過ぎた後であつたから、遂に同劇は一回もかゝらなかつた。扨て英國の劇界を概觀すれば、コメデーかメロドラマで持切りと云つてよいので、見物の好尙は、眞面目なものや、悲劇に向か無い。さう云ふものは必ず不人氣なのである。ツリーの『ファウスト』さへ、

悲劇と銘を打たものゝ、實は一曲のメロドラマに過ぎ無かつた。觀客はドウせ食後の腹減し、夜の二三時間を一寸氣晴しに送くらうと云ふが本旨の芝居見物であるから、悲しいものや、涙の出るやうなものは見たく無いのである。實際社會に悲劇が多いから、演劇てまで悲劇を見ずとも宜い、慰みになるもの、氣晴しになるものを見たいのである。されば芝居はいづれも輕いものが流行るやうになり、又た觀客の好尙が次第に佛國風に向つて來つゝある。

沙翁劇は春の間に少しかゝるだけで、昨年英國中でセキスピア物の演ぜられたることは、僅かに十回に滿たず。而して『ロメオとジュリエット』の悲劇を除くの外は悉く喜劇てあつた。沙翁物は殆ど地に廢れたと稱して可なり。英國では十二月になると、クリスマスを當込みに、諸々の劇場に御伽芝居がかこる。

觀客は一體に行儀がよい。話聲の低い、謹みのある英國人

將來の演劇（二）

(3) 俳優が舞臺に出るには自働車或は道具車を用ゐる
(4) 俳優の聲が觀客に達するやうに、高聲喇叭

だから、芝居を見て泣きもせぬが、また笑ふのでもクス〳〵と殺してゐる。大向ふから囃し立てたりするやうなことは無く、幕落に拍手して、再三役者の顔見せをさせる外は、至つておとなしい。幕間と雖も、ゾワ〳〵話をすることが無い。たま〳〵甲高い聲で話をしてゐるのは、佛國人か、以太利人だ。鼻に拔ける聲は米國人だ。眞面目な顔で澁りながら喜劇を見るとは、實に英國人の事である。又た觀客はドウしても女が多い。男は女の伴て來る方が多い。即ち劇場は女が服裝の展覽會である。下等觀客は、流行る芝居になると、開場二三時間も前から、入口に長い〳〵列を成して、靜かに秩序能く切符の賣出を待つてゐる。日本と同じやうに眞の芝居好は大向のガレリーに多い、殊に初日の見物に多いので、彼等の事をば『ガレリーの初日觀客』(Gallery first nighter) と稱する。其中には演劇界に名の燕いた者がある。『少佐』と云ふ綽名の白髯老人は、ドノ芝居の初日をも欠かしたことが無く、『グリーン叔父』は初日見物滿五十年目の祝をしたさうだ。

◉寄席の藝

寄席は社會の好尚を察するに、甚だ便利の宜いところであるから、度々覗いて見た。素より

風儀の比較的堅い倫敦であるから、紐育や、巴里ほどに野鄙、淫靡には流れてゐ無ないが、それでも追々と希臘主義に傾き、巴里風に感染するやうだ。踊子で近時最も評判なのはモード、アランである。彼女は米國や巴里で大に人氣を取つたので、遂に倫敦まで押渡つて來たのだ。予は其踊をバレス座で二回ばかり拜見した。得意藝は希臘式の踊と、猶太王ヘロデの女サロメが、洗禮のヨハネの首を獲て歡喜する表情踊とである。モード、アランは『サロメ踊』一つで、數ヶ月も滿場の客を引き、遂には英國皇帝の天覽にも入り、又た自叙傳まで著述したと云ふ勢だ。扨て其の踊の風采はと云へば、希臘踊は、素裸の上に短き白衣一枚を纏へるのみ。サロメ踊に至りては、紗に飾玉を附けた腰卷一貫で、手も、胸も、背も皆裸、但し要部を蔽ふに僅に多少の飾玉を以てするのみ。兩脚部は上より下まで赤裸々なれば、其烈しき舞の振て、舞ひ舞ひて、裾の開くときには、自然いかゞはしき醜態を露出するのである。手は白蛇の如くに動き、踊は輕いものであるが、風俗の上からは禁止すべき價値がある。現にマンチエスター市では、其興行を許可しなかつたさうであるのに、倫敦で之を數百日も興行させて、紳士淑女が爭うて之を見物するとは、妙なものだが、但し美術館へ往けば裸體畫が澤山にあるから、生きた美人を裸にして踊らせるのも、藝術の爲なら何の怪しむべきことで無いのであらう。又た美術祭に

裸のモデルを町中へ引廻す巴里の風に比べたら、モード、アランくらゐは何でも無いのであらう。さりながら女が肌を見せることを八釜しく云ふ國柄で、裸體美人の畫や石像を公示するのみならず、裸踊同様の『サロメ踊』を許可しておくのは解し難いことだ。

コリシアム座でも、以太利女のヴアレリーが、『サロメ踊』を演つてゐたが、これは同じ裸體でも、シッカリと肉襦袢を着込んでゐた。但しかゝる踊にタイトの皺が見えるのはまづい。また『クレオパトラの踊』だとて、生きた蛇を使つて踊つゐてた。此座で又たヅグネルの曲『タンホイゼル』の活人畫を見たが、丸裸のヴィナス女神などが現はれるのであつた。寄席の女藝人の扮裝は、成たけ裸體に近い風を見せるのだが、道德風儀問題を別にして只だ見てゐれば、女の體格が美事なので、いかにも姿勢が良いものである。肉襦袢に一寸猿股式の飾をした美人が輕業などを演ずるのを見ると、藝はよし下手なのでも、姿勢や身振が甘いので奇麗だ。男の輕業師なども、或は喜劇かゞりて見せたり、又た力持をするのに、ホワイト、シャツに黒いヅボンてシガーなど吹かしながら、態と悠々不逼の樣子で見せるところが、所謂景色がよいので、藝が一層上手に見える。そこになると日本人の輕業師や手品師が、何組も歐米の間に巡業してゐるが、身振がブッキラ坊て、服裝は拙い。それに體格の釣合が惡く出來てゐるから、タイト

を着たところて可笑しな形てあり、藝はよし上手ても、一向にはえぬ。西洋の藝人は裝飾所作て、藝を敷張して見せるが、日本の藝人は正直すぎて、藝ばかりだから、數割方の損がある。

但し花子に至りては、新聞屋が『日本第一の女優』などゝ吹聽したに拘らず、日本人は寡聞なるが故か、我國未だ花子なる名優あるを知らぬ。吉川花子と名乘るからには、玉乘の娘上りではあるまいか。また花子とあるからは乞食藝人か？　紐育では金摺の紙衣を着て踊つてゐたさうだ。倫敦ては『ヒッポドローム』の大寄席に買はれて、中々の人氣を取たが、我等日本人は氣が咎めて、恥かしくて見に往かれ無かつた。花子は其後歐洲大陸を巡業したと見えて、予が瑞西ツューリッヒ市に往つた時にも、辻の古き張出に『花子』の名が見えてゐた。

倫敦ヒッポドロームは、紐育のヒッポドロームほどに大きくは無いが、手品、輕業、馬藝などに加へてメロドラマをやる。

特來の演劇（三）

(5) 舞臺の大幕の目

(6) 第四十一幕の目の觀客

何十人もの役者が出る、座中の回舞臺が一杯の水になる、本舞臺から大波が打つ、人や馬が泳ぐ、また大地震、大海嘯で、家や木が流れて來る實景もあり、眞に寫實式の御芝居を見せる。その甘きことサッカリンの如きメロドラマがある。されど笑ふ勿れ、今日の芝居は追々とヒッポドロームのメロドラマ式に成下りつゝあるのである！　此寄席で又た『肉彈』(ヒューマン、プレット)と云ふ手品があつた。これは大砲の中に少女を籠めて打出すので、天一などの古くやつた藝だが、これを『肉彈』と名づけたのは、紐育で櫻井大尉の『肉彈』が英文で出版せられると、直ちに其名を取つたのが元であるさうだ。

寄席では又た西班牙踊が流行る。少し風紀問題に觸れるものだが、踊は輕い。其他の藝は、奏樂、唱歌、道化、物眞似、八人藝、犬藝など無數である。輕口、流行歌などは、世態人情の異る我等外國人には、更に面白くも可笑しくも無い。あれが面白くならうとには、西洋へ生れ變つて來ねばならぬ。バレス座に即席畫の藝人が出てゐたが、予が見た二度ながら、四つ五つの同じ畫を描いて見せてゐた。あんなことでも藝人顔をして飯を食つて行けるとは、流石に演藝道の盛んな西洋は異つたものだ。

◉俳優の收入

ウオルトン下宿に、一人の若い田舍廻りの俳優がゐた。藝はドウだか知らぬが、可成り教育もあるやうだつた。長い間買手が無くて貧乏し、下宿料も拂へぬ仕末だが、下宿の娘と仲が好いので置いて貰つてゐたやうだ。遂には病氣に罹り、失望の極、ピストル往生を企てたが生命は拾うた。此男の話に俳優は一枚看板になつたところで、實入は多いやうでも、下廻りから、小屋者への配當祝儀で費用が累み、其他雜多の入目が多くて、實際の所得は尠いものであるさうな。又た讃岐丸の相客で、南洋島の護謨栽培に出かけた一紳士の話に、兄は倫敦プレイハウス座の座頭たる評判のモードで、『旗手少尉』で大當を取つてゐるが、彼はいつも貧乏である、俳優で金持はツリーか、フォーブス、ロバートソンぐらゐであるとのことであつた。

藝人貧乏と、東西ともに相場が極つてゐるやうだが、扨て英國あたりでは、一流の藝人となると、表面の收入は驚くべく多額なものだ。エレン、テリー嬢の如きは、劇場總收入の七割を取るさうである。ウエスト、エンドに在る大小三十の劇場で、秋の芝居季節に俳優其他の藝人だけに拂ふ給金は一週間三十萬圓である。ドルリー、レーン座だけでも、御伽芝居の季節にな

ると、俳優から下廻りが一千人もゐて、給金の高は一週間一万圓を要すと云ふ。それでも一人宛に割ると高い給金を取るものは少くて、唱歌女などは一週間二ポンドぐらゐ、俳優にも一週間十五志ぐらゐなのがゐる。併し人氣のある喜劇俳優になると、一週間二百五十ポンドぐらゐの給金を取るものもある。歌唱ひの名人になると馬鹿々々しき給金なのがあつて、國王の御聽に達したと云ふハリー、ラウダーは、一週間一万圓の給金で米國へ雇はれて往つた。又た喜劇家のアリス、ロイド嬢は一週間五千圓で紐育へ雇はれた。

◉女優の結婚

女優、分けても歌唱女は日本の藝妓である。藝よりも美貌が第一てある。遊冶郎の心魂を奪ふのには、美貌と手管とに限る。最近に於て貴族富豪の子弟にして英國の女優と結婚したものが十四五人もあつた。予の滞英中最も評判であつたのは、ゲエチー座の『ハヴァナ』の花形てあつたストレーが、ポーレット伯爵と結婚して伯爵夫人となつたのと、又た同座て一時人氣を取つたことのあるスタッドホルムが、ボレット少將の息子と結婚したこととてあつた。

女が氏無うして、玉の輿にも乗らう、伯爵夫人にもならうとには、女優になるに限る、少くとも歌唱女になつて、スターとなり、花形ともならば、將來の榮華は山から轉がり落ちるだらうと思ふ浮氣な娘が、英國にも多いことて、近頃は倫敦より田舍へかけて一層志望者が殖えたさうだ。それて倫敦の劇場持立は女優志願者の申込て忙殺されてゐる。一座ては一千人の歌唱女志願者があつた。ポーレット伯爵夫人を出したゲエチー座にも數百人の申込があつた。志望者の多くは中流社會の娘で、相當の教育あるものが多く、中には富豪の女さへ加はつてゐるとの事だ。勿論玉の輿ばかりが志願てもあるまじく、我れこそ一廉の花形役者になつて、男からヤンヤと持囃されやう、それに又た美しき衣服を着飾り、立派な舞臺へ出て、面白可笑しく日を暮さうとの野心が多いのてある。ホール、ケーンの『クリスチアン』はこれを現はした芝居てある。しかし舞臺て喜劇を演ずる役者が、實際社會て悲劇を演ずるもの多く、女優志願者の大多數は墮落失敗に終つて、淫賣となり、乞食となるの悲慘な實例も尠からず、又た富貴と婚したる女優が圓滿に添遂ぐるものは至つて稀なのてある。

◉皇室と演劇

英國皇室は演劇を保護せられる思召からして、國王皇后陛下の親しく劇場へ臨ませらるゝこ

とが多い。昨年中に演劇またはオペラの劇場へ皇室より御臨場あつた度數は、國王陛下が二十一回、皇后陛下が四十一回。又た皇太子殿下は十七回、皇太子妃殿下は三十一回であつたと云ふ。いづれも極く御手輕に儀式無く、平民に交つて御見物になるのである。又た宮中に俳優を召されて演劇を御覽になることも度々で、特に毎年十一月及び十二月の兩陛下の御誕辰節には、ウインゾルや、サンドリンガムの宮殿にて演劇がある。

演劇でも寄席でも、音樂會でも、はねには必ず『神よ國王を救ひたまへ』の國歌を吹奏する、觀客聽衆は帽子を脱して(男だけなり)敬意を表するが法式になつてゐる。

俳優が各種の團體を結んでゐる中に、慈善主義、宗教主義なるものが多い。而して又た俳優孤兒院の設ありて、皇后陛下、皇太子妃殿下等は、實にこれが贊助員にておはすなり。

文學の塵あきなひ

倫敦タワー見物の歸途に、ミノリス街の方を歩いてゐると、一軒の古本屋が目に留つた。汚げな奥深い店ではあるが、一寸品物がありさうだからはいつて見た。兩壁には天井まで高い棚

がズラリと並んでゐる。中には臺があつて、古本が一杯に積み上げてある。臺の下や、店の奥には反古同樣の破損書、零冊が堆くなつてゐる。主人は人足然たる不愛嬌な男で、目には一丁字も無さうだが、それでも書物の事は分る。手代のやうな老人は、破れたフロックコートを着て、盡間だのに酒くさい。此男が受取書などを書くのだ。

元より多少書癖のある予は、何か面白い本もがなと探すと、あるは〳〵、この塵だらけの屑屋然たる古本屋だとて、又た主人が人足らしい男だとて、甚だ馬鹿にならぬ。而も廉いのだから嬉しい。予は漁り〳〵て、名優の扮裝した寫眞が銅版ではいつてゐる沙翁戲曲集の四冊ものや、スペクテートルの第二版、ドレーが挿畫の大本ドンキホーテ、銅版刷豫約出版本の英國名畫集などを買ひ込んだ。掻き廻す中に手は塵で眞黑になる、さゝど此店には手洗所一つ無い。かの主人に、汚いことだなと云へば、只だニヤ〳〵笑つてゐる。フロックコートの手代はそれは『文學の塵だ!』と洒落たことを云ふ。

珍本が手に入つたのだから嬉しくてたまらず、予は郵船支店に立寄つて、書癖家の根岸君に自慢をすると、君はドウしてあの人足屋の本屋を見附け出したのか、あれは僕の巣窟で、支店の者などには一切秘しておいたのだ。上谷君のやうな讀書家に知られやうものなら、荒される

に定まつてゐるから、イクラ問かれても教へなかつたのに、新來の君にカウ見付けられては、モウ御仕舞ひだと不平を溢した。

其後二三度も上谷君や、長屋學士を案内してこの人足本屋を漁り、いろ〳〵と買つた。予は字を讀むよりも畫を見る方が面白いから、繪本の珍らしいのを探し出した。沙翁戯曲畫集のポイデル、ガレリーの釘裝のいかにも美しいのも買つた。根岸君は其後屢ば、君たちがあの店を荒すものだから、僕の買ふやうなものが無いとて、笑談を云つてゐた。

チャーリング、ロードあたりにも、所謂『文學の塵あさうど』が軒を並べてゐる。名著が廉く買へる。ファリントン街あたりの古本屋は、軒下に臺を出して書物の芥屑を並べてゐるが、其中を辛抱して漁らうものなら、沙翁やカーライルの古版が一冊一片ぐらゐて買へる。また古道具屋の店頭や、露店などを覗いてゐると、廢靴の中などから、ミルトンやテニソンが出てくる。これは東京の屑屋に四書五經があるやうなものだが、それ等にも增して日頃難有いやうに思つてゐる英文學の大著が、塵芥同樣になつてゐるのを見ると、いかにも勿體無いやうな氣がするのであり、流石に文學の國だけあつて豪いものだとも思ふ。

沙翁戯曲畫集のポイデル、ガレリーを買つたことを根岸君に話すと、君も欲しといふやうな

話であつた。然るに予が一日ストランドを歩いてゐると、立派な古本屋の窓に、ポイデル集の初版で木版の古めかしい（予の買つたのは、此初版の寫眞を集めたものだ）のが出てゐる、代價は五ギニー（五十二圓餘）と札が付いてゐたから、此事を根岸君に報告した。それより數日たつて、同君と共に此書店へ素見しに往つたが、この店は倫敦で有名なサヽラン商會とて、古本は珍書づくめ、名家の眞蹟も賣つてゐるが、値段の高いことは目が飛び出す。二冊ものゝ小本ボッカチオで、洒落た印刷ではあるが、左程タイしたものでも無いのが、舊くて五ギニーだと聞いてギョッとした。高いも高いが、沙翁のクオド版もある。其のハムレットが一冊で千七百五十圓だ。文豪詩聖の筆蹟も多く揃つてゐるが、バーンスの詩稿一枚が二千五百圓、ナポレオンの眞蹟がタッタ四行で百二十六圓だ。此店の古本には一冊一磅以下のものは無いやうだ。

ストランドから、フリート街あたりへかけては、珍本ばかり賣る古本屋が多いが、予等のやうな貧乏旅客がウカとはいらうものなら、旅費缺乏を來すの誘惑に陷らぬとも限らぬ。それよりはダヴェーの人足屋へでも往つて、文學の塵を漁つて、掘出しものをするのがよい。

新本屋でも、タイムス書籍倶樂部や、バンバスなど、其他チャーリング、ロードで一二軒、シチーで二三軒へ寄つて見たが、はいるとドウしても買ひたくなる。珍本は別として、

凡そ書物ぐらゐ此の倫敦で廉いものは無いやうだ。ネット（眞價）のもので無ければ、大抵一二割を引いてくれる。それに書物は一種の誘惑物である。衣服の女に於けるが如くに、書物の予等に於けるは確かに誘惑である。誘惑と知りつゝ、また旅費が缺乏するのを恐れつゝ、やはり本屋の前では足が停る。一二冊でも買はぬと氣が濟まぬのであつた。

小說や雜誌は、市內五百の停車場の新聞店で賣つてゐる。古本の小說まで賣つてゐるところがある。以て英國人が讀書の趣味の大なることが察せらるゝでは無いか。市內の文房具店ではいづれも輕文學、少年文學の類を賣つてゐる。扨てこの少年文學であるが、先づ繪草紙の綺麗なこと、其繪の巧みなことは英國が一番で、金巾に印刷した繪草紙もある。少年文學の進步も驚くべきもので、評論の評論社、ディーン會社、ヘンダーソン會社、及びアルヂン會社などの小兒の本は一冊一片づゝで、これがドウしてカウ廉く賣れるものかと思はれる、色刷の挿畫なども入つてゐる。御伽噺、歷史譚、小說梗概などがあつて、大人が讀んでも面白い。小兒は一片づゝ持つて、文房具屋、玩具屋乃至停車場へ往つて買つて來る。また少年雜誌の類の多くは一片雜誌であるから、小兒は容易に之を買ふことが出來るので、從つて少年の讀書力はメキメキと進步するわけのものだ。

一片雜誌の種類は甚だ多い。デイリー、メールの持主たるノースクリフ卿も、エキスプレスの持主ピアソン氏も、共に一片雜誌から仕出したる出版界現代の大立物である。或る時デイリー、メール社主催の家庭博覽會へ往くと、同新聞社の出品所がある。其の出版に係る、各種の書籍、雜誌が多く陳列してある中に、婦人、少年、ポンチ、雜纂物などの一片雜誌が數へて見ると凡そ十種ほどもあつた。予は若しも、これがデイリー、メール社發行の一片雜誌の全部であるならば、見本として一部づゝ買ひ揃へたいと思つて、店番に聞くと、決して全體では無く、僅に其一部分に過ぎ無いとのことであつた。また下町を歩いてゐると、『チッツ、ビッツ』雜誌の廣告を、肩から鐵框で差上げて町角に突つ立つてゐる。これも有名な一片雜誌だが、賞などで、しきりと賣廣めてゐる。

フリート街と其附近とは英國文學史と切つても切れぬ深い緣故のある所で、ミルトンや、ジョンソンの舊跡もあれば、ジョン、マレーの大出版者も元は爰から起つたので、今でも新聞社其他出版業者がヒシ〳〵と並んでゐる。而してジョンソンやカージイルなどが、このフリート街から、ストランドへかけての古本屋の店頭を漁り歩いた昔の事を想ふと、この肩摩毂擊の雜沓地も、何となく懷かしくなるのである。一書店の主人が、大家の顧客に就いての回顧談をし

るあり之れに便乘して「エニセイスク」に寄港し「クラスノヤールスク」町に着せしは八月二日午前六時半なりき

「クラスノヤールスク」町より北極圏内の「ドジンスク」村に至る水路大凡千九百露里之れに迦上の里程を加ふれば三千八百露里にして之れを日本の里數に換算すれば大凡九百五十露里を彼れ此れ二ヶ月間にて旅行したりしなり其間危險と困難とに遭遇せしとも少々にあらざりしかども貝加爾湖東に於けるが如き遭難は殆んど皆無なりし着後客舍に鋭氣を養なひ前途の遠征に思を碎きつゝありしが此れよりは遠征して一旦蹉躓したる蒙古砂漠の横斷を試むべき歟或は中央西比利亞の「オムスク」より「オビ」河を遡りて「セミパラチンスク」に達し高加索方面に遠征の針路を取る可き歟或は西比利亞鐵道線路に因り烏拉爾山を踰えて歐露に入る可き歟前途何れも遭遠探檢の材料また富豐なる可きも要する處歐露に入り歐洲進化の程度を觀察し東方問題研究の參考材料を蒐集するは目下の急務なるべしと覺悟し斯くて明治三十三年八月十七日「クラスノヤールスク」町を發し鐵路夢を載せたる僅トムスク」府にと向ひぬ

終

單身踏査 **東露の實狀**

明治三十六年十月十一日印刷
明治三十六年十月十七日發行

東露の實狀
定價金七拾錢

著者　筑波篤

發行者　東京市京橋區南傳馬町二丁目五番地　目黑甚七

發賣者　新潟縣長岡町表四ノ町廿番戸　目黑十郎

印刷者　東京市京橋區西紺屋町二十六七番地　佐久間衡治

印刷所　東京市京橋區西紺屋町二十六七番地　株式會社秀英舍

發行所　東京市京橋區南傳馬町二丁目　目黑書店

不許複製

度持合せてゐ無かつたものであつた。其時予は此人がまさか大詩人テニソンだとは思はず、唯だ眼の鋭い、髯の蓬々と生えた、縁の廣い帽子に、トンビ外套を着た、何處の田舍爺だと思つたのである。予は若しお尋ねの書物が見付かつたら御知せ申さう、お名前はと聞くと、「アルフレッド、テニソン」と刷つた名刺を出した。予は驚いて「あなたが、あの大テニソンで？」と聞くと、彼は笑ひながら「さやう、大テニソンと云ふものがあるのなら、マア私の事でしやう」と答へた。

予が此店を初めてから一二年の間は、チヅケンスも顧客の一人で、また親密な交際をしてゐた。此人は二片賣り、六片賣りの安い古本を叩き込んだ箱の中を掻き廻すのが大好きで、面白いものが見付かると、小兒が新しい玩具を買つて貰つたときのやうに大層嬉しがるのであつた。そして見付け出したものは、値段が二片、六片の正札であるのに拘らず、チッケンスは必ず一志より下の金を拂つたことが無い。或時予が過つて二片箱の中に混ぜ込んだ一冊の珍書を此人が掘出すと、半ギニー（約五圓）の金を出し、これは珍らしい本だから、是非これだけの代價を取つてくれと云つたことであつた。チッケンスは店に來るたび、莞爾として「お早よう」の挨拶をなし、水夫のやうな大きな手でシッカリ予の手を握りしめる。其度

毎、予の心持はセイ〳〵とした。併し附合つた間は實に短日月であつたが、或日一人の客が、「チッケンスが死んだ！」と知らせてくれたので、予が非常に驚き悲しんだことは、ツイ昨日か一昨日のやうに思はれる。』

文學の塵の中を漁つたチッケンスやカーライルやテニソン、其人々の遺著は、今日の吾人がまた文學の塵の中より拾ひ出すのである！

序に新聞紙の事を書かう。予は一日友人等と共にタイムス社内を參觀した。同社は正午より十二時半までの時刻を限り、支配人よりの參觀券を得たものに限りて第二版の印刷を見せるのである。社の結構から見れば、これが世界第一の新聞タイムス、これに記者たるものは、大臣以上の威信と資格とがあると云ふほどにも思はれぬが、予等は何と無く、尊敬の念を以て之を見たのである。印刷部で、組字器械は他の新聞社の如くにライノタイプを用ゐるので無く、此社獨特の器械で活字を拾ふ、その新鑄活字は一度紙型を取ると、直ちに改鑄するのである。社内で工場の一部を成せる所は、往時沙翁の自から舞臺に現はれた劇場の跡であるとて、案内者は説明した。タイムスの印刷高は僅に四五萬に過ぎず、停車場や文房具屋で賣つてゐるもので、は無く、普通の家庭にも入ら無いが、これだけで世界の言論界に王者の權威を有てりとは、實

に豪いものかな。數より云へばデイリー、メールの如きは、一日の發賣高一百萬部に達すと云ふと雖も、其勢力も信用も共にタイムスとは穿壤の差がある。況んやデイリー、メールを羅口して、デイリー、ライヤー（日刊虚報）と云ふものさへあるをや。されば新聞の勢力信用は、發行部數の多少には依らぬやうだ。デイリー、テレグラフは發行高も多く、信用も勢力もあるが、タイムスに企て及ぶものて無い。タイムスは一部三片で最も高い。テレグラフやポストなどは一片であるが、ノースクリフ卿が半片のメールを創刊してから、半片新聞が次第に增加して賣行も宜い、同卿の發行するデイリー、ミロアは繪入新聞で半片だが、繪が大きくて、記事が簡潔てあるから評判が良く、毎日の發行高五十三萬と云ふ、電送寫眞機なども備へ付けてゐる。ノースクリフは倫敦や地方に亘りて數十種の新聞雜誌を經營し、又た書籍の出版をしてゐて、彼は新聞界の覇者てある。今てはタイムス社をも其勢力の下に置いた。彼と勢力を競うてゐるものはピアソンて、彼も亦た數多の新聞雜誌を經營してゐる。一時はタイムスをも買收せんとしたが、ノースクリフに負けた。彼の新聞中て、最も勢力あり信用あるはスタンダードてある。エキスプレスは創刊後日猶ほ淺しと雖も、其發行部數は四五十萬に達してゐる。

倫敦の新聞は、いづれを見ても編輯が何となく心持好く、眞面目な風に出來てゐる。歐洲大

陸の新聞て之に及ぶものが無い。また所謂米國式の繪の多く入つた、見出し活字の大きな、挑戰的な新聞は、英國に於て見ることが出來ぬ。記事も、體の調子がセンセーショナルて無い。これは社會の好尙が落着いてゐて、萬事が保守的てあるのと、上てはタイムスやテレグラフのやうな眞面目なものが、チャンと押へてゐるから、新聞が米國風に流れることが出來ぬのてあらう。印刷器械は凡てホーやゴッスの米國製を用ゐてゐるに拘らず、刷り出す新聞は思ひ切つて米國風になり得無いのてある。ピアソンがタイムスを買收することの出來なかつた理由の一は、彼れにやらせたら、歷史附のタイムスは賣れ出すやうにはならうが、米國主義てある彼人の事て、新聞の體面を傷けるてあらうと恐れられたためてあつたと云ふ。

夕刊新聞は一日に五六回發行する、朝刊の編輯も印刷も夜半の仕事て、新聞社を見やうと思ふと十二時過に來いと云はれるのだから慌く。而して百萬だの五十萬だのと云ふ新聞が幾つもあつて、それて孰れも賣れて往くのは、國民の讀書嗜味が多いからてある。社々に立つ無數の新聞賣子も、町内や、停車場の新聞店も、孰れも相當の利益が無くては立たぬわけだ。或る一大停車場の新聞店の前て夕刊新聞の到着したのを見てゐると、男女の乘客が買れ〳〵と二三枚宛買ふ、店主は束を解くのが間に合はぬほどに目を廻してゐた。此の[illegible]もの、新聞の種類

も多く、發行部數も多いはずである。汽車の客は十中の七八まで新聞を手にしてゐる。

セント、ポール寺の近傍には、著名な出版業者が並んでゐる。バターノスター、ロウには、ロングマンあり、ネルソンあり、オックスフォルド大學出版會社あり、いづれも競うて文學の寶典ともなり、又た塵芥ともなるべきものを製出してゐるのである。予はロングマンの若主人の案内にて同社の製本部を見た。この仕掛て無くては本は麁く賣れぬ。綴方から、表紙付けから、悉く器械で、それだから製本が丈夫に出來るわけである。工場の監督が各部を一々丁寧に案内してくれて、此の器械も米國製、彼の器械も米國製だと說明する。して見ると、凡ての製本器械は米國から來たものを使つてゐるので、而して此工場は倫敦第一の製本工場であるのだ。彼の監督は曰く『米人は利口だね！』と。

諸種の見世物

極言すれば英佛博覽會も一の見世物なり、興行物であつた。シエパード、ブッシュ博覽會社なるものは、毎年一度目先の變つた博覽會を興行して、市中の人氣を立やうと云ふのである。

一體英米人は博覽會なるものを日本人のやうに鹿爪らしく考へては居無いので、實は一つの遊山場の心持でゐる。而して其場内には、樣々と珍しい興行物を打つて、一の淺草奥山を現出せしむるのである。見物人も本館出品物の多くは之れを見ることの出來ぬ夜間を以て最も多く群り來るのである。來年を以て、シエパード、ブッシュに開かるべき日英博覽會も、去年の英佛博覽會も大差無きものと見て可なりと思ふ。

アールス、コートにも一の博覽會場があつて、毎年異つた博覽會が興行せらるゝのである。一昨年はこゝに日本村の見世物もあつたと云ふが、去年は匈牙利博覽會が催されてゐた。同國進歩の現狀を社會の各方面より示すに足るべきもので、殊に其の農業牧畜の現狀を示したものなどは有益であつたし、又た文學界、美術界の進歩をも示してゐた。匈牙利に於ける沙翁文學と題した小冊子を觀客に分つてゐたのは、英國人の注意を惹くべき良き思ひ付きだ。日英博覽會にも、日本に於ける英文學の影響とか、或は沙翁劇の研究とか題した小冊子でも分配したが良からう。

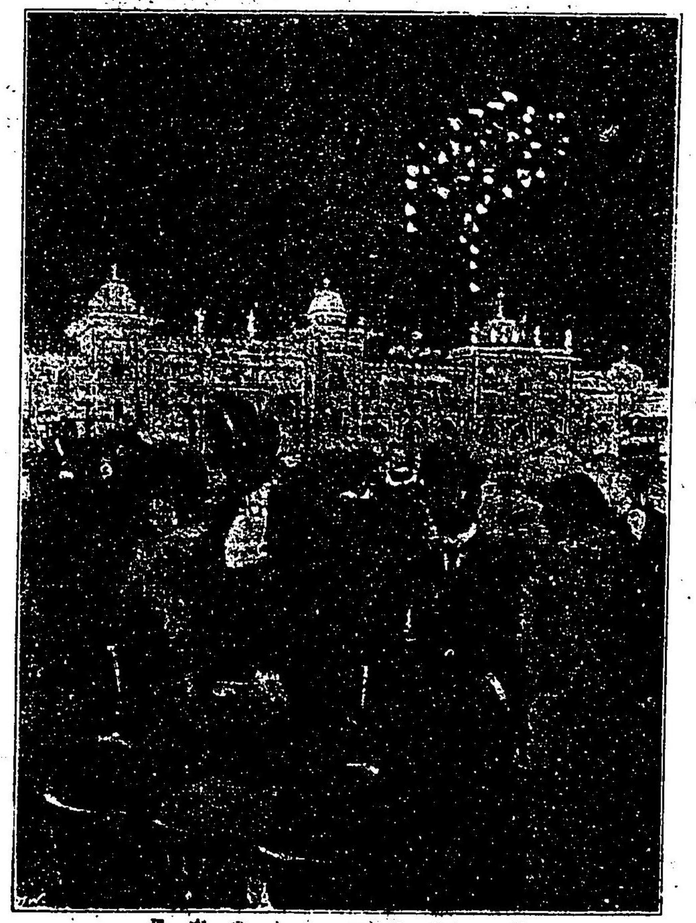
アールス、コートの博覽會場には、ウオータド、シユートあり、音樂堂あり、舞踏場あり、其他諸種の興行物があり、野師のいかさまな見世物もあつた。場内の境界が大きな書割で、何

牙利の首府ブダペストをダニューブ河畔より見た光景を大きく見せたところ[illegible]、こゝは實に倫敦人が夏の夜の散歩場なのである。散歩場の景氣を添へるが爲に、目[illegible]た博覽會を開くのである。されば其設備が凡て此目的に合してゐる。

シエパード、ブッシュの博覽會場なるものも、實はこのアールス、コートを[illegible]を大にしたものなのである。英國にて開かるゝ各種の博覽會ともに、一切政府が關係することを無く、民間の事業となつてゐるから、自然見世物的の性質を多く帶びることになるのではあるまいか。

水晶宮は郊外に在りて、これは千八百五十一年にハイド、パークでヴイクトリア皇婿アルバート親王主裁の下に、英國に於て初めて開催せられた勸業博覽會の建物を爰に移したもので、鐵骨ガラス張りの宏大偉麗にして頗る異觀を有する大見世物場である。場内には各種の寶店がある、食堂がある、動物館がある、羅馬時代美術の模型を集めた處がある、廣大なる音樂堂あり、また劇場あり、この劇場で冬には御伽芝居がある。而して又た場内にては時々諸種の展覽會の催があり、犬の展覽會、猫の展覽會、家禽の展覽會、菊の展覽會などがある。而して夏の夜は一週間に二度づゝ花火が揚るので、倫敦人が雜沓して遊びに來るのであるが、昨年は英佛

大博覽會と云ふ大見世物が市中に出來たので、スッカリ人氣を其方に取られて、頗る寂れてゐた。予が見物に往つたときには、音樂堂で、手品や輕業、馬藝などを興行してゐた。又た女の柔術家と云ふが、巧妙な柔術の型を使つて、太の刀を投げる、觀客は大に喝采し



アールスコートの夜景

たゐたが、日本人は内心可笑しくてたまら無かつた。

水晶宮の庭園は廣くて美しい。建物の階上から四方を見渡すなら、テームスから倫敦へかけて、例の通り打霞んだ光景が、これも又たターナーの畫のやうである。

水晶宮は規模が大きくて、興行物に困ると云ふ有樣、殊に市中に大博覽會場の遊び處が出來て、五十年來の此處のお株を奪ひつゝあるので、維持に窮してゐると云ふことだ。なまじひ之を米國人に支配させたら、水晶宮見世物會社はイクラか利益が浮いて來はせぬかなど、株主の中には評定があるとの事を聞いた。

オリンピアも亦た一の大きな見世物館で、廣大なる建築物がハンマースミス區の一角に堂々雄視してゐる。毎年六月に於て此處に催さるゝ陸軍の演武會が、其年中行事の最も有名なるものである。又た新聞紙上の『遊樂の栞』を見ると、此處ていろ〳〵の展覽會が、一週間程つゞて切つて變る〳〵に開催せらるゝのである。予は此のオリンピアで、二種の展覽會を見た。其一はデイリー、メール新聞社主催の家庭展覽會で、『理想のホーム』と稱したものである。家具、衣服、裝飾品、食料品、野菜、果物、玩具等、何でも家庭と關係のある品物をば、それ〳〵意匠を凝して陳列して、いづれも即賣店である。パン屋に萬歳と名づけたパンを賣つてゐて、日

本人と見れば、賣子が萬歳と叫ぶ。七尺有餘の大男を看板に使つた店もあつた。

其後此のオリンピアで、ゴム展覽會が開かれたと新聞に出てゐたから、物好きに見物に出かけたが、二十世紀以後の世界はゴムの世界になるであらうと云ふ程であるから、ゴムの製産、製造の進歩を十分に示した展覽會で、僅に一種品の展覽會であるに拘らず、規模の可成り大きなものであつた。ゴムの原料から、半製品、工藝品、器械などを陳列してゐた。また自轉車、自動車などのタイヤの廢物を再製したものゝ陳列品が多かつた。この展覽會は品物が品物だけに即賣店は至つて尠く、ドノ陳列店でも、觀客を迎へ入れては、しきりに説明する、愛嬌を振蒔いて、華客を求めるところは中々商賣に拔目が無い。一人の男が予の側に寄つて、君は再製ゴムに興味を持た無いかと云ふのだ。ゴムの商賣には丸て緣が無いけれども、かやうに聲をかけられては、イヤ無いとも云へぬから、然り大いに興味を有つてゐるのだと答へた。すると彼男は、てはお話をして見たいから、此方へ來てくれぬかと案内する。君は陳列店を出してゐ無いのかと問へば、それは無いが、見本だけは持參してゐると云ふ。案内されて往つたところは來賓室で、彼れは種々な見本を出しては、シキリと説明する、予にはサッパリ分らぬ、それで只だカタログを送つてくれぬか、その次第によつたら日本から註文しやうと、其場はお茶を濁

して別れた。

イスリントン區にある農業館も亦た一の見世物場である。家畜展覽會だの、ジオラマだの、音樂會なので、四時見物人を引く工夫をする。予は此處てパン屋の展覽會を見た。飾り菓子製造の競技などもやつてゐた。出品はパンや菓子ばかりて無く、パン屋の車も、菓子燒の釜もあり、又た其他の食料品では、牛豚、乾酪なども澤山に出てゐたし、それに和蘭の若い農婦が數人で、乾酪製造の實地を見せてゐた。其後この農業館では、牛乳屋の展覽會もあつた。

マダム、ツゾーの蠟人形展覽會は倫敦の一名物て、而も一百年の歷史が附いてゐる。佛國革命時代に、瑞西から出て、ルイ第十六世の宮廷に蠟人形師てあつたツゾー夫人が創立したものてある。歷史上著名な人物、現代の帝王、名士、女傑から俳優までの蠟人形が二百有餘ある。而してツゾー夫人の後繼者が、この展覽會を維持擴張し、其時々々の名高い人物を新たに造つては增加する。日露戰爭當込みに造つた、東郷大將、乃木大將などは甚だ貧相な御大將だ。英國皇室の御肖像は立派なものだ。女權黨の首領パンカースト母子の像などもある。ツゾー夫人が自から作つたと云ふ老いたる文豪ヴォルテイアの像は、其の沈痛なる容貌が良く寫されてゐる。概するに此展覽會に入ると、偉人名流の風丰英姿が生けるが如くに我等の目に映じて、歷

史上、文學上に頗る有益なるものてある。又たツゾー夫人以來蒐集したナポレオン大帝の遺品室はナポレオン崇拜家の垂涎禁ずる能はざるものだ。

恐怖室とは人殺、刑罰などに關する物悽いものばかりを集めて、刑具、兇器の中にも、佛國革命に於て、ルイ十六世及び其皇后マリー、アントワネット。ロベスピールなど二千餘人を殘殺したるギロチン刑具の遺品は、一見して膚に粟が生ずる。而もツゾー夫人がギロチンから落ちたまゝを生寫にしたものだと云ふルイ十六世、マリー、アントワネット皇后、及び兇魁ロベスピール等の生首の蠟細工に至りては、二目とは見られぬ恐ろしいもので、ツゾーが女性の身て、職業とは云ひながら、能くも之を寫したる、其度胸が又た豪いと云はねばならぬ。コルデー女の爲に浴室に於て暗殺せられたる佛國革命の梟雄マラーの死體の生寫もある。この恐怖室には、一個の人間が賭博の誘惑に陷りて、遂に强盜殺人の罪を犯すまての道行をば、蠟細工活人形で現はしたものもあり、又た英國封建時代の拷問器械も何種かある。著名な牢獄の模型もある。唯だ噴笑を値ひしたは羅馬字の綴りは奇妙に書いてあつたが、察するに西郷隆盛の首の寫しだと云ふものらしいのは、芝居て使ふ大鬚を結つた張子の代首てある。

恐怖室に在る間は實に恐怖を感ぜざるを得ず、何だか怖氣立つて、ゾットするから、此處を

大急ぎに見て立去るなら、ヤレ〳〵とホット一息するのである。罪悪は、其模型に於て之を見ても、實に悚然として恐懼禁ずべからざるものである！

活人形で歴史上の事跡を現はしたものには、蘇國女皇メリー斬首の場、ネルソン將軍戰死の狀、又た芳紀十八歳のヴイクトリアが、ケンシントン宮の未明に、寢床を出て、寢衣のまゝにて、大英國及び愛蘭の皇祚を踐まれた時の狀態などが、いづれも見事に出來てゐる。更に去つて小兒部に入れば、器械仕掛の人形、御伽噺の活人形、其他さま〳〵の玩具など、いづれも無邪氣一點張て、恐怖室の罪惡と大いなるコントラストを成してゐる。

市中の見世物て、最も多いのは、何處とも同じやうに、活動寫眞である。又た一ファン、ランド』（娯樂郷）などとの看板を掲げたところは、活動眼鏡、自動音樂、蓄音器、自動ト占などを集めて、これは日曜日にも公開して、夕方などには女子供が澤山にはいり込んでゐる。景物附きの空氣銃射的、玉轉がし、玉打ちなど、これ等に至りては、西洋でも日本でも大差のあるものて無い。

テームスの舟遊

十月四日は日曜日てあつたし、それに倫敦ては珍らしい好天氣、而も十月と云ふのに、頗る暖かい。豫てから本田君の下宿の主人カッスルベルグ嬢等と約束の、テームス舟遊には、實に願うても無い仕合な日和てあつた。同行は下宿女主人と其許嫁の男、また妹と其許嫁の男、丁抹の青年其他下宿人一同に、日本人の予等二人を加へたものだ。リッチモンドまて汽車にて往きて、河畔にてボート二艘を傭うて漕ぎ上つたが、但し本田君も予も共に櫂が取れぬ、まして舵は覺束無い、只だ舟中足手纏のお客樣、女さへ漕ぐのに、これは氣の毒千萬てあつた。

テームス河は英國の飾りてあつて、また其富てある。河は波浪狀を成して紆流するが故に、水勢緩くして深く、直徑にすれば短い距離も、ウネ〳〵と流るゝが故に、大いに其の長さを增して、水利の便を與ふることの大なると共に、また河流の美を加ふるのてある。アヴエヴリー卿（ジョン、ラボック氏）は自然美を論ずるが中に、大いにテームスの紆流の美を稱揚してゐる。この美なる河水一條ありて、ロンドン繁榮の源を成すのてある。其下流がロンドン市中を

流れて海に注ぐは、即ち國家の富となり、上流水綏く岸綠りなるは、英國の飾りを成す。溯れば溯るほどに、兩堤の草も木も綠いよ〳〵深く、柳條水に垂れて岸碧く、折々また白鳥の悠々として浮ぶあり。堤上には貴紳の別墅多くして、芝生青々たる中に、花卉の紅紫を點ず。江山洵美なる天地に生れた我等、かゝる美水に浮んでは、何とも云へぬ良い心地だ。倫敦人が誇りとするのも道理だ。而して此長江の自然美を誇るが故に之を愛し、之を愛するによりて其保存に苦心經營して資力を吝まず、山來綏徐なる水勢をして、更に綏徐ならしめて、人の行樂を快ならしめ、又た水運の利を益せんが爲に、運河を鑿り、堰を築いて、水勢を轉ぜしめたるところもある。堤上の綠樹青草も又たテームス河保勝の苦心の跡ならざるは無い。

今日は天氣が好いから、我等と等しく、この美水に舟を浮ぶる男女が多い。女が舟中に寢ねて、男が櫂を取るもあれば、男が坐して舵を採るに、美人棹を取りて立ち、白き腕をまくり上げて、甲斐々々しく舟を操つるもあつて、自然美にまた人事の美を添へて、テームスは更に美しく、昔、大液池上の景もかくやと思はるゝばかりとは、予が舟中にての感じであつた。

予等は途中で、柳の蔭に舟を繫ぎつ、携へ來つた行厨を開いて午餐を喫しつゝ一休み。それよりまた漕ぎ上つた。ハンプトン、コート宮の對岸で止まり、其處の茶店の裏の芝生にテープ

テームス河上流ハンプトン、コート附近

ル椅子を置いて、茶を飲んだ。

テームスは上流へ往くほど、其風景の美が增して來る。試みにハンプトン、コートから舟を浮べて、ヘンレーやウインゾルあたりまで往くなら、一厨の美觀であつて、而して上流は上流社會の遊び舟が多いとは、後日其處まで往つた本田君の通信であつて、併し今日の豫定はさる上流までゞは無く、身分相應の中流、即ちハンプトンで、コートまでゞ引返すのであつて、それにモウ日は西に傾いて來た。

漕ぎ下つた。ボートを左岸に寄せて、それより少時は、淀川三十石式の引舟だ。男連は交る〳〵一本の綱を肩へかけて、堤を驅る、舟中の美人(?)を曳く。本田君も予も、英國へ來て、生れて初めて引舟人足に雇はれた次第、境遇が變ると、いろんな事のあるものだ！

日は遂にトップリと暮れた。名物の霧が河筋を籠めて、忽ちやゝ晴れるかとすれば、又た忽ち深くなつた時は咫尺を辨ぜず。處々に高く立ちたる電燈の、水路を示す燈明臺をなせるものは、光りが霧ににじんでゐる。それて前途は分るが、舳尖は甚だ危い、トモすれば他の舟に衝突しさう。遊覽小蒸汽が流を蹴つて來るのも、霧の中だから、近いのか遠いのか分らぬ。それて、櫂取には全く役に立たぬ予は舳尖に坐らされて、これからは水先案内の役だ！「ボート！ボート！」「左！」「右！」と始終呶鳴りづめだ！　責任は重い、他の舟に衝突はせぬかと冷々するのに、霧で軀はシト〳〵する。畫間の河上りの愉快に引かへて、頗る不快だが、思へばこれも一興、英國て無ければ、かやうな事に出くはしはせぬ。而も霧たち籠むる柳の蔭を驚げに覗き込むと、此處にも彼處にもボートが繫つてゐる、この霧の夜に、まだ歸舟の風情も無い。舟中の客は何者ぞ！　いかなる人物か？　霧暗うして、その男女たるを辨ぜず。畫間に漕ぎ上つて來た夫婦や情人の睦ましさ舟が、なほ暫しの快樂を追うてゐるのであらう。

やがて樂聲の水に響き、霧を破りて洩るゝあり、更に進めば、河岸のホテルの岸には多くの舟が繫つてゐる、庭上には男女が雜沓してゐる。高き廊下には、交る〴〵樂人が現はれて唱歌奏樂する。テームスのニンフ(仙女)は、霧深き中に、この樂に和して波上の踏舞をなしてはゐ

無いてあらうか？

テームスの舟遊なるかな！　これぞ予の忘るゝ能はざる滯英中の行樂てあつた。本田君は今年に入つてから、二度も三度もテームスに遊んだぞ、君と去年の曾遊を憶ぞなどと通信しては、予を羨ませたのてある。

街頭雜觀

倫敦人の倫敦知らずとさへ云ふ、まして風來の見物人には、倫敦の街ほど分りにくいところは無い。殊に下町となると、街區の割方は迷宮的である。昔から住民が勝手氣儘に家を建て町を割つたのが、殆ど其儘てある。されば一歩を踏み迷うたら、飛んても無い方角へ往つて仕舞ふ。これだから旅行客は無論の事、倫敦人にも地圖が大切なのてある。一つ何處かへ出かけやうとなると、先づ地圖を案じ、街鐵、地下鐵道、乘合車などの通る方角を研究して出かけねばならぬ。赤十字社の總會に、田舍出の羽織袴の社員が、銀座の柳の蔭や、日比谷公園の銀杏の下て、地圖を廣げて見てゐるのを笑つた予等も、倫敦へ來ては街頭て地圖を開く赤毛布となつ

たのだから、自分ながらも可笑しかつた。かほどに分りにくい倫敦市街、これでも既に市區改正を了つたもので、此れ以上に手の下しやうが無いのだとは恐れ入る。

市街を歩くのには、又た巡査君が、缺くべからざる案内者である。道筋方角を聞けば、純アングロ、サクソン種から選り抜いた肥大豐頰の査公君が、親切に教へてくれるのだ。赤毛布ばかりが、彼等に道を聞くのかと思へば、倫敦人でも、巡査*

巡査を圍んで道を聞く

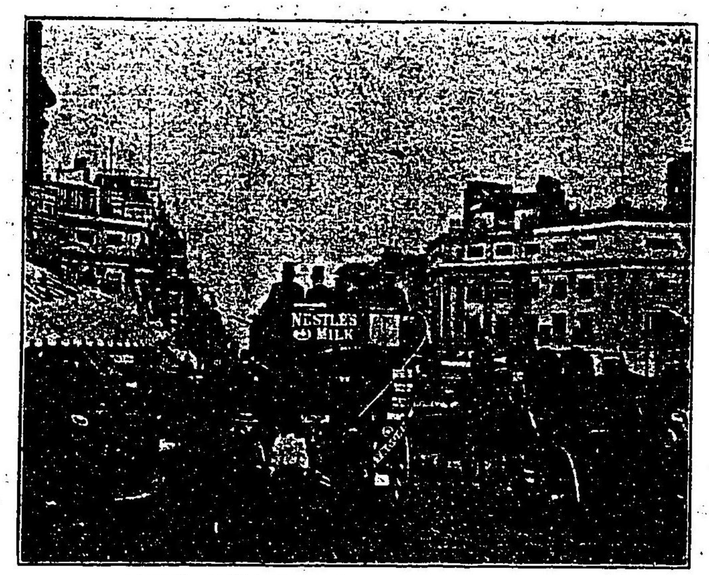
*を重寶な道案内とする。

されば倫敦巡査の大任務は、市民旅客の道しるべをなすことである。

廣大たる倫敦、幾多の村落の集合した都、近き例を取れば東京式で、諸處に渺茫たる牧場的公園を抱き、また馱々廣き荒野もある大倫敦市の交通機關は、其完備せること恐らく世界一であらう。堀割の間を通る地下鐵道

や、地中幾十百尺の下を潜るチューブ鐵道もあれば、街路を走る電鐵あり、この街鐵は最近二三年の間に郡參事會が急速に布設したもので、大市の要路を縫うてゐる。まだ家も建たぬ、場末の荒野の中の立派な大道にも通つてゐる。此等の交通機關に加ふるに、十九世紀の初以來倫敦の名物で、以前は此大都の交通機關を獨占してゐた乘合馬車がある、近年はまた乘合自動車が日增しに多くなる。乘合車は二階式で、グラッドストンは曾て、倫敦市街の見物には、乘合車の二階に限ると云つたものだが、市中を下に見て悠々と乘り往く氣持は頗る宜い。予は之を『天洋丸』と名づけた。『地洋丸』の名は地中鐵道に下した。予は倫敦をぶらつくのに、多くは『地洋丸』の土龍式なチューブを避けて、傲然と市中を瞰下して通る『天洋丸』のトップを選び、流石に虞翁は尤もな事を云ひ殘してくれたものだと感服してゐたのである。街鐵にも亦たこの二階があるから嬉しい。人道を歩いて、乘合車のトップを仰ぎ見れば、シルクハットの紳士、盛裝の淑女が、いかにもえらさうに見える。その又たトップの端へ馭者が坐つて、長き手綱を執つてゐる。扨て又た辻馬車、辻自動車は、車道の中央に並んで客待をしてゐる、縱横無盡に走つてゐる。下町へ往けば、イクラ自動車に乘つてゐても、多くの車が支へてゐるので、進行極めてのろい。巡査君は、この轂擊雜沓の車輛の進行を指揮監督して、乃ち通行權（ライ

ト、オヴ、ウエイ）を保護するのが、容易ならぬ骨折である。



オクスフォルド、サアカス。乘合馬車二階の客

予は倫敦の巡査が好きであつた、又た少からず御世話になつた。純英國人のみを選拔した肥大の巡査、頭には、羅紗張りて、丁髷の附いたヘルメット帽を被つて、腰には棒切一本佩びてゐないが、但し雨の降りさうな日には、桐油合羽をキリ〳〵と短かく卷いたのをぶら下げてゐる――この巡査の風采が僕には一寸氣に入つたのである。兵卒――かの赤服の兵卒、巡査の肥大なるに反して、スラリと痩高の姿勢の好い兵隊さんは頗る意氣なるかなである。勤務中に大毛皮頭巾を被つて、セント、ゼームス宮殿などの警衛をなしてゐる風は甚だ嚴しい

が、外出散歩に少さなキャップを少し横被りにして、二尺くらゐな竹のステッキを持つた樣姿は、女中社會の理想たるらしい。そして夜更けまでも公園などをブラ〳〵遊んでゐる。予は或日曜の夜ハイド、パーク公園で、赤兵君數名を捉へて談話を試みた。赤兵君等は、日本は同盟國なり、日本人は勇敢なりなど云ふのは、予にも豈に好い氣持ならずやてはあつたが、予の赤兵君に就いて聞かんと欲したことは、左樣な御世辭では無かつた。彼等がいかにもノンキさうて、毎日ブラ〳〵やつてゐる、あれでも兵役が勤まつて往くのかしらとの疑があつたから、全體、君等兵士の外出時間は何時までなりやと問へば、毎日正午より夜の十二時過までなりと云ふ。これでは兵隊商賣もノンキな次第だ、女中のメリーや、ブリジエットと手に手を取つて散歩したり、又た臺所で女中から主人の酒肴を無斷で振舞はれつゝ歡樂する餘暇が多いわけである。予は試みに、君等兵士君は夜中公園などをブラ〳〵して、何の樂みがある、それ或は若きお女中君を求むるものならずやと調弄つたれば、勇敢なる赤兵君等は嬉々として笑つた。因に云ふ、女中君が臺所へは赤兵に限らず、巡査も亦た頗る歡迎を受けるのである。かくては主人の酒肉が、流し元で引けることの如何に多きかは、蓋し想ひやらるゝのであるが、主婦は日夜の社交に狂して家に在らず、下女は之を見習つて、臺所を屈竟の社交場裡となすなり。主婦が

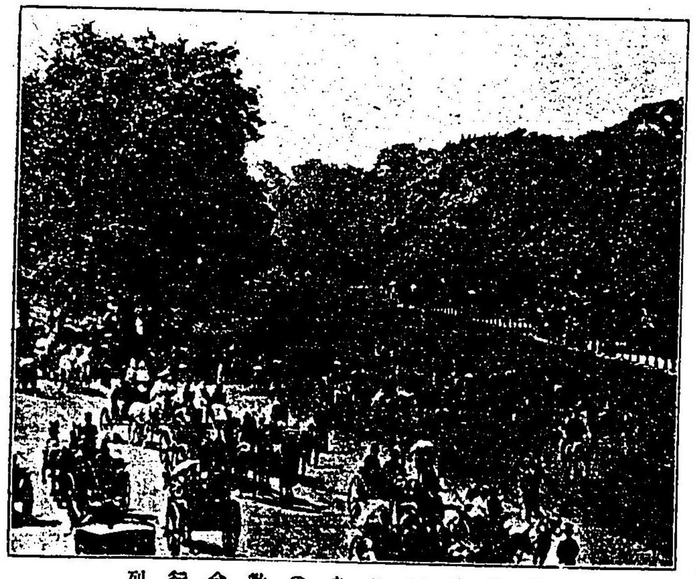
若し小言を云へば、サッサと飛び出す。

兵隊はソンキなやうに見受けられる、勤務練兵は流石に氣樂でもあるまいが、さりとて彼等は皆雇兵であり、徴兵で無いから、氣樂で面白い商賈で無くば、それに加へて赤い奇麗な軍服が着られるので無くば、何を苦しんでか兵隊さんとならうや。市中で、區役所、警察署などの門前には、色繪石版刷の海陸兵募集廣告が、不斷に掲示してある。其繪を見ると、陸兵がクリケット球戯を競ひ、海兵が球突やボート競漕をしてゐる圖がある、各兵科の奇麗な服裝を畫いてある。説明の文句には、一週間の給金は何程、家族の手當の事などより、又た海陸兵たる身分は、いかに多くの快樂を以て滿たさるゝものなるかを記して、つまり兵役とはソンナに面白いものか、一つ應募して見やうかと、青年の好奇心を刺戟するのである。扨てかやうな高札の表によりて罷出てたる兵卒諸君が、果して勇敢なるべきや否やは、予が觀察の限外である。退役兵は會社、ホテル又たは商店、酒店などの玄關番に利用されるのが多く、金ピカの制服を着て澄まし切つてゐる。

日曜日の倫敦は、恰も死せるが如く、眠れるが如く、汽車、電車の數も至つて尠く、酒屋は午後の七時までは休業で、又た早仕舞。料理屋も本日休業なるが多く、されば凡百の商家皆戸

を閉ざして靜まりかへり、店頭の飾窓の中て小猫が遊んでゐるほどにヒッソリしてゐる。僅かに煙草屋の店が開いてゐるに過ぎぬ。午前十一時の教會時間頃になると、會堂に往くも往かぬも、貧家の小兒までが、今日を晴れの日曜服をめかして街へ出る。

前にも云つたやうに、日曜日だと、停車場の飯屋、酒屋までが、旅客であるか否か、乘車券を調べてゞ無いと、中へ通さぬ。既に通つても、十一時の教會時刻となり、此處彼處で寺の鐘が鳴ると、悉く外へ追ひ出される。かゝる有樣だから、住民はイザ知らず、旅客に取りての日曜日の倫敦は、寺院以外に殆ど見るものも、聞くものも無いて、まことに所在が無い。午後には公園



ロッテンロウの教會行列

へても散歩に往つて、美服の婦人の行列か、救世軍乃至社會黨、勞働者の路傍演說でも立聞さするのだ。ハイド、パークのロッテン、ロウて、正午頃に敎會歸りの紳士淑女の所謂『敎會行列』を見るも美しい。又た學問好きなれば、大英博物館が開いてゐるから、それへ往くも可なりだが、不幸にして雨が降るか、霧てもかゝれば、外出して見やうも無く、ホテルや、下宿屋に籠城してゐるより詮方も無い。予の如きは倫敦にゐながら、下宿屋の二階て終日ドテラを着て、寢轉んだ日曜日も多かつた。

地方旅行中に日曜日に會はうものなら、それこそ手も足も出ぬ仕末なのてある。但し海水浴地へ往けば、これは又た別世界て、都會人は金曜日若くは土曜日から、月曜日まてかけて、ウイーク、エンドと稱して海濱湖邊又たは河流に遊ぶ、汽車賃にも割引があるから、左樣な土地の日曜日は、都會の如くに寂莫を歎ずることが無いのてある。

倫敦の日曜日に活躍の氣を存するは、公園の午後てあるは、既に云つたとほり。草原の上に男女相擁して横はることや、『戀人の路』が雜沓する景色は、赤毛布の目を驚かすべき觀察事項てある。併し都會の一角、日曜日に於て最も活動を呈し、他處ては休止の商賈が、此處ては此日に一層景氣附くのは、即ち貧民窟たり、猶太人の巢窟たるイースト、エンドてある。

イスト、エンドの見物は、往々危險を招くことがあるから、巡査か但しは救世軍人に案內して貰へば大丈夫と云ふ話てあつたが、予は或る日曜日に、本田君と二人きりて見物に往つたのてある。ホワイト、チャペルあたりからして、景色に全く別種の觀がある。街上には、怖らしい顏つきの、鼻の大きな赭面の猶太人共が雜沓してゐる。酒店が賑つてゐる。多くの露店がある。古着屋が出てゐる、野菜や肉類店が大聲に客を呼んてゐる、犬の市も立つ。イースト、エンドは倫敦の貧民窟たるのみならず、又た罪惡の伏魔叢てある。ブース大將の『暗黑倫敦』は此地の醜態慘狀を描寫して天下を震駭せしめ、以て救世軍の大社會事業を興したのてある。されど予等一見の客には、左程の醜態慘狀の知れやう筈も無く、貧民窟とは云へど、家は多く煉瓦造なり、道路は廣いから、新網町や萬年町へはいつた程の感じも起らぬが、ウロ〳〵してゐる人間は忌な面相をしてゐる。要するに下等な西洋人は野蠻な相貌をしてゐるものだから、何と無く怖くて、足も自然と早い。加ふるに一種異樣の臭氣に充ちてゐるから、長くブラ〳〵見物してゐることは出來なかつた。

イースト、エンドは下等なる猶太人の巢窟てある。古へ羅馬にありしてふゲットーの猶太人窟を、今爰に倫敦に移せるものてある。猶太人だから、猶太敎に從つて土曜日を祭日となし、

日曜日には活動するのだ。猶太人には國家は無いが、人種的傳說を保守する事が嚴重である

倫敦の大都に住んで、猶太語の新聞を出す、イースト、エンドの町々には、梵字に似たる文字の張札が無數に張出されてある。又た此の區域は、社會黨や無政府黨の跳梁するところで、赤旗の下で、勞働者らしい男が、訛つた言葉を張り上げて、無政府主義の大道演說をしてゐる、警官は相手にもし無い。又た救世軍の樂隊が賑々しく囃し立てゐるのは云ふまでも無い。

倫敦には各種の市場が立つ。コヴエント、ガーデンの野菜市場の景況は、予の如き朝寢坊には見られぬが、倫敦で最も夙く目を覺すものは此市場である。肉類、魚類の市場も處々に在るが、正金銀行支店から、郵船支店へ往く途中で、予が殆ど毎日のやうに通つたレデノル街の肉類市場は小さくはあるが、四百年來の歷史のあるところである。此處で觀察すると、肉食人種たる西洋人が牛肉、豚肉、羊肉を食ふのに、少しも無駄をし無いことが分る。市場の店々で賣つてゐるものには、豚の頭や蹄、牛、羊及び豚の臟腑、腦味噌まである。されば一頭の家畜を屠ると、殆ど棄てるところ無しに食ふのである。して見ると肉の部分ばかりを食ふ日本人は、肉食者としては、頗る贅澤なものである。

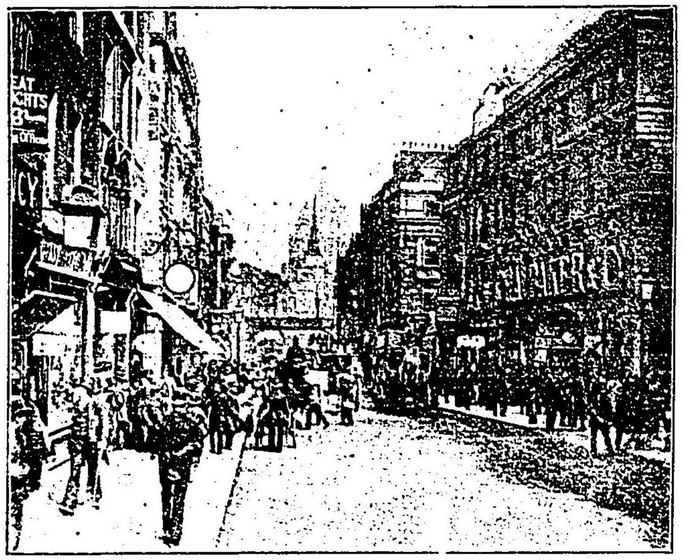
倫敦の北隅、カムデン、タウンには、廣大なる家畜市場があつて、一週に二度宛市が立つ。

此處で又た金曜日の午後になると、屑屋の市がある。市場一面、ガラクタ道具の露店で埋もれて、空瓶、破れ靴までも賣つてゐる。予等がブラ〳〵見て歩いてゐると、日本國の何處の神棚から此處まで轉がつて來たものか、少さな御酒徳利を賣つてゐる屑屋があつた。また『日本郵船株式會社』と燒印を捺した赤緒の麻裏草履一足を朧々と陳列してゐて、價を問へば六片だと云つた。市場の中央には衣類や野菜類の店も出てゐた。凡そ此の屑屋市では、倫敦の貧民が所帶道具一切を仕入れることが出來るのである。予も好奇心から、何か面白いものは無いかと見て廻る中、雙眼鏡を三つ四つ出した露店がある、一つ新らしさうなのを取つて價を聞くと廉いのを、なほ半値に値切つて買ひ、これに儲け物と、下宿へ歸つてから能く〳〵見れば、實は毀れ物なのであつた。

所謂『天洋丸』に駕したり、又た人道をブラ〳〵お拾ひて、ウエスト、エンドやチープサイドあたりの大通りの景況を觀察するのも一つの學問だ。午後になると、人通の多いこと、人の中にも女のねり歩くことの如何に夥しきよ。そして衣類店、寶玉商の飾窓の前に立ちどまる。而して婦人の目を惹き、足を停むる店の多いことかな！

婦人用の衣類裝飾品を賣る店の客人は、當然婦人ばかりである、男子は決して見かけ無い。

賣子も亦た皆女である。予は試みに數ケ所の女物店へはいつて、女兒の洋服やリボンや、下シャツなどを買つて見たが、何だかキマリが悪かつた。賣子の女も、色の黑い日本の男が妙なものを買ひに來たわい、土産にするのであらうと賣つてくれる。女物店へはいるなら、普通、錢勘定が至つて細かい。日本で一錢九厘とでも云ふやうに、六片三ファージ*ング(一ファージングは一片の四分の一)などと、他の店では用ゐぬ端錢を使ふ。或店で予が、いかにも細い勘定をするものだなと云へば、『婦人はファージングがお好きです』と答へた。女と云ふものは何處の國へ往つても細かいものかな、二錢よりか、一錢九厘



フリート街

の方が、彼等には受けが好いのである。

簡便な飯屋、茶店は市中到る處に多いが、中でもライオン會社、またABCの支店が甚だ多い。倫敦人は茶を飲むことを好むが故に、茶店從つて多く、而して茶王リプトン氏の富を增大せしむるのである。博覽會場、展覽會内などには、何ケ處となくラスオンの茶店が出てゐて、黑裳束白前垂の女中が、リプトンの茶を賣る、パンを賣る、ハムを賣る。倫敦人は茶受に蒔苣を食ひ、田芹を食ふのである。ライオンや、ABCの茶店では、女中に心附をやることが禁制であるかはりに、帳場には慈善寄附金箱が下つてゐる。

英國では酒類を賣る店の數が制限されてゐるから、飯屋で酒を賣らぬところが多い。かゝる店でビールでも是非飲みたいと云へば、前金を拂ひ、給仕に賴んで、別の酒店から買つて來て貰ふのである。現內閣はこの酒類販賣制限法を一層嚴重にして、酒店の數を減少せんとし、ライセンス、ビルを議會に提出したが、未だ通過せず。而して酒類業者の反對は猛烈で、昨年秋にはハイド、パークで全國數十萬人の酒屋と彌次馬とが大々的示威運動をやつたが、流石は英國人だ、何の暴動も起らず、人の數こそ多けれ、至つて靜肅なものであつた。町通の板圍や酒店には大々的の廣告畫——爪の長い大きな手が、天上から家屋を一握にせんずる寓意淸の廣告

を張り出して、『急進黨は人の財產を橫奪せんとするものぞ！』と書いてゐた。酒店では非ライセンス、ビルの同意者の連署を募つてゐた、日本人にまでも連判を賴んでゐた。

示威運動て度々やるのは、女權黨の女だてらに荒れも無き猛烈なるものと、又た無職勞働者が、『我等に職業を與へよ』と怒號するものとてある。無職勞働者問題なるかな！　これは英國の大禍根て、永遠の『？』てある。其示威運動振を見るに、破れ車の上に高い框を立て、異樣な脅文句を書き並べて、市中を引廻つてゐることがある。ネルソン記念碑下や、ハイド、パークで示威運動をやる、政府攻擊の演說をする。昨年秋の大示威運動の結果、倫敦郡參事會は數萬金を投じ、無職勞働者の幾分を使用して、バッタシー公園の道路修繕をさせたが、かゝる仕事ぐらゐて、かの無數なる無職者と、此の永遠の『？』との仕末が付くべきもので無い。

我は倫敦を愛す。されど無職浮浪の徒が、町の角にブラつき、公園の草原にゴロ〳〵してゐるのは、此の好きな倫敦を胸惡くさせる。彼等は何か甘い鳥でも羅るだらうかと、ブラ〳〵ゴロ〳〵してゐるのだ。或時本田君が、老人の無職勞働者に道を聞いてゐると、側へまた一人のゴロッキが來て、老人に、お前は今朝から何も食ふまいから、この紳士に六片も貰つたが良からう、わしもお賴みしたいものだと、强請らんことを唆かす。本田君遂に二人の浮浪者に六片

づゝを與へて走り去り、ヤレ〳〵倫敦ては、無職者を捉へて滅多に道も聞くもので無い！

倫敦は廣告の都會てある。東山に『サンライス』の廣告を立てたやうな無趣味なる風致毀損こそせぬ、停車場も、街上の板圍も、乘合車も廣告で埋まつてゐる。而も大々的なること全紙四倍大の美麗なる石版畫のビラが張つてある。停車場で目立のは、牛肉エッキス『ボヴリル』の廣告で、長方形な藍地に白て大きくブリキ板に印刷して掲示してあるから、停車場の名かとも疑はれる、實際サウ思つた人もある。それて予等は一の笑話を得た、『ロンドンの停車場は、皆一つ名稱てある。』曰く『ボヴリル停車場！』

停車場てプラットフォームの軌道に沿つた橫側には、何處ても大低BDVの煙草か、スウオンの萬年筆の廣告かが、ズラリ一面に打つてある。其の構內には商店の廣告ビラあり、博覽會の廣告ビラあり、又た就中劇場の廣告札が最も振つてゐる。抑も鐵道會社が廣告掲示によりて一年收益する所、幾許大なるべきぞ？　政府は又た廣告に稅金を課す。

劇場は廣告ビラが唯一の客引法てある。一芝居に數種の大ビラを美麗に印刷して市中に張り廻す。劇道年鑑を見ると、今年は何處の劇場の廣告ビラが最も成功したと報告してゐる。

市中をブラ〳〵して、所々の板圍を空間無く張詰めた大ビラを見るのは、隙潰しに面白い。

中には頗る振つたものがある。女の姿を畫いた上に『女子投票權に贊成するものは』と書いてある、何の廣告かと能く見れば、『此のウイスキーを飲め』と下に註してある。六頭の巨牛が『オクソ』と云ふ牛肉エッキスの小瓶を注視してゐる畫に、文字は唯だ『我等は七人の同胞なり』(“We are seven”)とウォルヅウォルスの名高い詩題を書いてある。即ち『オクソ』の一瓶は巨牛一頭に當るの意である。

繁華な四角の高い建物の横壁には、往々『リプトン茶』『ボヴリル』、『オクソ』等の大文字が、夜は隱現電燈で人の目を引く。倫敦の廣告は實に其大なるを以て、又た其の多きを以て、他都會に冠たりである。『英國民』の著者ブトミーの評論によると、英國人は神經が鈍いから、廣告は大文字大畫を用ゐざれば効能が薄い。佛國人は神經過敏なので、小さな廣告でも能く利くから、巴里市中では、倫敦市の如くに大々的廣告ビラを見ずとある。倫敦はかやうにして大々的廣告法の都會であるかなれども、中將湯的、毒滅的の廣告を見ること無きは嬉しいかなである。街路にはサンドウイチ式、行燈式の廣告人足が、賑かな處にはグヅ〳〵してゐる。新聞に全紙大の廣告をなすものは、『リプトン茶』か『ボヴリル』の如き營養食料品であつて、『仁丹』『御園白粉』の類ならず。されば若し他のブトミーありて、日英の廣告法を對評するなら、日本人

は賣藥、化粧品の需要多き國民にして、英國人は滋養品に必要多き國民なりと云はんか。

店頭の看板には、其商賣の特質を示すべき傳來的のものが尠い。只だ三つの金玉のブラ下つてゐるのは一六銀行、即ち『をぢさん屋』である。理髮店には、米國式の有平糖も、獨乙式の眞鍮皿も出てゐ無い。或店の軒に一束の藥が吊してあつたのは、何の看板なるかを研究し無かつたが、多分牧草を賣るのであらう。序に云ふ、凡そ看板の類も多いが、露國のパン屋の看板ほど振つてゐるものはあるまい。どのパン屋にも、金塗で寶珠形に結んだ形と、毘口をクワッと開いた形とが出てゐる、また此の二異形に燒いたパンがある。文字は讀めず、店先が見えずとも、この看板さへ見れば其のパン屋たることは一目瞭然たり。

本田君は文部省留學生で、英語學研究が其の專門であつた。予の初めて氏と倫敦にて再會せし時、君は此の倫敦に來て、文部省へは何と報告するかと問ふたら、『英國には、多少英語を話すものがあるとでも』と云つたくらゐ、倫敦ッ兒、乃ちコクネーの英語は、米國下流の人間に劣つてゐる。滿足に發音の出來ぬ語が多い。『ベーバー』が『バイバー』で、『レデー』が『ライデー』で、『ケーク』が『カイク』、『エイト』が『アイト』たるに至つては驚かざるを得ぬ。予は或朝下宿屋の女中に『ダイリー、バイバーが來てゐるか』と威かされたこともある。且の發音を落すのは

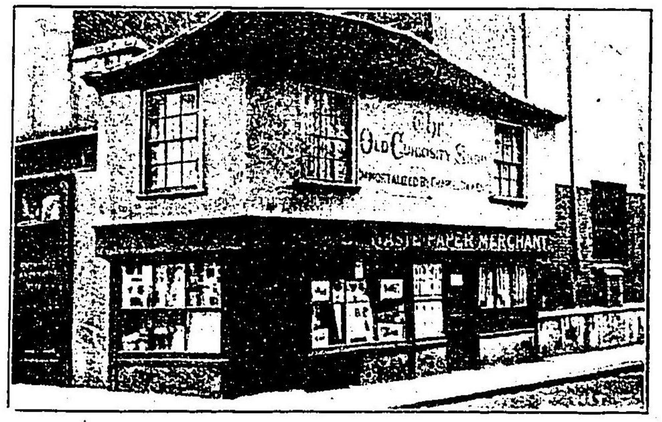
コクネー君のコクネーたるところである。然るに街上到る處、石壁鐵柵にH字が附けてある。倫敦ッ兒がHを落すから、倫敦郡參事會が御丁寧にも路上に斯く拾ひ上げてゐるのであるかと思つたら、これは消火栓（ハイドラント）の所在を示すものである。このハイドラントも倫敦人の喉聲にはアイドラントで、矢張りHは落ちるのだ。

英國人は文字の國民であつて、禮儀が正しいからであるか、汽車、電車内の禁煙、禁唾の掲示までが丁寧で、必ず『何卒』の字が附けてある。米國式に『禁煙罰金何弗』では無くて、『何卒、喫煙なさるな』だから丁寧だ。而も最も丁重なるに至りては『吐唾は衛生上有害なるものに有之候へば、乘客は自からこの惡習を廢せられんことを望む』とある。汽車内の便所にも丁寧な注意書が張つてある。唯だ市有街鐵は御役所の商賣だけに、其電車には『禁唾罰金四十志、附則を見よ』と嚴しく書いてある。

英國人は其發音の如何に關せず、人に對しては丁寧な言語を使ふ。電車の切符を買つても、車掌が『サンキュー、サア』と云へば、乘客も『サンキュー』と云ふ、人に足を踏まれてもサンキューなれば、人込を分けるにもサンキューである。上谷君が下宿を變らうとして、其旨を主婦に申渡すと、『サンキュー』と答へた。予は倫敦でサンキュー、サアの安値なるに驚いたのである。話が分らぬので問ひ返す時には、店の小僧でも『ベク、バードン』（御免なさい）と出て、米國風に『ホワット』（何？）を浴せかけぬから嬉しい。路上で人に突當つて、此方でアッ！と云つてゐる間に、直ぐ向ふからは『サリー！』（御免）だ。此方でやつと『サリー』が出るのは、二三間も行違つてから後だから、曲の我にある時などは赤面する。

英國人は國家の榮光たり、汚辱たる人物の遺跡を保存するに忠實である。以太利人の如くに墓場で飯を食ふの陋をなさずと雖ども、偉人名流の碑蹟は、石を建て、牌を打つて之を後世に傳へることを怠らぬ。ジョンソン博士等が屢ば會飲し、其傳者ボスエルと談論したと云ふチエシヤ、チーズの飯屋は、昔のまゝの質樸を存して通人を招いてゐる。大小説家ヂッケンスによりて永遠不滅の名を傳ふる屑屋（Old Curiosity Shop）は、今も猶ほプールと云ふ紙屑屋で、軒の既に傾いた陋屋が、テンプルや、裁判所の巍々堂々たる大厦高閣の中にションボリ殘つて、ヂッケンスに關する紛葉書を賣つてゐる。其他倫敦にはミルトン。コールドスミス。バイロン。シエレーなどの文豪詩伯の遺蹟多くして、悉く見て廻る時間は無い。

ウオーターロー公園へ菊見に往つての歸途に、ハロウエーの街を歩いてゐると、角に鐵綱のかゝつた石碑が立つてゐた、見るゝ此處ぞ英國御伽噺で、之を知らぬ小兒は無いヂック、ホイ



文豪ヂツケンスの紙屑屋

チントンの遺蹟であると云ふのだ。ヂック、ホイチントンは貧兒で、倫敦の市街は金銀で鋪き詰められてゐると聞いて、田舍から遙々生活の途を求めに出たが、案に相違、倫敦だとて一文の金も落ちてゐ無い。飢ゑ疲れる、人からは虐待される。それで失望して、又たもや故郷へ歸る途中、このハロウエーで石に腰を掛けて休んでゐると、近きお寺の鐘が『ヂックよ倫敦へ歸れ、三度市長になるぞ！』と鳴り響いたから、再び元氣を鼓して倫敦へ引返した。扨てヂックは遂に猫の兒一疋から大金儲をなし、爾後ズン〳〵出世して、三度市長の榮職に舉げられたと云ふのは作話であるが、其の鐘音を聞いた時の石とは乃ち此石碑であると云傳へられてゐる。予はこれは面白いと、ジット見て其文字を讀んでゐると、一人の男が寄つて來て、『おまへさん、この石碑は何か知つてゐるかね？』と

聞くから、『いかにも承知してゐるが、扨てヂックの猫は何處にゐるかね？』と問返したれば、それはモウ無くなつて仕舞つたと云つた。昔は此の近所に、彼の名高い猫の像までもあつたものだ。

取引所の前に、いつも三人くらゐ、赤い衣服を着た靴磨が、足形の附いた小箱を置いて、客を待つてゐる、所々の停車場にも同種の靴磨がゐる。この商賣には片腕が無かつたり、片足の無い不具者が多いやうだ。市街の繁華なところには、玩具、ボタン、靴紐、マッチなどを小さな箱に入れ、頸から前へ懸けて立止まつて賣つてゐる。ゴムの風船球を空へ飛ばして賣るものもある。甘豌豆や薔薇の花束を賣る女は、ピカデリー、サーカスの噴水塔下や、ネソルン碑下に多く、國立美術館附近には、繪葉書や地圖賣りが徘徊してゐる。小車に果物を積んで賣り歩くものや、牛肉の切賣行商もゐる。冬になれば燒栗屋、燒芋屋が街へ出る。四辻の隅では小供等を集めて、時代と共に古めかしい『ポンチとジュデー』の滑稽繰人形を見せ、老爺さんが、妙な臺詞を唸つては、見物中から一文づゝもらつて廻るのがゐる。

下町からウエスト、エンドの賑やか街へ往けば、殆ど何處の角にも新聞賣子が立つてゐる。其日の新聞の重要記事の題目を大活字で印刷したビラ札を、手に下げたり、人道に敷いたりし

て、默つて立つてゐる、賣子には小供もあれば、老人あり、女あり、中には古軍服を着、シルクハットを被つた嚴しいのもゐる。何版も出る夕刊新聞を澤山に抱かへた男が自轉車で驅廻つて、我組合の賣子に配つて賣らせてゐる。夜中ピカデリーの芝居客、女郎、素見連で押しつ押されつの色街を散歩してゐると、屈竟な男の新聞賣が、日本人と見ると、新聞を摺つけて、『日本大勝利號外！』と叫ぶ、『何處の勝利だ？』と調弄へば、『旅順陷落！』と云ふ。『モウ勝利は澤山だ！』とて行過ぐれば尙も尾いて來て、『今日は實に不景氣て、少しも賣れ無いから、ドウぞ一枚買つて下さい』と空泣言を云ふ。又たヨボ〳〵の婆さんや、憐れな女乞食がマッチ、靴紐を買つてくれと强請る。これは秘密なものだ、巡査に見つからぬ中に早くと、人の自然主義を挑發して、怪しさうな袋入りのものを賣付けやうとして、何處までも尾いて來る奴がある。試みに値切倒して買つて見れば、中には別に怪しくも無い粗末な刷畫が二三枚！

十月二十一日は海將ネルソンが、トラファルガアの捷戰に際して、ヴイクトリー艦上に名譽の戰死を遂げた記念日てある。予が此の記念日にトラファルガア、スクエアのネルソン碑下を通つたれば、高き碑柱からは、ネルソンが著名の信號『英國人は其義務を盡すべし』が、信號旗て揭げられてあり、碑下には多くの花環を捧げてあつた。また海兵が隊を整へて、此碑下より聖ポール寺のネルソンの墓に參拜するの途中に在るものにも會つた。此日には又た海軍見習生が、船型の寄附金箱を持つて、彼處此處の町角に立ち、海軍々人遺族扶助資金の爲、通行人から淨財の惠捨を求めてゐた。

話は辻便所に下る。倫敦には宏大美麗な穴藏式辻便所が所々にある。床には石を敷き詰め、壁に陶器板を張り、便器には斷えず水が流れてゐる。凡そ一棟の建築費何十萬圓と云ふものであらう。中には番人がゐて、二片を與へると、湯、石鹼をくれ、手拭、刷毛を貸す。煤煙の倫敦では一日に四五回顏や手を洗つても、度ごと眞黑な汁が出るのだから、自然市中の辻便所內に、此設備が必要となつてゐるのだ。

倫敦街頭の觀察は書けば際限も無いが、先づこれくらゐにして置かう。否、今となつては之れ位しか思ひ出しもせねば、又た既に別項で書いて仕舞つたことも多いのてある。概するに倫敦の市街は、馴るゝにつけて、見るにつけて、趣味の多い所である。伯林や紐育のやうな區劃整然たる新都會では無い、昔より自然に發達したまゝ、村落が集合して成り、中心市街が處々にあり、繁華な市街を一歩横に曲がれば、極めて靜寂な區域があると云ふやうに、複雜な都會である。ヂッケンスが、繁華雜沓のオックスフォルド街を少しく曲つて、ソフオ、スクエアに到

れば、物靜かなること、家に在りて、遠き跫音の喙々として響き來たるを聞くと書いたのは、やがて倫敦大市の狀況を云へるものである。

倫敦が、いかに塵立たうが、秋より後は煤煙を含める暗霧て、咫尺を辨ぜざるの日が多く、市中を歩めば、火事場を行くやうにキナ臭くて、鼻も手も黑くならうが、樹木遲く芽みて早く枯れやうが、又た貧民が多からうが、我等は倫敦に在ることが、何と無く愉快に感ぜらるゝのである。英語を習ひ始めて以來、歴史や文學につけ、其他何かにつけ、外國と云へば倫敦に就いて聞くこと學ぶことが多く、即ち親しみが多かつたのであり、從つて町の名、建築物または偉人の記念碑を見るにつけて、頻りに聯想を促さるゝから、我等は初めて倫敦に入りて、而して舊知の國に歸つたやうな感じが、いくらか催し來つたのである。

英國人氣質

英國人氣質とは題したものゝ、予は之を詐論的、解剖的に筋道立てゝ研究したので無く、又た委しく書かうと思へば、デモランかプトミーの受賣をせねばならぬ。唯だ予は滯英中、目に

觸れ耳に入つたことで、英人氣質の一端を示すと思ふたことを、少し拾ひ書きして見やう。

英國は紳士の國である。法皇グレゴリーが、天使に似たりと稱したるアングル人の子孫である。アングロ、サクソン人種は自重心強く、個人主義を以て經世濟家修身の憲法としてゐる。しかし其の自重心は他を侮蔑するの自尊倨傲て無くて、他人の自重心をも尊敬するのであり、其の個人主義は利己主義て無くて、之を家庭にも國家にも擴充するのてある。英國人の強い愛家愛國心は、即ち此のインヂヴイヂユアリズムの生むところなのてある。英國人は又た其性質として頗る謹厚である、容易に人に許さず、喜怒を輕々しく表はさぬ。蘇國人に至りては殊に然りて、百姓さへ、泣くにも涙は落さぬと云ふ諺がある。英國紳士と初對面の挨拶は、いかにも冷淡なやうに思はれるが、少し親しみを生じて來るなら、實に親切て極めて暖い。未見の紳士と會見しやうとするに、確實な紹介が無ければ、先づ一も二も無く門前拂てある。其紹介狀でも、貴人名士の天下り紹介ては、あまり効が無くて、眞に其當人の尊敬し又た親密にする友人よりの紹介なら、假令、其紹介者が地位の卑い人であらうが、紹介された來客に對して、心の奥に潛める熱情を露はし來るの風てある。米國から態々德望を慕うて來た一青年に對するや、カーライルは冷淡極まる侮蔑の詞で、『貴樣は米國人が、わしは米國が大嫌だ！』と一言云

つたきりで、又た見向きもしなかつたが、さればカーライルは熱情至誠で、貧民の爲に涙を滾ぎ、僞善に慨したる人であつた。このカーライルが即ち英國氣質の典型なのである。

英國の歴史は血を以て書かれてあると云つて可なりて、政權教權の爭亂相繼いて、國民は爲に熱火の爐中に、酷烈なる鍛冶を受け來たつたのである。されば貴き血の價を拂つて購ひ得たる自由と國家とは嫉妬的に之を防護し、孤島の一小王國を以てして、歐洲を蹂躪したる大那翁の足跡を印せしめたること無く、嘗て外國の侮を受けたること無きを誇つてゐる。今日の英國は、實に千有餘年の歴史が、鍛ひに鍛ひて精練したる結果の國家人民なのである。而して又た斯國を以て世界の最舊國なりと稱することが出來る。千有餘年の國家を其儘に維持し、政治上、法律上、又た社會の習慣に於て多くは舊態を保守して、敢て革新改造せず、英國の社會には十世紀と二十世紀とが共に存在してゐるやうな所がある。英國に比ぶれば獨佛は新國なり、稱するに足らず。日本は舊國なりと雖も、維新以來、百事皆改まりて殆ど舊態を存せず、却つて新國たる獨乙を模倣する最新國たるの觀がある。

英國は保守主義で舊物を捨て無いが、また甚だ進歩主義で、新物を攝取するに速かなりてあるから、この最舊國に於て、最も進歩したる文明の施設が備つてゐる。負け嫌ひな英國人は、

我國には此の通りの古い歴史が、今日でも形を存してゐるぞと誇ると共に、又た此通りの進歩發達をなして行くぞと競ふのである。無用な事に在來の舊物舊慣を破壞せずして、新物新習をドシ〳〵迎へる。古き幹を伐つて新しき接穂をしたのでは無くて、千有餘年來の巨擘の生長したやうに發達したる英國は、老樹の木理の數の算へ難きやうに、社會萬般の組織が分り難い、倫敦の市街が迷宮であるやうに、英國の社會組織も亦た迷宮である。法律が不成文の習慣法であるやうに、國家社會の事多くは習慣法で施設せらるゝのであるから、外國人に判明して見やうが無い。名を棄てゝ實を取り、名は昔のまゝでも、實は其名の表すよりも甚だ大いなるものとなつてゐることが多い。大臣と云ふ名稱にさへ幾通りかあつて、名から云へば『商務局長』としか譯されぬものが、實は大臣の職である。以前はこの官職も局長くらゐな任務であつたのに相違無いが、社會の進歩、政治の發達と共に、其職權が增大して來たのである、それでも名は昔のまゝで、而も舊い名稱の方が、歴史附て良いとするのである。大學の校長や教授の稱呼でも、同じオックスフォルド大學中の各大學で異つてゐるから、甚だ記憶し難いが、決してそれを改めやうとはせず、中世紀以來押進してゐる。

政治の組織でも、教育の組織でも甚だ分らぬ。倫敦市長と云へば、大層豪い名前で、また大